



Siebel システム監視および 診断ガイド

バージョン 8.0

2006 年 12 月

ORACLE®

Copyright © 2005, 2006, Oracle. All rights reserved.

このプログラム（ソフトウェアおよびドキュメントを含む）には、オラクル社およびその関連会社に所有権のある情報が含まれています。このプログラムの使用または開示は、オラクル社およびその関連会社との契約に記された制約条件に従うものとします。著作権、特許権およびその他の知的財産権と工業所有権に関する法律により保護されています。独立して作成された他のソフトウェアとの互換性を得るために必要な場合、もしくは法律によって規定される場合を除き、このプログラムのリバースエンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイル等は禁止されています。

このドキュメントに記載されている情報は、予告なしに変更されることがあります。ドキュメントになんらかの問題があるとお気づきの場合は、書面にて当社宛お知らせください。オラクル社およびその関連会社は、このドキュメントに誤りが無いことの保証は致し兼ねます。これらのプログラムのライセンス契約で許諾されている場合を除き、プログラムを形式、手段（電子的または機械的）、目的に関係なく、複製または転用することはできません。

製品のモジュールとオプション。このマニュアルには、オプションの（場合によってはライセンスを未購入の）モジュールの説明が含まれています。Siebel のサンプルデータベースには、これらのオプションのモジュールに関連するデータも含まれています。その結果、実際のソフトウェアの実装がこのマニュアルの説明と異なる場合があります。購入したモジュールについては、購入担当者か Siebel の営業員にお問い合わせください。

このプログラムが米国政府機関、もしくは米国政府機関に代わってこのプログラムをライセンスまたは使用する者に提供される場合は、次の注意が適用されます。

米国政府の権利。米国政府を顧客として引き渡されるプログラム、ソフトウェア、データベース、ならびに関連するドキュメントおよび技術データは、適用される連邦調達規制および各省庁固有の補足規制に従った「商用コンピュータソフトウェア」または「商用技術データ」です。そのため、ドキュメントおよび技術データを含む、本プログラムの使用、複製、開示、変更および翻案は、適用される Oracle 使用許諾契約に定められる使用許諾制約、および該当する範囲で FAR 52.227-19 の「Commercial Computer Software--Restricted Rights」(1987年6月)に定める権利に従うものとします。Oracle USA, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このプログラムは、核、航空産業、大量輸送、医療あるいはその他の危険が伴うアプリケーションへの用途を目的としておりません。このプログラムをかかるとして使用する際、上述のアプリケーションを安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性 (redundancy)、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。万一かかるプログラムの使用に起因して損害が発生いたしましても、オラクル社およびその関連会社は一切責任を負いかねます。

Oracle、JD Edwards、PeopleSoft、および Siebel は米国 Oracle Corporation およびその子会社、関連会社の登録商標です。その他の名称は、他社の商標の可能性がります。

このプログラムは、第三者の Web サイトへリンクし、第三者のコンテンツ、製品、サービスへアクセスすることがあります。オラクル社およびその関連会社は第三者の Web サイトで提供されるコンテンツについては、一切の責任を負いかねます。当該コンテンツの利用は、お客様の責任になります。第三者の製品またはサービスを購入する場合は、第三者と直接の取引となります。オラクル社およびその関連会社は、第三者の製品およびサービスの品質、契約の履行（製品またはサービスの提供、保証義務を含む）に関しては責任を負いかねます。また、第三者との取引により損失や損害が発生いたしましても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

目次

第 1 章： 新機能

第 2 章： Siebel Server ランタイムオペレーションの監視

Siebel Server の状況について	12
Siebel Server のコンポーネントグループの状況について	13
Siebel Server コンポーネントの状況について	14
Siebel Server タスクの状況について	16
コンポーネントジョブの状態について	18
ユーザーセッションについて	19
Siebel アプリケーションの統計について	19
Siebel アプリケーションの状況値について	20
Siebel Enterprise Server の状態の監視	20
Siebel Server の状態の監視	21
Siebel Server の状況の監視	22
Siebel Server コンポーネントグループの監視	22
Siebel Server ログファイルの監視	23
Siebel Server の統計の監視	24
Siebel Server ユーザーセッションの監視	25
Siebel Server タスクの監視	26
Siebel Server コンポーネントの状態の監視	27
Siebel Server コンポーネントの状況の監視	27
Siebel Server コンポーネントの状況値の監視	28
Siebel Server コンポーネントの統計の監視	29
Siebel Server コンポーネントタスクの監視	29
サーバーコンポーネントタスクの状態の監視	31
サーバーコンポーネントタスクの状況の監視	31
サーバーコンポーネントタスクのログファイルの監視	32
サーバーコンポーネントタスクの状況値の監視	33
サーバーコンポーネントタスクの統計の監視	33
コンポーネントジョブの状態の監視	34

ユーザーセッションの状態の監視	34
ユーザーセッションの状況の監視	35
ユーザーセッションのログファイルの監視	36
ユーザーセッションの状況値の監視	37
ユーザーセッションの統計の監視	38
Siebel ランタイムデータを使用したシステムデータの分析	38
Siebel Server ログファイルからのタスクログファイルの識別	38
タスクとオペレーティングシステムデータのマッピングプロセス	39
ユーザーセッションの Siebel Server または AOM へのマッピング	41

第 3 章： Siebel Server およびコンポーネントログの設定

Siebel Server およびコンポーネントログの設定について	43
イベントとイベントログについて	44
イベント属性とログファイルフォーマットについて	45
Siebel Server ログファイルについて	46
コンポーネントログファイルについて	47
Siebel Server ログの設定	47
Siebel Server イベントタイプのログレベルの設定	47
Siebel Server ログファイルの表示	49
Siebel Server ログファイルの例	49
Siebel Server コンポーネントログの設定	51
コンポーネントイベントタイプのログレベルの設定	51
コンポーネントログファイルの表示	53
コンポーネントログファイルの例	53
コンポーネント診断の共通イベントタイプ	57
Application Object Manager 診断の一般的なイベントタイプ	57

第 4 章： Siebel 診断ツールを使用したデータの監視と分析

Siebel 管理フレームワークのアーキテクチャについて	61
Siebel 診断ツールについて	64
Siebel 診断ツールを使用するための前提条件	66
Siebel 診断ツールの起動	67
Siebel 診断ツールのクエリーパラメータフィールドについて	68
Siebel 診断ツール用の設定の指定	69
イベントログ分析を使用したセッションエラーおよびイベントの監視	69
サーバーパフォーマンス分析を使用したサーバーおよびサーバーコンポーネントのデータの監視	73
ユーザーパフォーマンス分析を使用したユーザーセッションの監視	77

第 5 章： SWSE のログと監視の設定

- SWSE ログについて 81
- SWSE ログの設定 82
- SWSE ログファイル Cookie の解析 82
- SWSE の監視について 83
- SWSE Statistics ページの設定 83
- SWSE Statistics ページの表示 84
- SWSE Statistics ページの各項目 85
- SWSE Statistics ページの例 86

第 6 章： その他のシステムログの設定

- システムログの環境変数について 89
- Siebel Gateway Name Server ログファイルの設定 90
- 標準エラーファイルの設定 91
- その他の Siebel Server ログファイルについて 92
- フライトデータレコーダー (FDR) ログファイルについて 92

第 7 章： ハイインタラクティビティ用のクライアント側ログの設定

- ハイインタラクティビティ用のクライアント側ログについて 94
- ハイインタラクティビティ用のクライアント側ログの有効化と無効化 96
- ハイインタラクティビティ用のクライアント側ログのログファイルについて 98
- ハイインタラクティビティ用のクライアント側ログのトレースおよびイベントログレベルの設定について 100
- ハイインタラクティビティ用のクライアント側ログの SiebelLogs ログファイルの表示 102
- ハイインタラクティビティ用のクライアント側ログのログエリアとログシーケンスの例 103
- ハイインタラクティビティ用のクライアント側ログのログアーカイブについて 105

第 8 章： システムログファイルのクエリー

- Log File Analyzer について 107
- ログファイルの分析方法 108
- LFA を使用したログファイルの分析プロセス 109
- Log File Analyzer の設定 109

Log File Analyzer の起動	113
Microsoft Windows での Log File Analyzer の起動	113
UNIX での Log File Analyzer の起動	114
Log File Analyzer のコマンドの実行について	115
LFA クエリーの作成および保存	115
ログファイルでのユーザーのクエリー	115
ログファイルでのリテラル値のクエリー	116
ログファイルでのエラーメッセージのクエリー	117
ログファイルでのセッションのクエリー	117
ログファイルでの特定の重大度のクエリー	118
ログファイルでの特定のログイベントのクエリー	118
ログファイルでの特定のログサブイベントのクエリー	119
特定の時刻よりも後のログファイルのクエリー	119
特定の期間内のログファイルのクエリー	120
ログファイルでのコンポーネントのクエリー	120
複数の条件を使用したログファイルのクエリー	121
LFA のクエリーのフィルター	122
Log File Analyzer の出力のテキストファイルへの保存	123
保存されたクエリー出力の表示	123
Log File Analyzer のクエリーの中断	124
クエリーコマンドのキーワードの表示	124
ログイベントフィールドの表示状態の表示	125
LFA の結果でのログイベントフィールドの表示	125
LFA 結果でのログイベントフィールドの非表示	126
Log File Analyzer の保存されたクエリーの結果の削除	126
Log File Analyzer と実行時の詳細の表示	127
Log File Analyzer を使用したログファイル情報の表示	128
Log File Analyzer の終了	128
Log File Analyzer のエラーメッセージについて	129

第 9 章： Siebel 環境データの取得

Siebel Diagnostic Data Collector について	133
SDDC の実行可能ファイルおよびバイナリについて	134
Microsoft Windows での Siebel 環境データの取得	135
Microsoft Windows での Siebel Diagnostic Data Collector の実行	135

UNIX での Siebel 環境データの取得	137
UNIX での Siebel Diagnostic Data Collector の実行プロセス	137
SDDC を使用するための UNIX 環境の準備	138
UNIX での Siebel Diagnostic Data Collector の実行	138
Siebel 環境データの確認	140
Microsoft Windows での SDDC 出力	141
UNIX での SDDC 出力	143
Microsoft Windows での SDDC の内容の設定	144
UNIX での SDDC の内容の設定	150

付録 A : 統計と状況値のリスト

Siebel Server インフラストラクチャの統計のリスト	153
アプリケーションオブジェクトマネージャの統計のリスト	154
データベースインフラストラクチャの統計のリスト	156
Siebel EAI の統計のリスト	156
Siebel Remote の統計のリスト	157
Communication Server の統計のリスト	161
割当マネージャの統計のリスト	161
Workflow Manager の統計のリスト	162
Siebel Server インフラストラクチャの状況値のリスト	162
アプリケーションオブジェクトマネージャの状況値のリスト	164
Siebel EAI の状況値のリスト	165
Siebel Remote の状況値のリスト	166
Communications Server の状況値のリスト	167

索引

1

新機能

Siebel システム監視および診断ガイド、バージョン 8.0 で説明する新機能

表 1 に、このソフトウェアのバージョン 8.0 に対応するためにこのバージョンのマニュアルに加えられた変更箇所を示します。

表 1 Siebel システム監視および診断ガイド、バージョン 8.0 での変更点

トピック	説明
第 4 章「Siebel 診断ツールを使用したデータの監視と分析」	Siebel 診断ツール機能について説明する章を追加しました。
93 ページの「ハイインタラクティビティ用のクライアント側ログの設定」	ハイインタラクティビティ機能用のクライアント側ログについて説明する章を追加しました。

2

Siebel Server ランタイムオペレーションの監視

Oracle Siebel Server ランタイムオペレーションの監視は、Siebel アプリケーションを管理するために必要な継続的な作業です。ログファイル、状況値、統計などの基準を使用して、Siebel アプリケーションのパフォーマンスを監視します。

この章では、次のトピックについて説明します。

- 12 ページの「Siebel Server の状況について」
- 13 ページの「Siebel Server のコンポーネントグループの状況について」
- 14 ページの「Siebel Server コンポーネントの状況について」
- 16 ページの「Siebel Server タスクの状況について」
- 18 ページの「コンポーネントジョブの状態について」
- 19 ページの「ユーザーセッションについて」
- 19 ページの「Siebel アプリケーションの統計について」
- 20 ページの「Siebel アプリケーションの状況値について」
- 20 ページの「Siebel Enterprise Server の状態の監視」
- 21 ページの「Siebel Server の状態の監視」
- 27 ページの「Siebel Server コンポーネントの状態の監視」
- 31 ページの「サーバーコンポーネントタスクの状態の監視」
- 34 ページの「コンポーネントジョブの状態の監視」
- 34 ページの「ユーザーセッションの状態の監視」
- 38 ページの「Siebel ランタイムデータを使用したシステムデータの分析」

Siebel Server の状況について

インストール後、Siebel Server を Server Manager コンポーネント（エイリアス ServerMgr）に接続すると、次のいずれかの状況になります。

- **【開始中】**：Siebel Server が開始中です。このプロセスが完了すると、状況は【起動中】に変わります。
- **【起動中】**：Siebel Server が実行中で、Siebel Server コンポーネントを実行できます。これは Siebel Server オペレーションの標準モードです。デフォルトでは、Siebel Server は Siebel Server サービスの起動時に【起動中】状況に設定されます。ただしこの動作は、Siebel Server レベルの Auto Startup Mode パラメータ（デフォルトは TRUE）の値に応じて変わります。

Siebel Server が起動するとそのコンポーネントが有効になり、バックグラウンドモードのコンポーネントに対してデフォルト数のタスクがインスタンス化されます。タスクの数は、各コンポーネントの Default Tasks パラメータの値で決まります。

- **【シャットダウン中】**：Siebel Server がシャットダウン中です。このプロセスが完了すると、状況は【シャットダウン】に変わります。
- **【シャットダウン】**：Siebel Server は実行していますが、Siebel Server Manager コンポーネント（Server Manager への接続中は常に動作）以外のコンポーネントタスクが実行されていないため、新しいタスクを開始できません。Siebel Server が【シャットダウン】状況のときに実行できるプロセスは、Siebel Server システムサービスと Siebel Server Manager クライアントの Server Manager だけです。

次の場合には、必ず Server Manager を使用して Siebel Server をシャットダウンします。

- Siebel Server が実行しているサーバーマシンをシャットダウンする場合。これにより、Siebel Server の各コンポーネントを完全にシャットダウンできます。
- 保守を実行するために Siebel Server をシャットダウンする場合。
- Siebel アップグレードウィザードを使用して Siebel Server のソフトウェアを自動アップグレードするために Siebel Server をシャットダウンする場合。

備考：コンポーネントは、Siebel Server をシャットダウンしなくても、個々にシャットダウンしたり無効にしたりできます。

Siebel Server が Server Manager コンポーネント（エイリアス ServerMgr）に接続されていない場合は、次の状況になります。

- **【使用不可】**：Siebel Server は開始されていません。Server Manager が Siebel Server に接続できないので、この Siebel Server 上ではタスクも管理機能も実行できません。
- **【接続に失敗しました】**：Server Manager は Siebel Gateway Name Server から ServerMgr コンポーネントの接続文字列を取得できますが、Siebel Server には接続できません。
- **【ハンドシェイクに失敗しました】**：開始時に、Server Manager は、Siebel Server に ServerMgr コンポーネントのハンドシェイクリクエストを送信します。そのリクエストに失敗すると、この状況になります。また、（タスク数が Maximum Tasks（エイリアス MaxTasks）に達したことが原因で）その特定の Siebel Server 上の ServerMgr コンポーネントが管理クライアントのタスクを開始できない場合にも、この状況になります。MaxTasks パラメータについては、『Siebel システム管理ガイド』および『Siebel パフォーマンスチューニングガイド』を参照してください。
- **【ログインに失敗しました】**：Server Manager は、認証のためにすべての Siebel Server に接続します。いずれかの Siebel Server で認証に失敗すると、【ログインに失敗しました】状況になります。
- **【切断しました】**：Server Manager が Siebel Server に接続されると、Siebel Server は ServerMgr コンポーネントのタスクを開始します。（クラッシュやその他の問題が原因で）そのタスクが終了すると、【切断しました】状況が表示されます。

Siebel Server の状態フィールド

各 Siebel Server レコードには、Siebel Server の状態が表示される 3 つのフィールドがあります (表 2)。

表 2 Siebel Server の状態フィールド

GUI のカラム名	コマンドラインインターフェイスのカラム名	説明
サーバー状況 (内部)	SBLSRVR_STATE	ENU 言語コードによる Siebel Server の状況
サーバー状況	SV_DISP_STATE	適切な言語コードによる Siebel Server の状況
状況 (アイコン)	なし	Siebel Server の状況を信号の色で表したものの。緑は正常な状況を示します。赤は動作していない状況を示します。アイコンフィールドをクリックすると、カラーコードに関連付けられた状況値がわかります。

Siebel Server のコンポーネントグループの状況について

コンポーネントグループは、次に示す複数の状況のいずれかになります。実行状況はコンポーネントの有効状況に依存します。Siebel Server の起動時に [オンライン] 状況だったコンポーネントグループだけが、[オンライン] または [起動中] の実行状況になります。

- **[オンライン]**：コンポーネントグループ内のすべてのコンポーネントは、タスクを実行できます。
- **[起動中]**：コンポーネントグループ内のすべてのコンポーネントは有効で、このグループ内の少なくとも 1 つのコンポーネントがタスクを実行しています。
- **[シャットダウン]**：コンポーネントグループ内のすべてのコンポーネントがシャットダウンされています。このグループ内のコンポーネントに対してタスクは実行できません。
- **[一部シャットダウン]**：コンポーネントグループ内で、少なくとも 1 つのコンポーネントがシャットダウンされているか、シャットダウン中です。
- **[オフライン]**：コンポーネントグループ内のすべてのコンポーネントがオフラインです。
- **[一部オフライン]**：コンポーネントグループ内で、少なくとも 1 つのコンポーネントがオフラインになっているか、使用できません。
- **[開始中]**：コンポーネントグループ内で、少なくとも 1 つのコンポーネントが開始中です。

サーバーコンポーネントグループの状態フィールド

各 Siebel Server コンポーネントグループレコードには、状態が表示される 3 つのフィールドがあります (表 3)。

表 3 Siebel Server コンポーネントグループの状態フィールド

GUI のカラム名	コマンドラインインターフェイスのカラム名	説明
状況	CA_RUN_STATE	ENU 言語コードによるサーバーコンポーネントグループの状況
実行状況 (内部)	CA_RUN_STATE	適切な言語コードによるサーバーコンポーネントグループの状況
状況 (アイコン)	なし	サーバーコンポーネントグループの状況を信号の色で表したものの。緑は正常な状況を示します。黄色は一時的に動作していない状況を示します。赤は動作していない状況を示します。アイコンフィールドをクリックすると、カラーコードに関連付けられた状況値がわかります。

Siebel Server コンポーネントの状況について

Siebel Server コンポーネントの状況は、[開始中]、[オンライン]、[起動中]、[オフライン]、[シャットダウン中]、[シャットダウン]、[使用不可] のいずれかになります。

Siebel Server コンポーネントの状況は、コンポーネントが属するコンポーネントグループの割り当て状況に応じて変わります。Siebel Server の起動時に割り当て済みコンポーネントグループ内にあった Siebel Server コンポーネントだけが、[起動中] または [オンライン] になります。

- **[開始中]** : Siebel Server コンポーネントが開始中です。このプロセスが完了すると、状況は [オンライン] に変わります。コンポーネントに対して新しいタスクが開始されると、コンポーネントの状況は初期化の段階の [起動中] から [実行中] に変わります。
- **[オンライン]** : Siebel Server コンポーネントに対してタスクは実行されていませんが、Siebel Server Manager を介して (またはインタラクティブモードのコンポーネントの場合は、クライアントのリクエストに応じて) 新しいタスクを開始できます。Siebel Server が起動すると、デフォルトでプロセスが開始されないコンポーネントがすべてオンラインになります。
- **[起動中]** : Siebel Server 上の Siebel Server コンポーネントに対してタスクが実行中で、新しいタスクを開始できます。タスク数の上限は、コンポーネントの Maximum Tasks パラメータ値で決まります。Siebel Server が起動すると、デフォルトでプロセスが開始されるバックグラウンドモードのコンポーネント (Default Tasks パラメータが 0 以外の値に設定されているコンポーネント) がすべて開始します。

- **【オフライン】**: コンポーネントに対して新しいタスクは開始できませんが、現在のタスクを続けて実行する（バックグラウンドモードのコンポーネントの場合）、または完了するまで実行する（バッチモードおよびインタラクティブモードのコンポーネントの場合）ことはできます。

Siebel Server 外部のシステム管理操作を実行するために、個々のコンポーネントを無効にすることができます。たとえば、Synchronization Manager コンポーネントを無効にして、ドッキングサブディレクトリのファイルシステムを再編成することができます。

Siebel Server 上で開始されるマルチスレッドプロセスを最小限に抑えるために、実行する予定のないコンポーネントを無効にできます。

また、データベースのライセンス数に応じて、コンポーネントを無効にすることもできます。データベースでライセンス許諾されている最大接続数を超えた場合、使用しない Siebel Server コンポーネントを無効にできます。無効にできるのは、エンタープライズ全体を通じてタスクを実行しないコンポーネントだけです。マルチスレッド Siebel Server コンポーネントの Min MT Servers パラメータを 0 に設定すると、サーバーコンポーネントはタスクを実行できなくなります。

オフラインのコンポーネントは [オンライン] (オフラインのコンポーネントに対してタスクが実行されている場合は [開始済み]) または [シャットダウン] に設定できます。[シャットダウン] に設定すると、実行中のタスクは可能な限り完全に停止されます。

- **【シャットダウン中】**: Siebel Server コンポーネントがシャットダウン中です。このプロセスが完了すると、状況は [シャットダウン] に変わります。
- **【シャットダウン】**: コンポーネントのプロセスは実行しておらず、新しいタスクも開始できません。コンポーネントのシャットダウン時に実行している各タスクは、可能な限り速やかに停止されます。Siebel Server がシャットダウンされると、すべてのコンポーネントが [シャットダウン] に設定されます。ただし Siebel Server Manager コンポーネントだけは、Siebel Server Manager で実行される管理コマンドを実行するために [オンライン] のままになります。バックグラウンドモードのコンポーネントでは、Default Tasks パラメータに 0 以外の値が設定されている場合、[シャットダウン] に設定しても [オンライン] または [開始済み] に設定されます。
- **【使用不可】**: Siebel Server プロセスが実行中であるべき場合にもかかわらず、コンポーネントのプロセスが実行されていません。Min MT Servers パラメータに 0 よりも大きな値が設定されている場合、コンポーネントに対して Siebel Server プロセスが実行されていないと、マルチスレッド Siebel Server コンポーネントの状況は [使用不可] になります。この場合、Siebel Server コンポーネントはエラーで終了し、初期化できなかったために使用不能になります。データベース接続がダウンした場合も、Siebel Server コンポーネントは [使用不可] になります。この場合、データベース接続を再確立した後で、Siebel Server コンポーネントを再起動する必要があります。

サーバーコンポーネントの状態フィールド

各サーバーコンポーネントレコードには、状態が表示される 2 つのフィールドがあります (表 4)。

表 4 サーバーコンポーネントの状態フィールド

GUI のカラム名	コマンドラインインターフェイスのカラム名	説明
コンポーネント状況	CP_DISP_RUN_STATE	適切な言語コードによる Siebel Server コンポーネントの状況
状況 (アイコン)	なし	Siebel Server コンポーネントの状況を信号の色で表したものの。緑は正常な状況を示します。黄色は一時的に動作していない状況を示します。赤は動作していない状況を示します。アイコンフィールドをクリックすると、カラーコードに関連付けられた状況値がわかります。

Siebel Server タスクの状況について

Siebel Server タスクは、Siebel Server コンポーネントをインスタンス化したものです。Siebel Server タスクを実行するには、1 つまたは複数の Siebel Server タスクの実行を要求するコンポーネントジョブを実行する必要があります。コンポーネントジョブについては、『Siebel システム管理ガイド』を参照してください。

Siebel Server タスクの状況は、基本的に [起動中]、[一時停止]、[停止中]、[完了] の 4 つのいずれかになります。

- **[起動中]**：タスクは正常に実行されています。タスクの実行中に、タスクの状態、コンポーネントによって生成されるタスクの進捗状況 (またはオペレーションの段階) を示すメッセージが定期的に更新されます。

- バックグラウンドモードのコンポーネントタスクは、手動で停止されるまで、または Siebel Server あるいはサーバーコンポーネントがシャットダウンされるまで実行されます。
- バッチモードのコンポーネントタスクは、割り当てられている作業が終了するまで実行されます。
- インタラクティブモードのコンポーネントタスクは、クライアントが接続からログアウトするまで (あるいはタスク、サーバーコンポーネント、または Siebel Server がシャットダウンされるまで) 実行されます。

実行中のコンポーネントタスクは明示的に停止できます。

- **[一時停止]**：タスクは一時停止状況です。一時停止中のタスクによって共有システムリソースが排他的に保持されたり (ファイルロックやデータベースロックなど)、プロセッサや I/O サイクルが使用されたりすることはありません。別の重要なタスクを処理する場合、タスクを一時停止してシステムを一時的に解放します。この場合は、後でタスク全体を再起動する必要がありません。一時停止したタスクは、後で再開することも停止することもできます。

備考：一時停止できるのは、特定のコンポーネントタイプから実行されたタスクだけです。これらのコンポーネントタイプについては、『Siebel システム管理ガイド』を参照してください。

- **[停止中]**：タスクの停止命令が出されたか、またはサーバーコンポーネントまたは Siebel Server がシャットダウンされています。シャットダウンプロセスに時間がかかる場合は、別の Stop コマンドを実行して強制的にシャットダウンすることができます。この場合の状況は [強制シャットダウン] になります。停止命令が出されたタスクは、再開できない場合があります。

- **【完了】**：タスクの実行はすでに終了しました。完了したタスクは再起動できませんが、同じサーバーコンポーネントに対して別のタスクを開始することはできます。[完了] 状況は、タスクの処理がどのように終了したかに応じて、次のように分かります。
 - [完了]：タスクの実行が完了し、正常に終了しました（バッチモードおよびインタラクティブモードのタスクだけ）。
 - [エラー終了しました]：タスクの処理中にエラーが発生しました（無効な入力値やデータベースエラーなど）。この場合は、[タスク状況] フィールドに、発生したエラーのエラー識別子が表示されます。
 - [強制終了]：タスクを完全にシャットダウンできなかったため、ユーザーが強制的にタスクをシャットダウンしました。

タスクの状態フィールドについて

各 Siebel Server レコードには、Siebel Server の状態が表示される 3 つのフィールドがあります（表 5）。

表 5 タスクの状態フィールド

GUI のカラム名	コマンドラインインターフェイスのカラム名	説明
タスク状況	TK_RUNSTATE	適切な言語コードによるタスクの状況
状態	TK_STATUS	すべてのコンポーネントタスクは、オペレーションの実行時にさまざまな状況値を設定します。タスクビューの [状態] カラムとコマンドラインインターフェイスの TK_STATUS カラムには、状況値 [タスク状況]（エイリアス TaskStatus）の値が表示されます。
状況（アイコン）	なし	タスクの状況を信号の色で表したものの。緑は正常な状況を示します。黄色は一時的に動作していない状況を示します。赤は動作していない状況を示します。アイコンフィールドをクリックすると、カラーコードに関連付けられた状況値がわかります。

Siebel Server タスク ID について

Siebel Server タスク ID は、Siebel Server タスクを識別するもので、GUI の各種ビューだけでなく、Siebel Server やコンポーネントのログファイルでも参照されます。この識別番号により、個々のタスクおよびタスクの適切なログファイルを容易に検索できます。イベントログおよびログファイルについては、[46 ページの「Siebel Server ログファイルについて」](#)を参照してください。

タスク ID は、各 Siebel Server によって各 Siebel Server タスクに対して 1 から順番に割り当てられます。タスク ID 番号は、Siebel Server が再起動されるたびに 1000 ずつ増えます。割り当てることができる最大のタスク ID 番号は、262144 (256×1024) です。タスク ID 番号は、最大数に達するとまた 1 に戻ります。

コンポーネントジョブの状態について

コンポーネントジョブの作成後、必ず次のリストのいずれかの状態になります。コンポーネントジョブの開始については、『Siebel システム管理ガイド』を参照してください。コンポーネントジョブの状態の監視については、[34 ページの「コンポーネントジョブの状態の監視」](#)を参照してください。

- **【作成中】** コンポーネントジョブレコードの定義中です。
- **【キュー済み】** コンポーネントジョブレコードが開始され、実行されるようにスケジュール済みです。コンポーネントジョブフィールドの [予定開始日] は、コンポーネントジョブをいつ実行するかを定義します。
- **【有効】** スケジュール済みコンポーネントジョブの実行中です。
- **【保留中】** コンポーネントジョブが保留中で、[予定開始日] に実行されません。保留中にすることができるのは、行列待ち状況のコンポーネントジョブだけです。
- **【取消済み】** コンポーネントジョブは取り消されています。取り消すことができるのは、行列待ち状況または保留状態のコンポーネントジョブだけです。
- **【取消中】** コンポーネントジョブの取消中です。
- **【エラー】** コンポーネントジョブは実行していますが、操作中にエラーが発生しました。
- **【成功】** コンポーネントジョブは実行され、正常に完了しています。
- **【完了】** すべての繰り返しコンポーネントジョブが正常に完了しました。
- **【期限切れ】** コンポーネントジョブは期限切れです。コンポーネントジョブフィールドの [失効日] は、コンポーネントジョブをいつ失効させるかを定義します。
- **【取り消された親リクエスト】** 繰り返しコンポーネントジョブの最初のコンポーネントジョブが取り消されました。繰り返しコンポーネントジョブの最初のコンポーネントジョブは、親ジョブと見なされます。
- **【保留中の親リクエスト】** 繰り返しコンポーネントジョブの最初のコンポーネントジョブは保留中です。繰り返しコンポーネントジョブの最初のコンポーネントジョブは、親ジョブと見なされます。

ユーザーセッションについて

ユーザーセッションには、Siebel Server にログインしたユーザーに関するデータと、Siebel アプリケーションによって作成されたセッションに関するデータが含まれます。ユーザーセッションは、すべてのインタラクティブコンポーネントタスクで構成されています。

ユーザーセッションは、Siebel Server コンポーネントタスクに基づいて実行されます。したがって、ユーザーセッションには Siebel Server コンポーネントタスクのプロパティがあります。個々のユーザーセッションの [セッション ID] フィールドは、セッションを実行しているコンポーネントタスクのタスク ID と同じ ID 番号を共有しています。つまり、ユーザーセッションの情報は、ユーザーセッションまたはタスクとして表示できます。

ユーザーセッションの監視とその手順については、[34 ページの「ユーザーセッションの状態の監視」](#)を参照してください。

タスクの監視とその手順については、[31 ページの「サーバーコンポーネントタスクの状態の監視」](#)を参照してください。

Siebel アプリケーションの統計について

Siebel Server コンポーネントのタスクごとに、さまざまな統計がタスクレベルで記録されます。これらの統計を使用して、次のことを行えます。

- タスク、コンポーネント、Siebel Server の進捗状況とパフォーマンスの監視
- システムパフォーマンスの最適化

タスクのオペレーションが完了すると、タスクのオペレーション中に動的に収集されたタスクレベルの統計は、コンポーネントレベルおよび Siebel Server レベルにロールアップされます。

タスクレベルの Siebel Server 統計には、次の 2 つのタイプがあります。

- **サブシステムの統計**：すべてのコンポーネントプロセスに共通（プロセス管理、ネットワークング、データベースアクセス、ファイル I/O など）で、コンポーネントタスクごとに追跡されます。
- **コンポーネント固有の統計**：該当するのは、統計が定義されているコンポーネントだけです。

コンポーネントのタスクのオペレーションが完了すると、汎用統計およびコンポーネント固有の統計の両方がコンポーネントレベルにロールアップされます。Siebel Server レベルまでロールアップされるのは、汎用統計だけです。

コンポーネントレベルの統計には、インタラクティブモードコンポーネントとバッチモードコンポーネントのすべての完了したタスクのデータが含まれています。実行中のコンポーネントタスクの統計は含まれません。タスクを直接確認して、インタラクティブモードコンポーネントとバッチモードコンポーネントでのタスク実行の統計を監視します。タスクの統計の監視については、[33 ページの「サーバーコンポーネントタスクの統計の監視」](#)を参照してください。バックグラウンドモードコンポーネントでは、コンポーネントタスクは終了してはならないので、統計ロールアップの動作はわずかに異なります。バックグラウンドコンポーネントでは、コンポーネントタスクの実行によって統計値が更新されると、コンポーネントの統計が変わります。

Siebel アプリケーションの統計のリストと簡単な説明については、[付録 A「統計と状況値のリスト」](#)を参照してください。

備考：一部の Siebel アプリケーションの統計が表示されない場合、サーバーコンポーネント Server Manager (エイリアス ServerMgr) のパラメータ Show Advanced Objects (エイリアス ShowAdvancedObjects) を TRUE に設定します。詳細オブジェクトについては、『Siebel システム管理ガイド』を参照してください。

Siebel アプリケーションの状況値について

状況値には、タスクまたはタスクが実行されているコンポーネントの現在のオペレーションに関する情報が含まれています。コンポーネントタスクは状況値を定期的に更新して、現在の処理に関する情報（オペレーションの現在の段階など）を示します。状況値は、コンポーネントレベルとタスクレベルで定義されます。コンポーネントレベルの状況値は、コンポーネント全体の状況を示します。タスクレベルの状況値は、Siebel Server コンポーネントの各プロセスの状況を示します。

コンポーネントとコンポーネントタスクの状況値には次の 2 つのタイプがあります。

- **サブシステムの状況値**：各コンポーネント（Component Start Time や Component Stop Time など）とそのサブシステムを使用するコンポーネントタスク（Task Start Time や Task Stop Time など）の状況値です。
- **コンポーネント固有の状況値**：各コンポーネントとコンポーネントタスクの状況値です。定義済みのコンポーネントだけ適用されます。

Siebel Enterprise Server の状態の監視

Siebel Enterprise Server の Siebel Server の状態は、Server Manager の GUI または Server Manager のコマンドラインインターフェイスプログラム（srvrmgr）を使用して監視します。Siebel Enterprise Server の設定タスクや基本情報については、『Siebel システム管理ガイド』を参照してください。

Server Manager の GUI で Siebel Enterprise Server を監視するには

- 1 [管理—サーバー] 画面に移動します。
- 2 リンクバーの [エンタープライズオペレーション] をクリックします。
 - 使用できる Siebel Enterprise Server の名前と説明が [エンタープライズサーバー] リストに表示されます。
 - 選択した Siebel Enterprise Server の Siebel Server の状況が [Siebel サーバー] リストに表示されます。Siebel Server の状況については、[12 ページの「Siebel Server の状況について」](#)を参照してください。
 - 選択した Siebel Server の Siebel Server コンポーネントの状況が [コンポーネント] リストに表示されます。Siebel Server コンポーネントの状況については、[14 ページの「Siebel Server コンポーネントの状況について」](#)を参照してください。

図 1 に、Siebel Server が 1 台の Siebel Enterprise Server の例を示します。

The screenshot shows two panels. The top panel, titled 'Enterprise Servers', has a 'Menu' dropdown and '1 - 1 of 1' on the right. It contains a table with two columns: 'Enterprise Server' and 'Description'. A single row is visible with 'siebel' in the first column and 'Siebel Enterprise Server' in the second.

The bottom panel, titled 'Siebel Servers', has 'Menu', 'Query', 'Startup', and 'Shutdown' buttons, and '1 - 1 of 1' on the right. It contains a table with columns: 'State', 'Siebel Server', 'State', 'PID', 'Host Name', 'Start Time', and 'End Time'. A single row is visible with a green state indicator, 'sdc6000015' in the Siebel Server column, 'Running' in the State column, '6760' in the PID column, 'sdc6000015' in the Host Name column, and '11/12/2003 03:06:19 PM' in the Start Time column.

図 1 Siebel Server が 1 台の Siebel Enterprise Server の例

srvrmgr で Siebel Enterprise Server を監視するには

- srvrmgr プログラムのプロンプトで次のように入力します。

```
list servers
```

備考: 特定の Siebel Server について Server Manager のコマンドラインインターフェイスプログラムを起動していないことを確認します。したがって、/s フラグを使用して Server Manager のコマンドラインインターフェイスを起動しないでください。

Server Manager のコマンドラインインターフェイスプログラムの起動、実行、設定については、『Siebel システム管理ガイド』を参照してください。

Siebel Server の状態の監視

Siebel Server の状態は、Server Manager の GUI または Server Manager のコマンドラインインターフェイスプログラム (srvrmgr プログラム) を使用して監視します。次の項では、Siebel Server を監視する手順について説明します。

- 22 ページの「Siebel Server の状況の監視」
- 22 ページの「Siebel Server コンポーネントグループの監視」
- 23 ページの「Siebel Server ログファイルの監視」
- 24 ページの「Siebel Server の統計の監視」
- 25 ページの「Siebel Server ユーザーセッションの監視」
- 26 ページの「Siebel Server タスクの監視」

実行手順や設定設定など、Siebel Server の基本情報については、『Siebel システム管理ガイド』を参照してください。

Siebel Server の状況の監視

Siebel Server の状態は、Server Manager の GUI または Server Manager のコマンドラインインターフェイスプログラム (srvrmgr) を使用して監視します。

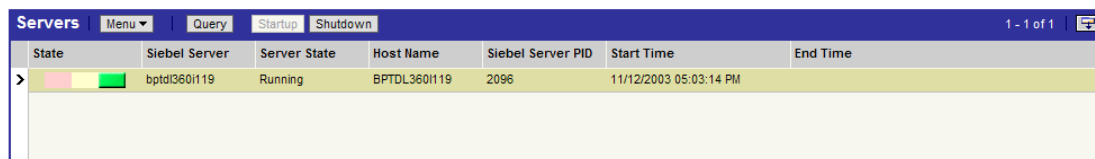
Siebel Server の考えられる状況については、[12 ページ](#)の「Siebel Server の状況について」を参照してください。

その他の Siebel Server ランタイムオペレーションの監視については、[21 ページ](#)の「Siebel Server の状態の監視」を参照してください。

Server Manager の GUI で Siebel Server の状況を監視するには

- 1 [管理 - サーバー] 画面に移動します。
- 2 リンクバーから、[サーバー] をクリックします。
- 3 [サーバー] リストで、対象の Siebel Server を選択します。
- 4 [状況] または [サーバー状況] フィールドを参照して、選択した Siebel Server の状況を確認します。

図 2 に、Siebel Server の状況を監視する例を示します。



State	Siebel Server	Server State	Host Name	Siebel Server PID	Start Time	End Time
Running	bptdl360119	Running	BPTDL360119	2096	11/12/2003 05:03:14 PM	

図 2 サーバーリストの Siebel Server の例

srvrmgr で Siebel Server の状況を監視するには

- srvrmgr プログラムのプロンプトで次のように入力します。

```
list servers
```

srvrmgr プログラムの起動、実行、および設定については、『Siebel システム管理ガイド』を参照してください。

Siebel Server コンポーネントグループの監視

Siebel Server のコンポーネントグループの状態は、Server Manager の GUI または Server Manager のコマンドラインインターフェイスプログラム (srvrmgr) を使用して監視します。

Siebel Server のコンポーネントグループの状況については、[13 ページ](#)の「Siebel Server のコンポーネントグループの状況について」を参照してください。

その他の Siebel Server ランタイムオペレーションの監視については、[21 ページ](#)の「Siebel Server の状態の監視」を参照してください。

Server Manager の GUI でコンポーネントグループを監視するには

- 1 [管理-サーバー] 画面に移動します。
- 2 リンクバーから、[サーバー] をクリックします。
- 3 [サーバー] リストで、対象の Siebel Server を選択します。
- 4 タブで [コンポーネントグループ] をクリックします。
- 5 各コンポーネントグループレコードの [実行状況] フィールドと [状況有効化] フィールドを参照して、選択した Siebel Server のコンポーネントグループの状況を確認します。

図 3 に、コンポーネントグループの監視の例を示します。

The screenshot shows the Siebel Server Manager interface. The top section displays a single server record for 'bptdl360119' in a 'Running' state. Below this, the 'Component Groups' tab is active, showing a table of component groups for that server.

State	Siebel Server	Server State	Host Name	Siebel Server PID	Start Time	End Time
Running	bptdl360119	Running	BPTDL360119	2096	11/12/2003 05:03:14 PM	

State	Name	# of Components	Run State	Enable State	Description
Running	Communications Management	9	Running	Enabled	Communications Management Components
Running	Siebel Call Center	2	Running	Enabled	Siebel Center Components
Online	Siebel ISS	3	Online	Enabled	Siebel ISS Components
Online	Siebel Sales	2	Online	Enabled	Siebel Sales Components
Running	System Management	10	Running	Enabled	System Management Components
Running	Workflow Management	6	Running	Enabled	Workflow Management Components

図 3 Siebel Server のコンポーネントグループの状態の例

srvrmgr でコンポーネントグループを監視するには

- srvrmgr プログラムのプロンプトで次のように入力します。

```
list component groups for server siebel_server_name
```

srvrmgr プログラムの起動、実行、および設定については、『Siebel システム管理ガイド』を参照してください。

Siebel Server ログファイルの監視

Siebel Server のログファイルは、Server Manager の GUI を使用して監視します。また、ファイルに手動でアクセスして、または Log File Analyzer (LFA) ユーティリティを使用してファイルにクエリーを実行して、Siebel Server のログファイルを確認することもできます。

- Siebel Server のログファイルの基本情報については、46 ページの「Siebel Server ログファイルについて」を参照してください。
- LFA の基本情報については、107 ページの「Log File Analyzer について」を参照してください。
- イベントログの基本情報については、43 ページの「Siebel Server およびコンポーネントログの設定について」を参照してください。

その他の Siebel Server ランタイムオペレーションの監視については、21 ページの「Siebel Server の状態の監視」を参照してください。

Server Manager の GUI で Siebel Server ログファイルを監視するには

- 1 [管理-サーバー] 画面に移動します。
- 2 リンクバーから、[サーバー] をクリックします。
- 3 [サーバー] リストで、対象の Siebel Server を選択します。
- 4 ビュータブの [ログ] をクリックします。

[ログ] ビューリストの各エントリは、Siebel Server ログファイルに記録されたイベントを表します。各エントリについては、対象のレコードをクリックし、[情報詳細] ビューで情報を確認します。

備考： Server Manager の GUI は、個々の Siebel Server のログディレクトリから Siebel Server のログファイルにアクセスします。Siebel Server のログファイルでは、次のような命名規則を使用します。

EnterpriseServerName.SiebelServerName.log

Siebel Server の統計の監視

Siebel Server の統計は、Server Manager の GUI または Server Manager のコマンドラインインターフェイスプログラム (svrvmgr) を使用して監視します。Siebel Server の統計の基本情報とリストについては、[付録 A 「統計と状況値のリスト」](#) を参照してください。

その他の Siebel Server ランタイムオペレーションの監視については、[21 ページの「Siebel Server の状態の監視」](#) を参照してください。

Server Manager の GUI で Siebel Server の統計を監視するには

- 1 [管理-サーバー] 画面に移動します。
- 2 リンクバーから、[サーバー] をクリックします。
- 3 [サーバー] リストで、対象の Siebel Server を選択します。
- 4 タブの [統計] をクリックします。

選択した Siebel Server の統計が [統計] リストに表示されます。Siebel Server の統計のリストと説明については、[付録 A 「統計と状況値のリスト」](#) を参照してください。

svrvmgr で Siebel Server の統計を監視するには

- 特定の Siebel Server の svrvmgr プログラムプロンプトで次のように入力します。

```
list statistics for server siebel_server_name
```

svrvmgr プログラムの起動、実行、および設定については、『Siebel システム管理ガイド』を参照してください。

Siebel Server ユーザーセッションの監視

特定の Siebel Server のユーザーセッションは、Server Manager の GUI または Server Manager のコマンドラインインターフェイスプログラム (srrmgr) を使用して監視します。

ユーザーセッションの基本情報については、19 ページの「ユーザーセッションについて」を参照してください。

その他の Siebel Server ランタイムオペレーションの監視については、21 ページの「Siebel Server の状態の監視」を参照してください。

Server Manager の GUI で Siebel Server ユーザーセッションを監視するには

- 1 [管理-サーバー] 画面に移動します。
- 2 リンクバーから、[サーバー] をクリックします。
- 3 [サーバー] リストで、対象の Siebel Server を選択します。
- 4 タブの [セッション] をクリックします。
- 5 [状況]、[タスクのハング状態]、および [状態] フィールドを参照して、選択した Siebel Server のユーザーセッションの状態を確認します。

個々のユーザーセッションの監視については、セッション ID 番号を書き留めて、34 ページの「ユーザーセッションの状態の監視」を参照してください。

図 4 に、Siebel Server ユーザーセッションの監視の例を示します。

State	PID	Session Id	Component	OM Login	Task Hung State	Status	OM Applet	OM BC	OM BS
Running	3,944	16469	SRBroker	COMP.CommOutbou		Running			
Running	3,944	16467	SRBroker	COMP.WfProclMgr		Running			
Running	3,944	16466	SRBroker			Running			
Running	3,804	16465	SCCObjMgr_enu	SADMIN		Running	Completed: Activity		
Running	2,776	16464	ServerMgr			Running			
Running	3,804	16463	SCCObjMgr_enu	SADMIN		Running	Completed: Server		
Completed		16462	SCCObjMgr_enu	SADMIN		Completed			
Running	2,916	16460	ServerMgr			Running			
Running	3,944	16458	SRBroker	COMP.FSMSrvr		Running			
Running	3,944	16457	SRBroker			Running			
Running	3,904	16456	SRProc			Running			
Running	3,904	16455	SRProc	Forwarding Task		Running			
Running	3,944	16433	SRBroker			Running			
Running	3,944	16432	SRBroker			Running			

図 4 Siebel Server ユーザーセッションビューの例

srrmgr で Siebel Server ユーザーセッションを監視するには

- srrmgr プログラムのプロンプトで次のように入力します。

```
list sessions for server siebel_server_name
```

srrmgr プログラムの起動、実行、および設定については、『Siebel システム管理ガイド』を参照してください。

Siebel Server タスクの監視

特定の Siebel Server の Siebel Server コンポーネントタスクは、Server Manager の GUI または Server Manager のコマンドラインインターフェイスプログラム (srrmgr) を使用して監視します。

Siebel Server コンポーネントタスクの状況については、16 ページの「Siebel Server タスクの状況について」を参照してください。

その他の Siebel Server ランタイムオペレーションの監視については、21 ページの「Siebel Server の状態の監視」を参照してください。

Server Manager の GUI で Siebel Server タスクを監視するには

- 1 [管理-サーバー] 画面に移動します。
- 2 リンクバーから、[サーバー] をクリックします。
- 3 [サーバー] リストで、対象の Siebel Server を選択します。
- 4 タブの [タスク] をクリックします。
- 5 [タスク状況] フィールドと [状態] フィールドを参照して、選択した Siebel Server のタスクの状態を確認します。

個々のタスクの監視については、タスク ID 番号を書き留めて、31 ページの「サーバーコンポーネントタスクの状態の監視」を参照してください。

図 5 に、Siebel Server タスクの監視の例を示します。

State	Task	State	Component	Status	Start Time	PID	End Time
Running	16461	Running	Workflow Monitor Agent	Sleeping for 30 seconds...	11/12/2003 05:12:14 PM	5,928	
Running	16426	Running	Server Request Broker		11/12/2003 05:03:22 PM	3,944	
Running	16427	Running	Server Request Broker		11/12/2003 05:03:22 PM	3,944	
Running	16463	Running	Call Center Object Manager (ENU)	Handling Request	11/13/2003 08:23:41 AM	3,804	
Running	16465	Running	Call Center Object Manager (ENU)	Waiting for command	11/13/2003 09:45:07 AM	3,804	
Running	16412	Running	Server Request Broker		11/12/2003 05:03:21 PM	3,944	
Running	16414	Running	Server Request Broker		11/12/2003 05:03:21 PM	3,944	
Running	16415	Running	Server Request Broker		11/12/2003 05:03:21 PM	3,944	
Running	16413	Running	Server Request Broker		11/12/2003 05:03:21 PM	3,944	
Running	16416	Running	Server Request Broker		11/12/2003 05:03:21 PM	3,944	
Running	16417	Running	Server Request Broker		11/12/2003 05:03:21 PM	3,944	
Running	16418	Running	Server Request Broker		11/12/2003 05:03:21 PM	3,944	
Running	16420	Running	Server Request Broker		11/12/2003 05:03:21 PM	3,944	
Running	16419	Running	Server Request Broker		11/12/2003 05:03:21 PM	3,944	

図 5 Siebel Server タスクビューの例

srrmgr で Siebel Server ユーザーセッションを監視するには

- srrmgr プログラムのプロンプトで次のように入力します。

```
list tasks for server siebel_server_name
```

srrmgr プログラムの起動、実行、および設定については、『Siebel システム管理ガイド』を参照してください。

Siebel Server コンポーネントの状態の監視

Siebel Server コンポーネントの状態は、Server Manager の GUI または Server Manager のコマンドラインインターフェイスプログラム (srvmgr) を使用して監視します。次の項では、Siebel Server コンポーネントを監視する手順について説明します。

- [27 ページの「Siebel Server コンポーネントの状況の監視」](#)
- [28 ページの「Siebel Server コンポーネントの状況値の監視」](#)
- [29 ページの「Siebel Server コンポーネントの統計の監視」](#)
- [29 ページの「Siebel Server コンポーネントタスクの監視」](#)

実行手順や設定設定など、Siebel Server コンポーネントの基本情報については、『Siebel システム管理ガイド』を参照してください。

Siebel Server コンポーネントの状況の監視

Siebel Server コンポーネントの状態は、Server Manager の GUI または Server Manager のコマンドラインインターフェイスプログラム (srvmgr) を使用して監視します。

Siebel Server コンポーネントの状況については、[14 ページの「Siebel Server コンポーネントの状況について」](#)を参照してください。

その他の Siebel Server コンポーネントのランタイムオペレーションの監視については、[27 ページの「Siebel Server コンポーネントの状態の監視」](#)を参照してください。

Server Manager の GUI で Siebel Server コンポーネントの状況を監視するには

- 1 [管理-サーバー] 画面に移動します。
- 2 リンクバーの [コンポーネント] をクリックします。
- 3 [コンポーネント] リストで、対象の Siebel Server コンポーネントを選択します。
- 4 [コンポーネント状況] フィールドを参照して、選択した Siebel Server コンポーネントの状況を確認します。

リンクバーの [コンポーネント] ビューには、Siebel Enterprise Server で動作しているすべての Siebel Server の Siebel Server コンポーネントが表示されます。

図 6 に、Siebel Server コンポーネントの監視の例を示します。

State	Component	Siebel Server	State	Running Tasks	Running MTS	Max MTS	Start Time
Online	Siebel Service Handheld 7.5 (ENU)	sd6000i015	Online	0	1	1	11/12/2003 03:06:19 PM
Online	Communications Inbound Processor	sd6000i015	Online	0	1	1	11/12/2003 03:06:19 PM
Online	Communications Outbound Manager	sd6000i015	Online	0	1	1	11/12/2003 03:06:19 PM
Online	Smart Answer Manager	sd6000i015	Online	0	1	1	11/12/2003 03:06:19 PM
Online	Page Manager	sd6000i015	Online	0			11/12/2003 03:06:19 PM
Online	Communications Session Manager	sd6000i015	Online	0	1	1	11/12/2003 03:06:19 PM
Running	Message Broadcast Manager	sd6000i015	Running	1	1	1	11/12/2003 03:06:19 PM
Running	Communications Inbound Receiver	sd6000i015	Running	20	1	1	11/12/2003 03:06:19 PM
Online	Communications Configuration Manager	sd6000i015	Online	0	1	1	11/12/2003 03:06:19 PM
Online	Email Manager	sd6000i015	Online	0			11/12/2003 03:06:19 PM
Running	Siebel Administrator Notification Component	sd6000i015	Running	1	1	1	11/12/2003 03:06:19 PM
Running	Server Request Processor	sd6000i015	Running	2	1	1	11/12/2003 03:06:19 PM
Online	File System Manager	sd6000i015	Online	0	1	1	11/12/2003 03:06:19 PM
Running	Siebel Connection Broker	sd6000i015	Running	1			11/12/2003 03:06:19 PM

図 6 Siebel Server コンポーネントリストの例

srvrmgr でコンポーネントの状況を監視するには

■ srvrmgr プログラムのプロンプトで次のように入力します。

```
list component
```

srvrmgr プログラムの起動、実行、および設定については、『Siebel システム管理ガイド』を参照してください。

Siebel Server コンポーネントの状況値の監視

Siebel Server コンポーネントの状況値は、Server Manager の GUI または Server Manager のコマンドライン インターフェイスプログラム (srvrmgr) を使用して監視します。Siebel Server の状況値の基本情報とリストについては、[付録 A 「統計と状況値のリスト」](#) を参照してください。

その他の Siebel Server コンポーネントのランタイムオペレーションの監視については、[27 ページの「Siebel Server コンポーネントの状態の監視」](#) を参照してください。

Server Manager の GUI でコンポーネントの状況値を監視するには

- 1 [管理—サーバー] 画面に移動します。
- 2 リンクバーの [コンポーネント] をクリックします。
- 3 [コンポーネント] リストで、対象の Siebel Server コンポーネントを選択します。
- 4 タブの [状況値] をクリックします。

選択した Siebel Server コンポーネントの状況値が [状況値] リストに表示されます。Siebel Server の状況値のリストと説明については、[付録 A 「統計と状況値のリスト」](#) を参照してください。

srvrmgr でコンポーネントの状況値を監視するには

- srvrmgr プログラムのプロンプトで次のように入力します。

```
list state values for component component_alias_name
```

srvrmgr プログラムの起動、実行、および設定については、『Siebel システム管理ガイド』を参照してください。

Siebel Server コンポーネントの統計の監視

Siebel Server コンポーネントの統計は、Server Manager の GUI または Server Manager のコマンドラインインターフェイスプログラム (srvrmgr) を使用して監視します。Siebel Server コンポーネントの統計の基本情報とリストについては、[付録 A「統計と状況値のリスト」](#)を参照してください。

その他の Siebel Server コンポーネントのランタイムオペレーションの監視については、[27 ページの「Siebel Server コンポーネントの状態の監視」](#)を参照してください。

Server Manager の GUI でコンポーネントの統計を監視するには

- 1 [管理—サーバー] 画面に移動します。
- 2 リンクバーの [コンポーネント] をクリックします。
- 3 [コンポーネント] リストで、対象の Siebel Server コンポーネントを選択します。
- 4 タブの [統計] をクリックします。

選択した Siebel Server コンポーネントの統計が [統計] リストに表示されます。Siebel Server の統計のリストと説明については、[付録 A「統計と状況値のリスト」](#)を参照してください。

srvrmgr でコンポーネントの統計を監視するには

- srvrmgr プログラムのプロンプトで次のように入力します。

```
list statistics for component component_alias_name
```

srvrmgr プログラムの起動、実行、および設定については、『Siebel システム管理ガイド』を参照してください。

Siebel Server コンポーネントタスクの監視

特定の Siebel Server コンポーネントのタスクは、Server Manager の GUI または Server Manager のコマンドラインインターフェイスプログラム (srvrmgr) を使用して監視します。

Siebel Server コンポーネントタスクの状況については、[16 ページの「Siebel Server タスクの状況について」](#)を参照してください。

その他の Siebel Server ランタイムオペレーションの監視については、[21 ページの「Siebel Server の状態の監視」](#)を参照してください。

Server Manager の GUI で Siebel Server タスクを監視するには

- 1 [管理-サーバー] 画面に移動します。
- 2 リンクバーの [コンポーネント] をクリックします。
- 3 [コンポーネント] リストで、対象の Siebel Server コンポーネントを選択します。
- 4 タブの [タスク] をクリックします。
- 5 [タスク状況] フィールドと [状態] フィールドを参照して、選択した Siebel Server コンポーネントのタスクの状態を確認します。

個々のタスクの監視については、タスク ID 番号を書き留めて、31 ページの「サーバーコンポーネントタスクの状態の監視」を参照してください。

図 7 に、[コンポーネント] ビューから Siebel Server コンポーネントタスクを監視する例を示します。

State	Task	State	Status	PID	Start Time	End Time
Running	10415	Running	Waiting for command	4,280	11/14/2003 11:38:06 AM	
Completed	10361	Completed			11/14/2003 11:19:06 AM	11/14/2003 11:24:07 AM
Running	10360	Running	Waiting for command	4,280	11/14/2003 11:18:38 AM	
Running	10347	Running	Waiting for command	4,280	11/14/2003 11:15:31 AM	
Running	10342	Running	Waiting for command	4,280	11/14/2003 11:15:08 AM	
Running	10341	Running	Handling Request	4,280	11/14/2003 11:14:44 AM	
Completed	10336	Completed			11/14/2003 11:13:08 AM	11/14/2003 11:29:02 AM
Completed	10318	Completed			11/14/2003 11:09:41 AM	11/14/2003 11:33:32 AM
Completed	10213	Completed			11/14/2003 11:01:15 AM	11/14/2003 11:06:17 AM
Completed	10209	Completed			11/14/2003 11:00:50 AM	11/14/2003 11:16:07 AM
Running	10184	Running	Waiting for command	4,280	11/14/2003 10:51:21 AM	
Completed	10123	Completed			11/14/2003 10:28:29 AM	11/14/2003 10:43:37 AM
Completed	10122	Completed			11/14/2003 10:28:09 AM	11/14/2003 10:48:37 AM
Completed	10084	Completed			11/14/2003 10:16:59 AM	11/14/2003 10:18:00 AM

図 7 Siebel Server タスクビューの例

srvrmgr でコンポーネントタスクを監視するには

- srvrmgr プログラムのプロンプトで次のように入力します。

```
list tasks for component component_alias_name
```

srvrmgr プログラムの起動、実行、および設定については、『Siebel システム管理ガイド』を参照してください。

サーバーコンポーネントタスクの状態の監視

Siebel Server コンポーネントタスクの状態は、Server Manager の GUI または Server Manager のコマンドラインインターフェイスプログラム (svrvmgr) を使用して監視します。次の項では、Siebel Server コンポーネントタスクを監視する手順について説明します。

- [31 ページの「サーバーコンポーネントタスクの状況の監視」](#)
- [32 ページの「サーバーコンポーネントタスクのログファイルの監視」](#)
- [33 ページの「サーバーコンポーネントタスクの状況値の監視」](#)
- [33 ページの「サーバーコンポーネントタスクの統計の監視」](#)

Siebel アプリケーションにおいては、タスクは Siebel Server コンポーネントのインスタンス化されたものです。管理者は、ジョブを作成してタスクを開始します。タスクも Siebel アプリケーション自体によって開始されます。実行手順や設定設定など、Siebel Server コンポーネントタスクの基本情報については、『Siebel システム管理ガイド』を参照してください。

サーバーコンポーネントタスクの状況の監視

Siebel Server コンポーネントタスクの状況は、Server Manager の GUI または Server Manager のコマンドラインインターフェイスプログラム (svrvmgr) を使用して監視します。

Siebel Server コンポーネントタスクの状況については、[16 ページの「Siebel Server タスクの状況について」](#)を参照してください。

その他のタスクのランタイムオペレーションの監視については、[31 ページの「サーバーコンポーネントタスクの状態の監視」](#)を参照してください。

Server Manager の GUI でタスクを監視するには

- 1 [管理-サーバー] 画面に移動します。
- 2 リンクバーの [タスク] をクリックします。
- 3 [タスク] リストで、対象のタスクを選択します。
- 4 [状況]、[状態]、および [タスク状況] フィールドを参照して、選択したタスクの状況を確認します。

リンクバーの [タスク] ビューには、Siebel Enterprise Server で動作しているすべての Siebel Server のタスクが表示されます。特定の Siebel Server のタスクを見つけるには、[26 ページの「Siebel Server タスクの監視」](#)を参照してください。特定の Siebel Server コンポーネントのタスクを見つけるには、[29 ページの「Siebel Server コンポーネントタスクの監視」](#)を参照してください。

備考： Siebel Enterprise 内の複数の Siebel Server のタスクをソートすることはできません。

図 8 に、[タスク] ビューから Siebel Server コンポーネントタスクを監視する例を示します。

State	Siebel Server	Status	Task	Component	PID	Task State	Start Time
Running	sdcs6000015		4101	Siebel Connection Broker	1,836	Running	11/12/2003 03:06:19 PM
Completed	sdcs6000015		4110	File System Manager		Completed	11/12/2003 03:06:19 PM
Running	sdcs6000015	Listening for a	4118	Siebel Administrator Notification Component	2,836	Running	11/12/2003 03:06:19 PM
Running	sdcs6000015		4120	Siebel Administrator Notification Component	2,836	Running	11/12/2003 03:06:20 PM
Running	sdcs6000015		4179	Server Request Broker	6,172	Running	11/12/2003 03:06:25 PM
Running	sdcs6000015		4189	Server Request Broker	6,172	Running	11/12/2003 03:06:25 PM
Running	sdcs6000015		4190	Server Request Broker	6,172	Running	11/12/2003 03:06:25 PM
Running	sdcs6000015		4183	Server Request Broker	6,172	Running	11/12/2003 03:06:25 PM
Running	sdcs6000015		4181	Server Request Broker	6,172	Running	11/12/2003 03:06:25 PM
Running	sdcs6000015		4184	Server Request Broker	6,172	Running	11/12/2003 03:06:25 PM
Running	sdcs6000015		4185	Server Request Broker	6,172	Running	11/12/2003 03:06:25 PM
Running	sdcs6000015		4186	Server Request Broker	6,172	Running	11/12/2003 03:06:25 PM
Running	sdcs6000015		4187	Server Request Broker	6,172	Running	11/12/2003 03:06:25 PM
Running	sdcs6000015		4188	Server Request Broker	6,172	Running	11/12/2003 03:06:25 PM

図 8 Siebel Server コンポーネントタスクリストの例

svrmgr でタスクを監視するには

- svrmgr プログラムのプロンプトで次のように入力します。

```
list tasks
```

svrmgr プログラムの起動、実行、および設定については、『Siebel システム管理ガイド』を参照してください。

サーバーコンポーネントタスクのログファイルの監視

Siebel Server コンポーネントタスクのログファイルは、Server Manager の GUI を使用して監視します。また、ログファイルに手動でアクセスして、または Log File Analyzer (LFA) ユーティリティを使用してログファイルにクエリーを実行して、タスクのログファイルを確認します。

- イベントログの基本情報については、第 3 章「Siebel Server およびコンポーネントログの設定」を参照してください。
- タスクのログファイルの基本情報については、51 ページの「Siebel Server コンポーネントログの設定」を参照してください。
- LFA の基本情報については、第 8 章「システムログファイルのクエリー」を参照してください。

その他のタスクのランタイムオペレーションの監視については、31 ページの「サーバーコンポーネントタスクの状態の監視」を参照してください。

Server Manager の GUI でタスクのログファイルを監視するには

- 1 [管理-サーバー] 画面に移動します。
- 2 リンクバーの [タスク] をクリックします。
- 3 [タスク] リストで、対象のタスクを選択します。
- 4 ビュータブの [ログ] をクリックします。
[ログ] ビューリストの各エントリは、タスクのログファイルに記録されたイベントを表します。

サーバーコンポーネントタスクの状況値の監視

Siebel Server コンポーネントタスクの状況値は、Server Manager の GUI または Server Manager のコマンドラインインターフェイスプログラム (srrvmgr) を使用して監視します。タスクの状況値の基本情報とリストについては、[付録 A「統計と状況値のリスト」](#) を参照してください。

その他のタスクのランタイムオペレーションの監視については、[31 ページの「サーバーコンポーネントタスクの状態の監視」](#) を参照してください。

Server Manager の GUI でタスクの状況値を監視するには

- 1 [管理—サーバー] 画面に移動します。
- 2 リンクバーの [タスク] をクリックします。
- 3 [タスク] リストで、対象のタスクを選択します。
- 4 タブの [状況値] をクリックします。

選択したタスクの状況値が [状況値] リストに表示されます。タスクの状況値のリストと説明については、[付録 A「統計と状況値のリスト」](#) を参照してください。

srrvmgr でタスクの状況値を監視するには

- srrvmgr プログラムのプロンプトで次のように入力します。

```
list state values for task task_number
```

srrvmgr プログラムの起動、実行、および設定については、『Siebel システム管理ガイド』を参照してください。

サーバーコンポーネントタスクの統計の監視

Siebel Server コンポーネントタスクの統計は、Server Manager の GUI または Server Manager のコマンドラインインターフェイスプログラム (srrvmgr) を使用して監視します。タスクの統計の基本情報とリストについては、[付録 A「統計と状況値のリスト」](#) を参照してください。

その他のタスクのランタイムオペレーションの監視については、[31 ページの「サーバーコンポーネントタスクの状態の監視」](#) を参照してください。

Server Manager の GUI でタスクの統計を監視するには

- 1 [管理—サーバー] 画面に移動します。
- 2 リンクバーの [タスク] をクリックします。
- 3 [タスク] リストで、対象のタスクを選択します。
- 4 タブの [統計] をクリックします。

選択したタスクの統計が [統計] リストに表示されます。タスクの統計のリストと説明については、[付録 A「統計と状況値のリスト」](#) を参照してください。

srvrmgr でタスクの統計を監視するには

- srvrmgr プログラムのプロンプトで次のように入力します。

```
list statistics for task task_number
```

srvrmgr プログラムの起動、実行、および設定については、『Siebel システム管理ガイド』を参照してください。

コンポーネントジョブの状態の監視

Server Manager の GUI を使用して Siebel Server コンポーネントジョブのステータスを監視します。

Siebel Server コンポーネントジョブの開始に関する基本的な情報については、『Siebel システム管理ガイド』を参照してください。

コンポーネントジョブの状態については、[18 ページの「コンポーネントジョブの状態について」](#)を参照してください。

コンポーネントジョブの状態を監視するには

- 1 [管理—サーバー] 画面に移動します。
- 2 リンクバーから、[ジョブ] をクリックします。
- 3 [ジョブ] リストで、目的のコンポーネントジョブを選択します。
- 4 ステータスフィールドを参照して、コンポーネントジョブのステータスを確認します。

ユーザー ID によって要求されるコンポーネントジョブステータスを監視するには

- 1 [サーバージョブ] 画面に移動します。
- 2 [ジョブ (個人)] リストで、目的のコンポーネントを選択します。
- 3 ステータスフィールドを参照して、コンポーネントジョブのステータスを確認します。

ユーザーセッションの状態の監視

ユーザーセッションの状態は、Server Manager の GUI または Server Manager のコマンドラインインターフェイスプログラム (srvrmgr) を使用して監視します。次の項では、ユーザーセッションを監視する手順について説明します。

- [35 ページの「ユーザーセッションの状況の監視」](#)
- [36 ページの「ユーザーセッションのログファイルの監視」](#)
- [37 ページの「ユーザーセッションの状況値の監視」](#)
- [38 ページの「ユーザーセッションの統計の監視」](#)

ユーザーセッションの基本情報については、[19 ページの「ユーザーセッションについて」](#)を参照してください。

ユーザーセッションの状態の監視

Siebel Server ユーザーセッションの状況は、Server Manager の GUI または Server Manager のコマンドラインインターフェイスプログラム (svrvmgr) を使用して監視します。ユーザーセッションの状況は、そのユーザーセッションを表す関連付けられた Siebel Server コンポーネントタスクの状況です。

ユーザーセッションの基本情報については、[19 ページの「ユーザーセッションについて」](#)を参照してください。

Siebel Server コンポーネントタスクの状況の基本情報については、[16 ページの「Siebel Server タスクの状況について」](#)を参照してください。

その他の Siebel Server ユーザーセッションのランタイムオペレーションの監視については、[34 ページの「ユーザーセッションの状態の監視」](#)を参照してください。

Server Manager の GUI でユーザーセッションを監視するには

- 1 [管理-サーバー] 画面に移動します。
- 2 リンクバーの [セッション] をクリックします。
- 3 [セッション] リストで、対象の Siebel Server ユーザーセッションを選択します。
- 4 [状況] フィールドと [状態] フィールドを参照して、選択した Siebel Server ユーザーセッションの状況を確認します。

リンクバーの [セッション] ビューには、Siebel Enterprise Server で動作しているすべての Siebel Server の Siebel Server ユーザーセッションが表示されます。特定の Siebel Server のセッションを見つけるには、[25 ページの「Siebel Server ユーザーセッションの監視」](#)を参照してください。

図 9 に、Siebel Server ユーザーセッションの監視の例を示します。

State	PID	Session Id	Component	OM Login	Task Hung State	Status	OM Applet	OM BC	OM BS
Running	4,532	16539	ServerMgr			Running			
Completed	3,804	16536	SCCObjMgr_enu	SADMIN		Completed	Completed: Server		
Completed		16532	SCCObjMgr_enu	SADMIN		Completed	Completed: Account		
Completed		16529	ServerMgr			Completed			
Completed		16526	SCCObjMgr_enu	SADMIN		Completed	Completed: Server		
Completed		16523	SCCObjMgr_enu	SADMIN		Completed	Completed: Workflo		
Completed		16518	SCCObjMgr_enu	SADMIN		Completed	Completed: Account		
Completed		16514	SCCObjMgr_enu	SADMIN		Completed	Completed: User Prc		
Completed		16511	SCCObjMgr_enu	SADMIN		Completed	Completed: Quick Pr		
Completed		16507	SCCObjMgr_enu	SADMIN		Completed			
Completed		16503	SCCObjMgr_enu	SADMIN		Completed	Completed: CommSr		
Completed		16484	SCCObjMgr_enu	SADMIN		Completed	Completed: Activity		
Completed		16483	SCCObjMgr_enu	SADMIN		Completed	Completed: CommSr		
Running	3,944	16469	SRBroker	COMP.CommOutbou		Running			

図 9 Siebel Server セッションリストの例

srvrmgr を使用して Siebel Server のユーザーセッションを監視するには

- srvrmgr プログラムのプロンプトで次のように入力します。

```
list sessions for server siebel_server_name
```

srvrmgr を使用して Siebel Server コンポーネントのユーザーセッションを監視するには

- srvrmgr プログラムのプロンプトで次のように入力します。

```
list sessions for comp component_alias_name
```

srvrmgr を使用してアプリケーションオブジェクトマネージャのユーザーセッションを監視するには

- srvrmgr プログラムのプロンプトで次のように入力します。

```
list sessions for login object_manager_login
```

srvrmgr を使用してハングしたユーザーセッションのリストを表示するには

- srvrmgr プログラムのプロンプトで次のように入力します。

```
list hung sessions for server siebel_server_name [or] comp component_alias_name  
[or] login object_manager_login
```

srvrmgr を使用してアクティブなユーザーセッションのリストを表示するには

- srvrmgr プログラムのプロンプトで次のように入力します。

```
list active sessions for server siebel_server_name [or] comp component_alias_name  
[or] login object_manager_login
```

srvrmgr プログラムの起動、実行、および設定については、『Siebel システム管理ガイド』を参照してください。

ユーザーセッションのログファイルの監視

Siebel Server ユーザーセッションのログファイルは、Server Manager の GUI を使用して監視します。ユーザーセッションのログファイルは、ユーザーセッションを表す関連付けられた Siebel Server コンポーネントタスクのログファイルです。また、関連付けられたタスクログファイルにアクセスして、または Log File Analyzer ユーティリティを使用して関連付けられたタスクログファイルにクエリーを実行して、Siebel Server ユーザーセッションのログファイルを確認します。

- ユーザーセッションの基本情報については、[19 ページの「ユーザーセッションについて」](#)を参照してください。
- Siebel Server コンポーネントタスクのログファイルの基本情報については、[51 ページの「Siebel Server コンポーネントログの設定」](#)を参照してください。
- Log File Analyzer の基本情報については、[第 8 章「システムログファイルのクエリー」](#)を参照してください。
- イベントログの基本情報については、[第 3 章「Siebel Server およびコンポーネントログの設定」](#)を参照してください。

その他の Siebel Server ユーザーセッションのランタイムオペレーションの監視については、[34 ページの「ユーザーセッションの状態の監視」](#)を参照してください。

Server Manager の GUI でユーザーセッションのログファイルを監視するには

- 1 [管理-サーバー] 画面に移動します。
- 2 リンクバーの [セッション] をクリックします。
- 3 [セッション] リストで、対象の Siebel Server ユーザーセッションを選択します。
- 4 ビュータブの [ログ] をクリックします。
[ログ] ビューリストの各エントリは、Siebel Server コンポーネントタスクのログファイルに記録された、ユーザーセッションを表すイベントを表します。

ユーザーセッションの状況値の監視

Siebel Server ユーザーセッションの状況値は、Server Manager の GUI または Server Manager のコマンドラインインターフェイスプログラム (srmgr) を使用して監視します。ユーザーセッションの状況値は、ユーザーセッションを表す関連付けられた Siebel Server コンポーネントタスクの状況値です。ユーザーセッションの基本情報については、[19 ページの「ユーザーセッションについて」](#)を参照してください。タスクの状況値の基本情報とリストについては、[付録 A「統計と状況値のリスト」](#)を参照してください。

その他の Siebel Server ユーザーセッションのランタイムオペレーションの監視については、[34 ページの「ユーザーセッションの状態の監視」](#)を参照してください。

Server Manager の GUI でユーザーセッションの状況値を監視するには

- 1 [管理-サーバー] 画面に移動します。
- 2 リンクバーの [セッション] をクリックします。
- 3 [セッション] リストで、対象の Siebel Server ユーザーセッションを選択します。
- 4 タブの [状況値] をクリックします。
ユーザーセッションを表す選択したタスクの状況値が [状況値] リストに表示されます。タスクの状況値のリストと説明については、[付録 A「統計と状況値のリスト」](#)を参照してください。

srmgr でユーザーセッションの状況値を監視するには

- srmgr コマンドを使用して、タスクの状況値のリストを表示します。[33 ページの「srmgr でタスクの状況値を監視するには」](#)を参照してください。タスク番号パラメータのセッション ID をこのコマンドで使用します。

ユーザーセッションの統計の監視

Siebel Server ユーザーセッションの統計は、Server Manager の GUI または Server Manager のコマンドライン インターフェイスプログラム (srrvmgr) を使用して監視します。ユーザーセッションの統計は、ユーザーセッションと関連付いた Siebel Server コンポーネントタスクの統計です。ユーザーセッションの基本情報については、19 ページの「ユーザーセッションについて」を参照してください。タスクの統計の基本情報とリストについては、付録 A 「統計と状況値のリスト」を参照してください。

その他の Siebel Server ユーザーセッションのランタイムオペレーションの監視については、34 ページの「ユーザーセッションの状態の監視」を参照してください。

Server Manager の GUI でユーザーセッションの統計を監視するには

- 1 [管理-サーバー] 画面に移動します。
- 2 リンクバーの [セッション] をクリックします。
- 3 [セッション] リストで、対象の Siebel Server ユーザーセッションを選択します。
- 4 タブの [統計] をクリックします。

ユーザーセッションに関連付いた選択したタスクの状況値が [状況値] リストに表示されます。タスクの状況値のリストと説明については、付録 A 「統計と状況値のリスト」を参照してください。

srrvmgr でユーザーセッションの統計を監視するには

- srrvmgr コマンドを使用して、タスクの統計のリストを表示します。34 ページの「srrvmgr でタスクの統計を監視するには」を参照してください。タスク番号パラメータのセッション ID をこのコマンドで使用します。

Siebel ランタイムデータを使用したシステムデータの分析

次の手順に従い、Siebel ランタイムデータを使用してオペレーティングシステムデータを分析します。

- 38 ページの「Siebel Server ログファイルからのタスクログファイルの識別」
- 39 ページの「タスクとオペレーティングシステムデータのマッピングプロセス」
- 41 ページの「ユーザーセッションの Siebel Server または AOM へのマッピング」

Siebel Server ログファイルからのタスクログファイルの識別

Siebel Server ログファイルでタスク ID を識別し、Siebel Server ログファイルをその Siebel Server コンポーネントとそのコンポーネントのログファイルにマッピングします。タスクの性能については、タスクログファイルを確認します。

備考: ログファイルの詳細は、各コンポーネントのイベントタイプについて設定されたログレベルによって異なります。イベントタイプとイベントログについては、第 3 章「Siebel Server およびコンポーネントログの設定」を参照してください。

その他の Siebel アプリケーション診断データの分析については、38 ページの「Siebel ランタイムデータを使用したシステムデータの分析」を参照してください。

Siebel Server ログファイルからタスク ID を識別するには

- 1 Server Manager の GUI を使用して、Siebel Server ログファイルにアクセスします。この手順については、[23 ページの「Siebel Server ログファイルの監視」](#)を参照してください。
また、次のように Siebel Server ログファイルにアクセスすることもできます。
 - Log File Analyzer を使用する。この手順については、[第 8 章「システムログファイルのクエリー」](#)を参照してください。
 - ログファイル自体を開く。Siebel Server ログファイルの位置と命名規則については、[46 ページの「Siebel Server ログファイルについて」](#)を参照してください。
- 2 対象となる Siebel Server コンポーネントに関するログファイルの各エントリのテキストフィールドを確認します。
- 3 Siebel Server コンポーネントログファイルの各エントリのテキストフィールドには、このコンポーネントについて開始されたタスク ID 番号も含まれます。
- 4 Siebel Server コンポーネントのタスクリストにアクセスします。この手順については、[31 ページの「サーバーコンポーネントタスクの状況の監視」](#)を参照してください。
- 5 Siebel Server ログファイルで識別された ID 番号を使用してリストにクエリーを実行します。
- 6 このタスクのログファイル、状況値、および統計を確認して、Siebel Server コンポーネントタスクの状態を確認します。これらの手順については、[31 ページの「サーバーコンポーネントタスクの状態の監視」](#)を参照してください。

備考： ステップ 3 で識別されたタスク ID 番号は、ログフォルダに格納された個々のタスクログファイルを検索するためにも使用できます。タスクログファイルの名前にはコンポーネントのタスク ID が含まれます。たとえば、`sccObjMgr_enu_19369.log` では、タスク ID は 19369 です。

タスクとオペレーティングシステムデータのマッピングプロセス

タスクをオペレーティングシステムデータにマッピングすると、各タスクについて、オペレーティングシステムの CPU やメモリの使用状況を表示できます。タスクをオペレーティングシステムのプロセス ID にマッピングすると、Windows のタスクマネージャや UNIX システムの `ps` (プロセスリスト) 機能などのオペレーティングシステムツールを使用して、CPU 使用率やメモリの使用量など、プロセスとタスクに関する他の情報を表示できます。

備考： マルチスレッドコンポーネントでは、1 つの OS プロセス ID に複数のタスクをマッピングできるので、オペレーティングシステムツールは必ずしもタスクごとにデータを分割しません。

次の手順に従って、Siebel Server コンポーネントタスクをオペレーティングシステムデータにマッピングします。

- 1 タスクのオペレーティングシステムプロセス ID (PID) を識別します。この手順については、[40 ページの「タスクのオペレーティングシステム PID の識別」](#)を参照してください。
- 2 オペレーティングシステムで PID を確認します。この手順については、[40 ページの「タスクのオペレーティングシステム PID の識別」](#)を参照してください。

その他の Siebel アプリケーション診断データの分析については、[38 ページの「Siebel ランタイムデータを使用したシステムデータの分析」](#)を参照してください。

タスクのオペレーティングシステム PID の識別

オペレーティングシステム PID 番号の識別は、「[タスクとオペレーティングシステムデータのマッピングプロセス](#)」のタスクです。次のいずれかの方法を使用して、タスクのオペレーティングシステムプロセス ID 番号 (PID) を識別します。

- Server Manager の GUI から
- Siebel Server ログファイルから
- タスクログファイルから

備考： PID は、タスク実行用の Server Manager だけにあります。

Server Manager の GUI からタスクのオペレーティングシステム PID を識別するには

- 1 Siebel Server コンポーネントのタスクリストにアクセスします。この手順については、[31 ページの「サーバーコンポーネントタスクの状況の監視」](#)を参照してください。
- 2 特定の Siebel Server コンポーネントタスクまたはタスク ID のタスクリストにクエリーを実行します。
- 3 その特定のタスクの [PID] フィールドの値に注目してください。

Siebel Server ログファイルからタスクのオペレーティングシステム PID を識別するには

- 1 Server Manager の GUI を使用して、Siebel Server ログファイルにアクセスします。この手順については、[23 ページの「Siebel Server ログファイルの監視」](#)を参照してください。
また、次のように Siebel Server ログファイルにアクセスすることもできます。
 - Log File Analyzer を使用する。この手順については、[第 8 章「システムログファイルのクエリー」](#)を参照してください。
 - ログファイル自体を開く。Siebel Server ログファイルの位置と命名規則については、[46 ページの「Siebel Server ログファイルについて」](#)を参照してください。
- 2 対象となる Siebel Server コンポーネントに関するログファイルの各エントリのテキストフィールドを確認します。
- 3 Siebel Server コンポーネントログファイルの各エントリのテキストフィールドには、このコンポーネントタスクについて開始されたプロセスタスク ID 番号も含まれます。

タスクログファイルからタスクのオペレーティングシステム PID を識別するには

- 1 対象の Siebel Server コンポーネントタスクのログファイルにアクセスします。Siebel Server コンポーネントタスクのログファイルの位置と命名規則については、[第 3 章「Siebel Server およびコンポーネントログの設定」](#)を参照してください。
- 2 タスクログファイルの最初のエントリにはヘッダー情報が含まれます。ヘッダー情報に PID 番号が含まれます。ヘッダーファイルの解析と PID 番号の識別については、[45 ページの「イベント属性とログファイルフォーマットについて」](#)を参照してください。

オペレーティングシステムでの PID の確認

オペレーティングシステムでプロセス ID 番号を確認すると、個々のタスクの CPU とメモリの使用状況を識別できます。タスクの PID 番号を識別するには、「[タスクのオペレーティングシステム PID の識別](#)」を参照してください。

オペレーティングシステムでの PID 番号の確認は、「[タスクとオペレーティングシステムデータのマッピングプロセス](#)」のタスクです。

Microsoft Windows で PID 番号を識別するには

1 マウスの右ボタンを使用して、タスクバーの空白の領域をクリックします。

2 [タスク マネージャ] を選択します。

[Windows タスク マネージャ] ダイアログボックスが表示されます。

3 [プロセス] タブを選択し、タスク PID 番号についてクエリーを実行します。

備考： [PID] 列が表示されていない場合は、[表示] > [列の選択] の順にクリックします。

UNIX で PID 番号を確認するには

■ 次のコマンドを入力します。

```
ps -ef | grep <PID>
```

または

```
ps -aux <PID>
```

ここで、各項目はそれぞれ次のようになります。

<PID> = 対象の PID 番号

ユーザーセッションの Siebel Server または AOM へのマッピング

Siebel Web Server Extension (SWSE) ログファイルのユーザーセッション cookie にアクセスして、Web サーバーから個々の Siebel Server またはアプリケーションオブジェクトマネージャ (AOM) にユーザーセッションをマッピングします。その他の Siebel アプリケーション診断データの分析については、[38 ページの「Siebel ランタイムデータを使用したシステムデータの分析」](#)を参照してください。

ユーザーセッションを Siebel Server にマッピングするには

1 SWSE ログファイルにアクセスします。Web サーバーの SWSE ファイルの位置と命名規則については、[第 3 章「Siebel Server およびコンポーネントログの設定」](#)を参照してください。

2 SWSE ログファイルのユーザーセッション cookie エントリでサーバー ID 番号を識別します。SWSE cookie の確認については、[82 ページの「SWSE ログファイル Cookie の解析」](#)を参照してください。

3 エンタープライズレベルで Server Manager のコマンドラインインターフェイスプログラム (srrvmgr) を起動します。

srrvmgr の起動と実行については、『Siebel システム管理ガイド』を参照してください。

4 次のコマンドを入力します。

```
list servers show SBLSRVR_NAME, SV_SRVID
```

ユーザーセッションをアプリケーションオブジェクトマネージャ (AOM) タスクにマッピングするには

- 1 SWSE ログファイルにアクセスします。Web サーバーの SWSE ファイルの位置と命名規則については、[第 3 章「Siebel Server およびコンポーネントログの設定」](#)を参照してください。
- 2 SWSE ログファイルのユーザーセッション cookie エントリでオペレーティングシステム ID 番号 (PID) を識別します。SWSE cookie の確認については、[82 ページの「SWSE ログファイル Cookie の解析」](#)を参照してください。
- 3 Siebel Server コンポーネントのタスクリストにアクセスします。この手順については、[31 ページの「サーバーコンポーネントタスクの状況の監視」](#)を参照してください。
- 4 特定の PID のタスクリストにクエリーを実行し、そのユーザーセッションの AOM タスクを見つけます。
- 5 その AOM タスクでデータを確認します。これらの手順については、[31 ページの「サーバーコンポーネントタスクの状態の監視」](#)を参照してください。

3

Siebel Server およびコンポーネントログの設定

この章では、Siebel イベントを使用する Siebel Server およびコンポーネントログの設定について説明し、例を挙げます。

この章では、次のトピックについて説明します。

- 43 ページの「Siebel Server およびコンポーネントログの設定について」
- 47 ページの「Siebel Server ログの設定」
- 51 ページの「Siebel Server コンポーネントログの設定」

Siebel Server およびコンポーネントログの設定について

Siebel Server およびコンポーネントログを設定すると、稼働中の Siebel Business Applications 内部の活動および動作を把握できます。Siebel Server およびコンポーネントログでは、Siebel イベントログシステムを使用してデータを収集し、情報をテキストログファイルに書き出します。さらに、イベントログシステムをサードパーティのシステム管理アプリケーションとともに使用して、重大な状況や障害状況を管理者に通知できます。Siebel イベントログシステムによって、ほとんどの Siebel 製品および機能エリアを監視および管理できます。

イベントログによって収集される情報の範囲は、エラーメッセージから詳細な診断記録にまで渡ります。次のようなアプリケーションの状況および操作によって、ログファイルにデータが書き込まれます。

- 致命的な状況またはエラーが発生した状況
- Siebel Server またはサーバーコンポーネントの状態変化
- Siebel のプロセスまたはワークフローの起動または終了
- Siebel のプロセスまたはワークフローの指定ポイント
- 重要なしきい値への到達または超過
- 動作条件を満たした状況

イベントとイベントログについて

イベントログシステムの要素は、次のように定義されます。

- **イベント**：イベントは、プログラムコード（タスクの実行など）が実行されるたびに作成されます。
- **イベントタイプ**：イベントタイプはイベントのカテゴリです。
 - Siebel アプリケーションの特定の部分に関連するイベントタイプの詳細については、製品固有のマニュアルを参照するか、SupportWeb で情報を入手してください。
 - サーバーコンポーネントで使用されるアダプタ汎用イベントタイプや、アプリケーションオブジェクトマネージャの診断については、[57 ページの「コンポーネント診断の共通イベントタイプ」](#)および [57 ページの「Application Object Manager 診断の一般的なイベントタイプ」](#)を参照してください。
- **イベントサブタイプ**：イベントサブタイプは、イベントを定義したコード参照です。
- **ログレベル**：ログレベルは、ログファイルに書き込まれる情報量を決定します。ログレベルはイベントタイプに対して設定されます。[表 6](#) は、各イベントタイプのログレベルを示しています。
- **重大度**：重大度は、それぞれのイベントサブタイプと関連付けられています。重大度とログレベルは同じスケールを共有し、イベントをログファイルに書き込むときに比較されます。[表 6](#) は、イベントサブタイプの重大度リストを示しています。

表 6 重大度とログレベル

ログおよび重大度	説明
0	致命的
1	エラー
2	警告
3	情報
4	詳細
5	診断

イベントが発生すると、そのイベントの重大度（イベントサブタイプによって定義される）がイベントタイプのログレベルと比較されます。イベントの重大度の数値がイベントタイプのログレベルの数値以下の場合、そのイベントはログファイルに書き込まれます。イベントの重大度の数値がイベントタイプのログレベルの数値より大きい場合、そのイベントは無視されます。

備考： イベントサブタイプの数値が小さいほうが、重大度は高くなります。たとえば、値 0 のイベントサブタイプは値 5 の場合よりも重大です。イベントログレベルを 1 などの小さい値に設定すると、最も重大なイベントだけが記録されますが、5 などの大きい値に設定すると、重大度が低いイベントサブタイプも含む多くの情報が取得されます。

たとえば、Enterprise Application Integration コンポーネントグループ（エイリアス EAI）の Siebel Server コンポーネントには、EAI Siebel Wizard と呼ばれるイベントタイプがあります。いくつかのイベントサブタイプは、次のような EAI Siebel Wizard イベントタイプに属します。

- 重大度が 2 の EAI Siebel Wizard Invalid Business Component
- 重大度が 2 の EAI Siebel Wizard Invalid MVG
- 重大度が 3 の EAI Siebel Wizard MVG

EAI コンポーネントグループが実行中の場合は、プロセスはマルチバリューグループ（MVG）を処理します。これによって、EAI Siebel Wizard MVG サブタイプのイベントが作成されます。その MVG が無効の場合、EAI Siebel Wizard Invalid MVG サブタイプの第 2 のイベントが作成されます。EAI Siebel Wizard イベントタイプのログレベルが 1 に設定されている場合、どちらのイベントも無視されます。ログレベルが 3 に設定されている場合、どちらのイベントもログファイルに書き込まれます。

イベントは、Siebel Server レベルとコンポーネントレベルでログに記録されます。Siebel Server イベントについては [47 ページの「Siebel Server ログの設定」](#) を、コンポーネントイベントについては [51 ページの「Siebel Server コンポーネントログの設定」](#) を参照してください。

イベント属性とログファイルフォーマットについて

ログファイル内の各イベントには、関連付けられたアプリケーションの状況に関する次のような情報が含まれています。

- イベント識別子
 - タイプ（カテゴリー）
 - サブタイプ
- タイムスタンプ
- 重大度
- イベントに関する詳細（基準）

個々のイベントの例とその属性値については、[49 ページの「Siebel Server ログファイルの例」](#) と [53 ページの「コンポーネントログファイルの例」](#) を参照してください。ログファイルに収集されるイベントグループの例については、[56 ページの「詳細なコンポーネントログファイルの例」](#) を参照してください。

イベントは発生順にログファイルに書き込まれ、収集されます。各ログファイルには、個別のログファイルの情報を示すヘッダーが含まれます。ログファイルヘッダーの例を次に示します。

```
ï»¿2021 2004-02-12 09:07:28 0000-00-00 00:00:00 -0800 00000000 001 003f 0001 09
SiebSrvr 2049 1364 1548 d:¥sea77¥siebsrvr¥log¥siebel77.server1.log 7.7 [18027] ENU
```

ログファイルヘッダーの詳細	説明
ï»¿	バイトオーダーマーカー (BOM)。BOM は、Unicode フォーマットのインストラクションです。ログファイルヘッダーの最初にこのような記号がある場合は、このログファイルを表示するために使用するテキストエディタが Unicode インストラクションを解釈できないことを示します。
2004-02-12 09:07:28	ログファイル作成のタイムスタンプ。
-0800	GMT に対するローカルタイムの時差。±HHMM の形式で示します。
SiebSrvr	このログファイルが参照する Siebel Server またはコンポーネントのエイリアス
2049	タスク ID
1364	OS プロセス ID (PID)
1548	スレッド ID
d:¥sea77¥siebsrvr¥log¥siebel77.server1.log	ログファイル名
7.7	バージョン番号
[18027]	ビルド番号
ENU	言語コード

Siebel Server ログファイルについて

Siebel Server ログファイルには、Siebel Enterprise Server の一部として展開されている各 Siebel Server のデータが記録されます。Siebel アプリケーションでは、Siebel Server ログファイルは個々の Siebel Server のログディレクトリに格納されます。Windows 上のログディレクトリの位置は `SIEBSRV_¥log` です。UNIX 上のログディレクトリは `SIEBSRV_¥log/enterprises/EnterpriseServerName/SiebelServerName/log` です。

サーバーログファイルでは、次のような命名規則を使用します。 `EnterpriseServerName.SiebelServerName.log`。

Siebel Server ログファイルに格納される情報によって、コンポーネントログファイル内の詳細な情報がある位置がわかります。タスク ID はコンポーネントログファイル名の一部となっており、Siebel Server ログファイルに書き込まれるメッセージ内で参照されます。適切なコンポーネントタスク ID を Siebel Server ログファイル内で探し、ログファイル名にそのタスク ID が含まれているタスク固有のコンポーネントログを開きます。この関係の例については、[53 ページの「コンポーネント起動ログファイルの例」](#)を参照してください。

Siebel Server ログファイルの詳細と例については、[49 ページの「Siebel Server ログファイルの表示」](#)と [49 ページの「Siebel Server ログファイルの例」](#)を参照してください。

コンポーネントログファイルについて

Siebel Server コンポーネントログファイルには、特定の Siebel Server で機能する各コンポーネントとタスクに関するデータが記録されます。これらのコンポーネントログファイルは、そのコンポーネントがアクティブになっている Siebel Server の Siebel Server ログディレクトリに格納されます。Windows 上のログディレクトリの位置は `SIEBSRVR_ROOT\log` です。UNIX 上のログディレクトリは `SIEBSRVR_ROOT/enterprises/EnterpriseServerName/SiebelServerName/log` です。各コンポーネントでイベントログを使用すると、Siebel Business Application を部分ごとに分割できます。コンポーネントログファイルでは、次のような命名規則を使用します。 `ComponentAlias_TaskId.log`。コンポーネントログファイルの詳細と例については、53 ページの「コンポーネントログファイルの表示」と 53 ページの「コンポーネントログファイルの例」を参照してください。

個々のコンポーネントタスクログファイルも、コンポーネントパラメータ `Use Shared Log File` (エイリアス `LogUseSharedFile`) を設定することで、単一のログファイルに統合できます。このパラメータと、Siebel Enterprise、Siebel Server、およびサーバーコンポーネントパラメータの管理については、『Siebel システム管理ガイド』を参照してください。

備考: 重大度が低いイベントレベル設定を記録する Siebel Server ログファイルとコンポーネントログファイルは、いずれもサイズが非常に大きくなる可能性があります。さらに、重大度が低いイベントレベルの設定を使用すると、アプリケーションのパフォーマンスが低下します。したがって、これらの設定は問題の解決だけに使用してください。

Siebel Server ログの設定

Siebel Server ログでは、Siebel Server に関連するイベントタイプが使用されます。たとえば、`Server State` イベントタイプは、Siebel Server の状況変化を記録する Siebel Server レベルのイベントです。この項では、Siebel Server イベントタイプを設定し、表示する方法について説明します。詳しくは、次の項を参照してください。

- 47 ページの「Siebel Server イベントタイプのログレベルの設定」
- 49 ページの「Siebel Server ログファイルの表示」
- 49 ページの「Siebel Server ログファイルの例」

Siebel Server イベントタイプのログレベルの設定

この項では、Server Manager の GUI または Server Manager のコマンドラインインターフェイスプログラム (`srvmgr`) を使用して、Siebel Server イベントタイプのログレベルを設定する方法について説明します。イベントログとイベントタイプの基本情報については、43 ページの「Siebel Server およびコンポーネントログの設定について」を参照してください。生成された Siebel Server ログファイルを表示するには、49 ページの「Siebel Server ログファイルの表示」を参照してください。Siebel Server ログファイルの例については、49 ページの「Siebel Server ログファイルの例」を参照してください。

備考: ログレベルの設定はただちに有効になります。

Server Manager の GUI で Siebel Server イベントタイプのログレベルを設定するには

- 1 アプリケーションレベルのメニューから、[移動] > [サイトマップ] > [管理—サーバー設定] を選択します。
- 2 リンクバーから、[サーバー] をクリックします。
- 3 [Siebel サーバー] リストで、対象の Siebel Server を選択します。
- 4 タブの [イベント] をクリックします。
- 5 [イベントタイプ] リストで、対象の Siebel Server イベントタイプを選択します。
 - Siebel アプリケーションの特定の部分に関連するイベントタイプの詳細については、製品固有のマニュアルを参照するか、SupportWeb で情報を入手してください。
- 6 [ログレベル] フィールドに、このイベントタイプに設定するログレベルを入力します。
ログレベルについては、[44 ページの表 6](#) を参照してください。
- 7 メニューボタンをクリックし、[レコードを保存] を選択します。

図 10 は、Server State イベントタイプをログレベル 4 に設定する例を示しています。

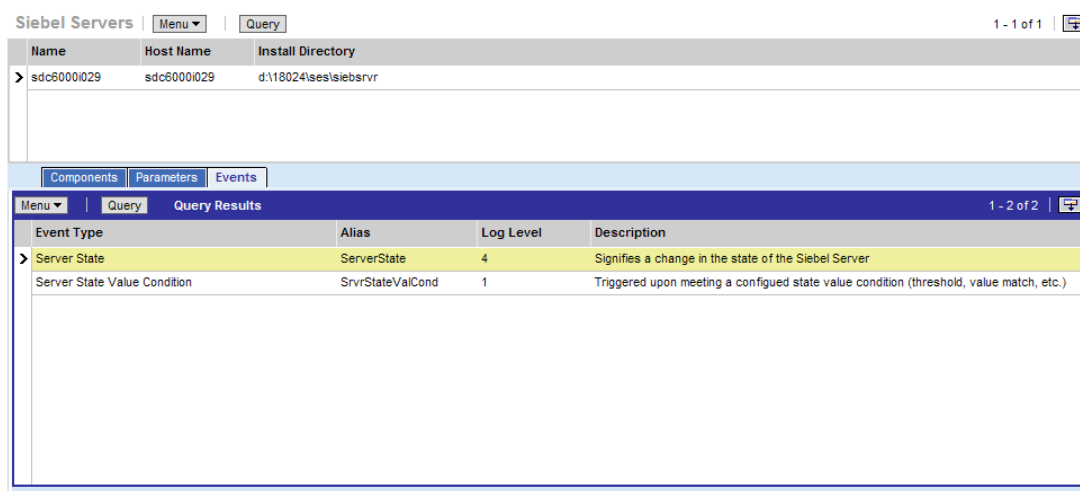


図 10 Siebel Server ログレベルの設定

srvrmgr で Siebel Server イベントタイプのログレベルを設定するには

- 次のように入力します。
`change evtloglvl event_alias_name=level for server siebel_server_name`

srvrmgr で Siebel Server イベントタイプを表示するには

- 次のように入力します。
`list evtloglvl for server siebel_server_name`

srvrmgr プログラムの起動、実行、および設定については、『Siebel システム管理ガイド』を参照してください。

Siebel Server ログファイルの表示

Siebel Server レベルのイベントは、Siebel Server ログファイルに書き込まれます。Windows 上のログディレクトリの位置は `SIEBSRVR_ROOT\log` です。UNIX 上のログディレクトリの位置は `SIEBSRVR_ROOT/enterprises/EnterpriseServerName/SiebelServerName/log` です。イベントログとイベントタイプの基本情報については、[43 ページの「Siebel Server およびコンポーネントログの設定について」](#)を参照してください。詳細とファイル名の命名規則については、[46 ページの「Siebel Server ログファイルについて」](#)を参照してください。Siebel Server ログファイルの例については、[49 ページの「Siebel Server ログファイルの例」](#)を参照してください。

Siebel Server イベントログは Server Manager の GUI から表示することもできます。このタスクについては、[23 ページの「Siebel Server ログファイルの監視」](#)を参照してください。

Siebel Server イベントログファイルの分析に役立つように、Log File Analyzer (LFA) ユーティリティを使用してクエリーを実行し、対象のログファイルを見つけます。この機能については、[第 8 章「システムログファイルのクエリー」](#)を参照してください。

Siebel Server ログファイルの例

この項では、Siebel Server イベントログファイルの例を示します。イベントログのフォーマットと情報については、これらの例で説明します。

Siebel Server 起動ログファイルの例

次のログファイルの例は、Siebel Server の通常の起動中にサーバーログファイルに書き込まれる内容を示しています。この例では、イベントサブタイプ `LstnObjCreate`、`ProcessCreate`、および `Startup` によって定義されたイベントが作成され、それらの重大度はすべて 1 に設定されています。サンプル出力の説明については、[表 7](#)、[表 8](#)、および [50 ページの表 9](#) を参照してください。これらのイベントは、イベントタイプ `Server Logging` (エイリアス `ServerLog`) に属します。このイベントタイプがログレベル 1 ~ 5 に設定されている場合、次の例のような情報がログファイルに記録されます。

```
ServerLog LstnObjCreate 1 0 2003-05-13 11:35:10Created port 49173 for Server
Request Processor
```

表 7 イベントサブタイプ `LstnObjCreate`

ログの詳細	説明
ServerLog	イベントタイプエイリアス
LstnObjCreate	イベントサブタイプ
1	イベントの重大度
0	SARM ID
2003-05-13 11:35:10	ログの日時
Created port 49173 for Server Request Processor	ログメッセージ

```
ServerLog Startup 1 0 2003-05-13 11:35:10Siebel Application Server is ready and
awaiting requests
```

表 8 イベントサブタイプ Startup

ログの詳細	説明
ServerLog	イベントタイプエイリアス
Startup	イベントサブタイプ
1	イベントの重大度
0	SARM ID
2003-05-13 11:35:10	ログの日時
Siebel Application Server is ready and awaiting requests	ログメッセージ

```
ServerLog ProcessCreate 1 0 2003-05-13 11:35:10Created multithreaded server
process (OS pid = 2756) for File System Manager with task id 4114
```

表 9 イベントサブタイプ ProcessCreate

ログの詳細	説明
ServerLog	イベントタイプエイリアス
ProcessCreate	イベントサブタイプ
1	イベントの重大度
0	SARM ID
2003-05-13 11:35:10	ログの日時
Created multithreaded server process	ログメッセージ
(OS pid = 2756)	オペレーティングシステムのプロセス ID 番号
for File System Manager	Siebel Server コンポーネント
with task id 4114	Siebel Server タスクを参照しているタスク ID 番号

Siebel Server コンポーネントログの設定

コンポーネントログでは、特定の Siebel Server コンポーネントに関連するイベントタイプが使用されます。たとえば、SQL Tracing というイベントタイプは、特定のサーバーコンポーネントの SQL 文を追跡するコンポーネントレベルのイベントです。この項では、サーバーコンポーネントイベントタイプを設定し、表示する方法について説明します。詳しくは、次の項を参照してください。

- 51 ページの「コンポーネントイベントタイプのログレベルの設定」
- 53 ページの「コンポーネントログファイルの表示」
- 53 ページの「コンポーネントログファイルの例」
- 57 ページの「コンポーネント診断の共通イベントタイプ」
- 57 ページの「Application Object Manager 診断の一般的なイベントタイプ」

コンポーネントイベントタイプのログレベルの設定

この項では、Server Manager の GUI または Server Manager のコマンドラインインターフェイスプログラム (srrvmgr) を使用して、サーバーコンポーネントイベントタイプのログレベルを設定する方法について説明します。イベントログとイベントタイプの基本情報については、43 ページの「Siebel Server およびコンポーネントログの設定について」を参照してください。生成された Siebel Server コンポーネントログファイルを表示するには、53 ページの「コンポーネントログファイルの表示」を参照してください。Siebel Server コンポーネントログファイルの例については、53 ページの「コンポーネントログファイルの例」を参照してください。

備考： ログレベルの設定はただちに有効になります。

Server Manager の GUI で Siebel Server コンポーネントイベントタイプのログレベルを設定するには

- 1 アプリケーションレベルのメニューから、[移動] > [サイトマップ] > [管理-サーバー設定] を選択します。
- 2 リンクバーから、[サーバー] をクリックします。
- 3 [Siebel サーバー] リストで、対象の Siebel Server を選択します。
- 4 [コンポーネント] リストで、対象の Siebel Server コンポーネントを選択します。
- 5 下部のビューで [イベント] をクリックします。
- 6 対象の Siebel Server コンポーネントイベントタイプを選択します。
 - Siebel アプリケーションの特定の部分に関連するイベントタイプの詳細については、製品固有のマニュアルを参照するか、SupportWeb で情報を入手してください。
 - サーバーコンポーネントで使用されるアダプタ汎用イベントタイプや、アプリケーションオブジェクトマネージャの診断については、57 ページの「コンポーネント診断の共通イベントタイプ」および 57 ページの「Application Object Manager 診断の一般的なイベントタイプ」を参照してください。

7 [ログレベル] フィールドに、このイベントタイプに設定するログレベルを入力します。

ログレベルについては、44 ページの表 6 を参照してください。

8 メニューボタンをクリックし、[レコードを保存] を選択します。

図 11 に、Server Request Broker (エイリアス SRBroker) コンポーネントについて、Performance Event イベントタイプをログレベル 2 に設定する例を示します。

The screenshot shows two parts of the Siebel configuration interface. The top part is a table for component configuration:

Component	Alias	Component Group	Enable State
> Server Request Broker	SRBroker	System	✓

The bottom part is a table for event configuration:

Component Alias	Event Type	Log Level	Description
SRBroker	Error Condition	1	Triggered upon reaching an unhandled error or exception
SRBroker	General Events	1	General event point logging
SRBroker	Param Encryption	1	Param encryption values in the scr layer
> SRBroker	Performance Event	2	Event for Performance Measurements
SRBroker	SRM record Synchronize	1	Triggered during the SRM synchronize from gateway to the database.
SRBroker	Component Tracing	1	A trace condition was met (used from LogTrace only)
SRBroker	Task Configuration	1	Configuration of Server Task
SRBroker	Task Configuration at exit	1	Configuration of Server Task at exit

図 11 Server コンポーネントのログレベルの設定

srvrmgr でコンポーネントイベントタイプを設定するには

■ 次のように入力します。

```
change evtloglvl event_alias_name=level for component component_alias_name
```

コマンドラインインターフェイスでサーバー固有のコンポーネントイベントタイプを設定するには

■ 次のように入力します。

```
change evtloglvl event_alias_name=level for server siebel_server_name component component_alias_name
```

srvrmgr でコンポーネントイベントタイプを表示するには

■ 次のように入力します。

```
list evtloglvl for component component_alias_name
```

srvrmgr プログラムの起動、実行、および設定については、『Siebel システム管理ガイド』を参照してください。

コンポーネントログファイルの表示

コンポーネントレベルのイベントは、コンポーネントに基づいて各タスクのログファイルに書き込まれます。Windows 上のログディレクトリの位置は `SIEBSRVR_ROOT¥log` です。UNIX 上のログディレクトリの位置は `SIEBSRVR_ROOT/enterprises/EnterpriseServerName/SiebelServerName/log` です。コンポーネントタスクログファイルの一部は、Server Manager の GUI で表示できます。詳しくは、[32 ページの「サーバーコンポーネントタスクログファイルの監視」](#)を参照してください。個々のコンポーネントタスクログファイルは、単一のログファイルに統合することもできます。詳細とファイル名の命名規則については、[47 ページの「コンポーネントログファイルについて」](#)を参照してください。

Siebel Server コンポーネントイベントログファイルの分析に役立つように、Log File Analyzer (LFA) ユーティリティを使用してクエリーを実行し、対象のログファイルを見つけます。この機能については、[第 8 章「システムログファイルのクエリー」](#)を参照してください。

コンポーネントログファイルの例

この項では、コンポーネントイベントログファイルの抜粋と例を示します。イベントログのフォーマットと情報については、次の各例で詳細に説明します。

コンポーネント起動ログファイルの例

次のログファイルの例は、Siebel Server 上で稼働するコンポーネントの通常の起動中に各 Siebel Server コンポーネントログファイルに書き込まれる内容を示しています。次の例では、イベントサブタイプ `LstnObjInherit` で定義される File System Manager コンポーネントについてイベントが作成されます。このサンプル出力については、[表 10](#)を参照してください。このイベントの重大度は 3 で、このサブタイプのイベントはイベントタイプ `ServerLog` に属します。このイベントタイプがログレベル 1 ~ 5 に設定されている場合は、次の情報がログファイルに記録されます。

```
ServerLog LstnObjInherit 3 0 2003-05-13 11:35:10Inherited listening object for port 49172
```

表 10 イベントサブタイプ `LstnObjInherit`

ログの詳細	説明
ServerLog	イベントタイプエイリアス
LstnObjInherit	イベントサブタイプ
3	イベントの重大度
0	SARM ID
2003-05-13 11:35:10	ログの日時
Inherited listening object for port 49172	ログメッセージ

このサンプルログファイルは、`FSMSrvr_4114.log` というコンポーネントログファイルからの抜粋で、Siebel Server の log ディレクトリに配置されています。タスク ID、4114 がこのログファイルのタイトルを定義し、適切な Siebel Server ログファイルのログメッセージに対応しています。このメッセージについては、[50 ページの表 9](#)を参照してください。

サーバーリクエストブローカーのログファイルの例

次の例は、サーバーリクエストブローカーのログファイルの例のエントリを示しています。このログファイルの名前は SRBroker_TaskID.log で、Siebel Server /log ディレクトリにあります。最初の例は、コンポーネントイベントタイプ General Events (エイリアス GenericLog) に属する、イベントサブタイプ GenericInfo で定義されているイベントを取得します。このサンプル出力については、表 11 を参照してください。このイベントの重大度は 3 で、General Event ログレベルが 3 ~ 5 に設定されている場合にログファイルに記録されます。

```
GenericLog GenericInfo 3 0 2003-05-13 14:07:31Set environment variable
DB2CODEPAGE=1252
```

表 11 イベントサブタイプ GenericInfo

ログの詳細	説明
GenericLog	イベントタイプエイリアス
GenericInfo	イベントサブタイプ
3	イベントの重大度
0	SARM ID
2003-05-13 14:07:31	ログの日時
Set environment variable DB2CODEPAGE=1252	ログメッセージ

次の 2 つの例は、コンポーネントイベントタイプ SQL Parse と Execute に属します。イベントは、イベントサブタイプが Statement と Prepare + Execute の場合に記録されました。このサンプル出力については、それぞれ 54 ページの表 12 と 55 ページの表 13 を参照してください。これらのイベントサブタイプはいずれも重大度が 4 で、SQL Parse および Execute のイベントタイプが 4 または 5 に設定されている場合にログファイルに記録されます。

```
SQLParseAndExecute Statement 4 0 2003-05-13 14:07:38 select ROW_ID, NEXT_SESSION,
MODIFICATION_NUM from dbo.S_SSA_ID
```

表 12 イベントサブタイプ Statement

ログの詳細	説明
SQLParseAndExecute	イベントタイプエイリアス
Statement	イベントサブタイプ
4	イベントの重大度
0	SARM ID
2003-05-13 14:07:38	ログの日時
select ROW_ID, NEXT_SESSION, MODIFICATION_NUM from dbo.S_SSA_ID	SQL 文

```
SQLParseAndExecute Prepare + Execute4 0 2003-05-13 14:07:38Time:0s, Rows:0,
Avg.Time:0s
```

表 13 イベントサブタイプ Prepare + Execute

ログの詳細	説明
SQLParseAndExecute	イベントタイプエイリアス
Prepare + Execute	イベントサブタイプ
4	イベントの重大度
0	SARM ID
2003-05-13 14:07:38	ログの日時
Time:0s, Rows:0, Avg.Time:0s	SQL 実行の統計

コンポーネントエラーログファイルの例

この例は、割当マネージャコンポーネントログファイルの例のエラーエントリを示しています。このログファイルは `SIEBSRVR_ROOT¥log` ディレクトリに置かれ、`AsgnSrvr_TaskID.log` という名前が付いています。ログメッセージは、コンポーネントイベントタイプ General Events (エイリアス GenericLog) に属する、イベントサブタイプ GenericError で定義されるイベントを詳細に示しています。このサンプル出力については、表 14 を参照してください。エラーイベントの重大度は 1 で、General Event ログレベルが 1 ~ 5 に設定されている場合にログファイルに記録されます。

```
GenericLog GenericError 1 0 2003-04-03 01:02:12[MERANT][ODBC Oracle 8
driver][Oracle 8]ORA-12541: TNS:no listener TNS:no listener
```

表 14 イベントサブタイプ GenericError

ログの詳細	説明
GenericLog	イベントタイプエイリアス
GenericError	イベントサブタイプ
1	イベントの重大度
0	SARM ID
2003-04-03 01:02:12	ログの日時
MERANT][ODBC Oracle 8 driver][Oracle 8]ORA-12541: TNS:no listener	エラーメッセージ

詳細なコンポーネントログファイルの例

これまでのログファイルの例は、さまざまなコンポーネントログファイルから抜粋したものです。最後の例として、Document Server コンポーネントによって実行されたタスクが正常終了した後、ログファイルに記録されたログファイルメッセージをまとめて次に示します。このログファイル情報は、適切なイベントタイプログレベルが設定されているときに記録されます。

```
ObjMgrSessionInfoObjMgrLogin3 02003-02-07 10:54:01Login name : SADMIN
ObjMgrSessionInfoObjMgrAuth3 0 2003-02-07 10:54:01Authentication name : SADMIN
DocServerInfoDocServerInfo0 0 2003-02-07 10:54:01Document Server was called.
DocServerInfoDocServerInfo0 0 2003-02-07 10:54:01Document Server input parameters: Service: Document
Generator, Method: OnGenerateHTML
CorrespInfoCorrespInfo0 02003-02-07 10:54:01Correspondence Service Constructor
CorrespDetailCorrespDetail2 0 2003-02-07 10:54:01Correspondence service method invoked is
Start.Correspondence Id is 1-26I5P.From Submit is .
CorrespDetailCorrespDetail2 02003-02-07 10:54:01Correspondence service method invoked is
OnGenerateHTML.Correspondence Id is 1-26I5P.From Submit is .
CorrespDebugCorrespDebug3 0 2003-02-07 10:54:04Correspondence Service: Verify Recipients...
CorrespDebugCorrespDebug3 0 2003-02-07 10:54:04Correspondence Service: Getting template from filesystem...
CorrespDebugCorrespDebug3 0 2003-02-07 10:54:04Correspondence Service: Attach Word or Word Pro...
CorrespDebugCorrespDebug3 0 2003-02-07 10:54:04Correspondence Service: Generating DataSource...
CorrespDetailCorrespDetail2 0 2003-02-07 10:54:04Number of recipients: 1
CorrespDebugCorrespDebug3 02003-02-07 10:54:06Correspondence Service: Performing MailMerge...
CorrespDebugCorrespDebug3 0 2003-02-07 10:54:08Correspondence Service: MailMerge is finished successfully.
CorrespDebugCorrespDebug3 0 2003-02-07 10:54:10Correspondence Service: Shutting down word processor...
DocServerInfoDocServerInfo0 0 2003-02-07 10:54:10Document Server finished successfully.
CorrespInfoCorrespInfo0 0 2003-02-07 10:54:11Correspondence Service Destructor
```


コンポーネント診断の共通イベントタイプ

一般的なサーバーのコンポーネント診断の目的で、表 15 のイベントタイプを指定されているログレベルに設定します。ログレベルを上げると、目的のサーバーコンポーネント用のログファイルが作成されるか、またはコンポーネントのログファイルに含まれているログ情報の量が増加します。コンポーネントイベントタイプに対するログレベルの設定方法の詳細については、51 ページの「コンポーネントイベントタイプのログレベルの設定」を参照してください。

備考： ログレベルを上げると、必要なメモリおよびシステムリソースが増加します。診断の終了後、イベントタイプが以前の値に戻っていることを確認します。

表 15 コンポーネント診断の共通イベントタイプ

イベントタイプ名	イベントタイプエイリアス	ログレベルの設定
コンポーネントの追跡	Trace	4
一般的なイベント	GenericLog	4
タスクの設定	TaskConfig	4
SQL 追跡	SQL	4
SQL エラー	SQLException	4
SQL 解析および実行	SQLParseAndExecute	4

Application Object Manager 診断の一般的なイベントタイプ

表 16 のイベントタイプを、一般的な Application Object Manager (AOM) 診断の目的に指定されているログレベルに設定します。ログレベルを上げると、目的の AOM 用のログファイルが作成されるか、または AOM コンポーネントのログファイルに含まれているログ情報の量が増加します。イベントログレベルを上げると、AOM タスクの一部である個々のプロセスおよびステップの情報が表示されます。

AOM コンポーネントイベントタイプに対するログレベルの設定方法の詳細については、51 ページの「コンポーネントイベントタイプのログレベルの設定」を参照してください。

備考： ログレベルを上げると、必要なメモリおよびシステムリソースが増加します。診断の終了後、イベントタイプが以前の値に戻っていることを確認します。

表 16 Application Object Manager 診断の一般的なイベントタイプ

イベントタイプ名	イベントタイプエイリアス	ログレベルの設定	説明
メッセージのフローを追跡するイベント	MessageFlow	4	Application Object Manager (AOM) と Siebel Web Server Extension (SWSE) の間で交換されるメッセージを取得します。
オブジェクトマネージャのセッション情報	ObjMgrSessionInfo	4	ユーザーセッションのログイン、ログアウト、およびタイムアウトの情報を取得します。
イベントのコンテキスト	EventContext	4	実行されるアプレットおよびメソッド、ビュー名、およびユーザーが表示する画面名を取得します。
		5	セッションの完了時に、ユーザー名および IP アドレスを取得します。
Object Manager データオブジェクトのログ	ObjMgrDataObjLog	5	データベース接続、検索条件、ソート条件、およびカーソルの作成、使用、および削除などのデータマネージャオブジェクト追跡を取得します。
Object Manager ログ	ObjMgrLog	5	ライセンスのロード、SRF を開く、エラーなどの一般的な AOM イベントを取得します。
Object Manager Business Component ログ	ObjMgrBusCompLog	4	Business Componentに関連するイベント（作成・削除）を取得します。
Object Manager ビジネスサービスログ	ObjMgrBusServiceLog	4	ビジネスサービスに関連するイベント（作成・削除・メソッド実行など）を取得します。
主要スレッドイベント	MainThread	4	(主要 Multithreaded Server ログで) タスクカウンタ、タスクの作成、タスクの終了を取得します。
タスク関連イベント	TaskEvents	4	タスクの作成、コンテキスト、セッションタイムアウト、および終了の情報を取得します。

表 16 Application Object Manager 診断の一般的なイベントタイプ

イベントタイプ名	イベントタイプエイリアス	ログレベルの設定	説明
SQL 解析および実行	SQLParseAndExecute	4	データベースコネクタによって処理される SQL の insert 文、update 文、および delete 文を取得します。これには SQL 文およびバインド変数も含まれます。その内容は ObjMgrSqlLog イベントに似ていますが、select 文は SQLParseAndExecute イベントによって取得されません。
Object Manager SQL Log	ObjMgrSqlLog	4	AOM データオブジェクト層によって処理される SQL の select 文、insert 文、update 文、および delete 文を取得します。SQL 文およびバインド変数も含まれます。また、SQL カーソルの準備、実行、およびフェッチ時間も取得します。
		5	クエリーに対して処理される内部およびカスタムの検索条件、ソート条件、および結合、実行されるオペレーションのコールスタックを取得します。このイベントをログレベル 5 に設定すると、コールスタックが生成されるため、パフォーマンスに大きく影響します。このイベントをログレベル 5 に設定する場合は、事前に必ず Siebel テクニカルサポートにお問い合わせください。
SQL Profiling	SQLProfiling	4	SQL Profiling 情報を取得します。正常に動作していないコンポーネントの診断に役立ちます。
SQL の概要	SQLSummary	4	SQL の準備時間、フェッチ時間、および実行時間を取得します。SQL 文の実行に関する詳細情報が含まれます。
遅い SQL クエリー	SQLSlowQuery	4	SQL のパフォーマンスを取得します。処理の最も遅い 10 個のクエリーが表示されます。
セキュリティアダプタログ	SecAdptLog	5	セキュリティアダプタ追跡情報を AOM ログファイルに取得します。
Security Manager ログ	SecMgrLog	5	セキュリティマネージャ追跡情報を AOM ログファイルに取得します。

4

Siebel 診断ツールを使用したデータの監視と分析

Siebel 管理フレームワークの一部である Siebel 診断ツールを使用すると、展開された Siebel Business Applications の展開時におけるユーザーセッションのデータ、エラー、およびパフォーマンスに関する問題の監視、分析、および診断に役立ちます。

この章では、Siebel 管理フレームワークのアーキテクチャの概要と、Siebel 診断ツール機能の使用方法について説明します。次のトピックが含まれています。

- 61 ページの「Siebel 管理フレームワークのアーキテクチャについて」
- 64 ページの「Siebel 診断ツールについて」
- 66 ページの「Siebel 診断ツールを使用するための前提条件」
- 67 ページの「Siebel 診断ツールの起動」
- 68 ページの「Siebel 診断ツールのクエリーパラメータフィールドについて」
- 69 ページの「Siebel 診断ツール用の設定の指定」
- 69 ページの「イベントログ分析を使用したセッションエラーおよびイベントの監視」
- 73 ページの「サーバーパフォーマンス分析を使用したサーバーおよびサーバーコンポーネントのデータの監視」
- 77 ページの「ユーザーパフォーマンス分析を使用したユーザーセッションの監視」

Siebel 管理フレームワークのアーキテクチャについて

Siebel 管理フレームワークは、管理および診断用のモジュールセットであり、Siebel 環境にインストールし、必要に応じて展開できます。Siebel 管理フレームワークは、次のエンティティで構成されます。

- Siebel 管理サーバ
- Siebel 管理エージェント
- Siebel 診断ツール (GUI ユーティリティ)

図 12 に、Siebel 管理フレームワークのアーキテクチャを示します。

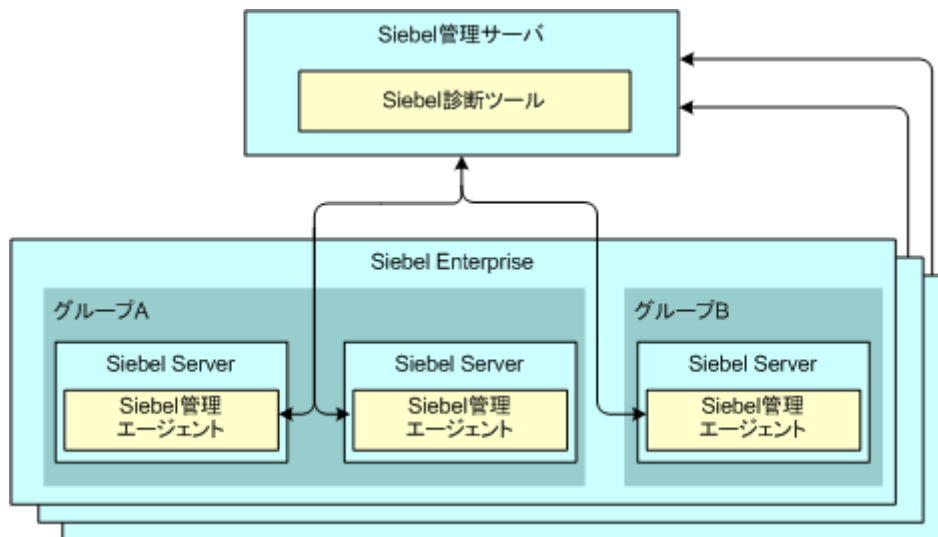


図 12 Siebel 管理フレームワークのアーキテクチャ

図 12 は、Siebel 管理フレームワーク内での次の関係を示しています。

- Siebel 診断ツールは Siebel 管理サーバに配置されます。
- Siebel 管理エージェントは Siebel Enterprise 内の選択した各 Siebel Server に配置されます。
- 単一の Siebel 管理サーバで、複数の Siebel Enterprise と連携できます。
- Siebel 管理サーバと Siebel 管理エージェントとの間には 1 対多の関係が存在します。
- サーバグループと Siebel Server との間には 1 対多の関係が存在します。

備考： 1 つの Siebel Enterprise 内では、複数の Siebel Server をグループ化できます。ただし、各サーバは、1 つのサーバグループにのみ属することができます。

Siebel 管理フレームワークのエンティティのインストールについて

Siebel 管理サーバと Siebel 管理エージェントは Siebel 診断ツールおよび Siebel アプリケーション配置マネージャ (ADM) の機能の基礎となるインフラストラクチャコンポーネントです。Siebel 管理エージェントは、TCP/IP を使用する JMX API (Java Management Extensions アプリケーションプログラムインターフェイス) を介して Siebel 管理サーバと通信します。

Siebel 管理サーバは、Windows サーバマシンにインストールします。これに対し、Siebel 管理エージェントは通常、Siebel Server のインストールプロセスの一部としてインストールされます。ただし、個別のインストーラを使用して後でエージェントをインストールすることもできます。本番環境での問題を監視、分析、および診断するためのグラフィカルユーザーインターフェイスを備えた Siebel 診断ツールは、Siebel 管理サーバのインストール時に自動的にインストールされます。

備考： Siebel 診断ツールを使用するには、Oracle Application Management Pack for Siebel のライセンスが必要です。この Management Pack については、Oracle Enterprise Manager 10g Release 3 (10.2.0.3) ドキュメントライブラリの『Enterprise Manager Licensing Guide』を参照してください。このライブラリには、Oracle Technology Network (<http://www.oracle.com/technology>) からアクセスできます。

Siebel 管理フレームワークに関するリソース

Siebel 管理フレームワーク (62 ページの図 12 を参照) のエンティティを使用する前に、これらのエンティティとその機能について説明している他のリソースを参照することをお勧めします。表 17 に、これらのリソースを示します。

表 17 Siebel 管理フレームワークに関するリソース

参照情報	参照先
Siebel 診断ツール	この章
<ul style="list-style-type: none"> ■ インストールと設定 <ul style="list-style-type: none"> ■ Siebel Server ■ サーバグループ ■ Siebel 管理エージェント ■ Siebel 管理サーバ ■ Siebel 診断ツール 	使用しているオペレーティングシステム用の『Siebel インストールガイド』を参照してください。
Oracle Enterprise Manager の Siebel Management Pack	Oracle Enterprise Manager 10g Release 3 (10.2.0.3) ドキュメントライブラリの『Enterprise Manager Licensing Guide』。このライブラリには、Oracle Technology Network (http://www.oracle.com/technology) からアクセスできます。
サポートされているプラットフォーム	Siebel SupportWeb 上の「System Requirements and Supported Platforms & Miscellaneous Documentation」
サーバおよびサーバサービスの開始と停止	『Siebel システム管理ガイド』
SARM (Siebel Application Response Measurement)	『Siebel パフォーマンスチューニングガイド』
Siebel ADM (アプリケーション配置マネージャ)	『Siebel Application Deployment Manager Guide』
ライセンスキー	『Siebel アプリケーション管理ガイド』
セキュリティ展開オプション	『Siebel セキュリティガイド』

Siebel 診断ツールについて

Siebel 診断ツールはグラフィカルユーザーインターフェイスを備えた Web アプリケーションであり、このツールを使用してパフォーマンスデータおよびイベントログを分析することにより、システムおよびユーザーに関する問題を監視して診断できます。一部のパフォーマンスデータおよびイベントログは SARM (Siebel Application Response Measurement) によって収集されます。このツールは、既存のシステム管理ツールを補足するものとして使用してください。SARM については、『Siebel パフォーマンスチューニングガイド』を参照してください。

62 ページの図 12 に示すように、Siebel 診断ツールは、Siebel Server 上に配置されたリモートの JMX エージェント (Siebel 管理エージェント) との直接接続を介してデータを収集します。

Siebel 診断ツールには、次の機能があります。

- **イベントログ分析**：特定のユーザーセッションについて、エンタープライズ、サーバーグループ、サーバー、およびサーバーコンポーネントの各レベルにおけるログおよびエラーの詳細を使用して、ユーザーセッションの問題の原因を診断および特定できます。Siebel 診断ツールの機能のうち、エンタープライズ内のすべてのサーバーを検索できるのはイベントログ分析機能だけです。詳しくは、69 ページの「[イベントログ分析を使用したセッションエラーおよびイベントの監視](#)」を参照してください。
- **サーバーパフォーマンス分析**：特定のサーバーについて、選択したサーバーコンポーネントの応答時間、CPU 使用率、メモリのデータを使用して、ユーザーセッションに関する問題の診断と分析を行うことができます。データは SARM によって収集されます。詳しくは、73 ページの「[サーバーパフォーマンス分析を使用したサーバーおよびサーバーコンポーネントのデータの監視](#)」を参照してください。
- **ユーザーパフォーマンス分析**：特定のユーザーが開始したリクエストに関するサーバーパフォーマンスデータの診断と特定を行うことができます。データは SARM によって収集されます。詳しくは、77 ページの「[ユーザーパフォーマンス分析を使用したユーザーセッションの監視](#)」を参照してください。

Siebel 診断ツールでは、クエリーパラメータの設定を保存することもできます。クエリーパラメータの設定を保存することにより、今後の分析タスクに要する時間を節約できます。詳しくは、69 ページの「[Siebel 診断ツール用の設定の指定](#)」を参照してください。

Siebel 診断ツールでのデータの保存方法と取得方法の比較

Siebel 診断ツールの 3 つの機能のうち、Siebel Enterprise 全体のすべての Siebel Server のデータを取得できるのはイベントログ分析機能だけです。

表 18 に、Siebel 診断ツールの各機能でのデータの保存方法と取得方法の比較を示します。

備考：サーバーパフォーマンス分析およびユーザーパフォーマンス分析を使用するには、SARM を有効にしておく必要があります。SARM を有効にする方法については、『Siebel パフォーマンスチューニングガイド』を参照してください。

表 18 Siebel 診断ツールでのデータの保存方法と取得方法の比較

Siebel 診断ツールの機能	データの保存方法	データの取得方法
イベントログ分析	Siebel データベースの S_SRM_TASK_HIST テーブル	Siebel Enterprise内のすべてのSiebel Server
サーバーパフォーマンス分析	SARM データ	1 つの Siebel Enterprise 内の 1 つのサーバーまたはサーバーコンポーネント
ユーザーパフォーマンス分析	SARM データ	1 つの Siebel Enterprise 内の 1 つのサーバーまたはサーバーコンポーネントのみ

Siebel 診断ツールのシナリオのサンプル

Siebel 診断ツールの使用方法は、状況に応じて異なります。各分析ツールのシナリオを次に示します。

- **イベントログ分析：**Siebel Call Center のユーザーが、さまざまな画面とビューを移動して、複雑なビジネスプロセスを実行しようとしているとします。これにより、ワークフロープロセス、割当マネージャなどのバッチサーバーコンポーネントの実行がトリガーされることがあります。このプロセス中にエラーが発生した場合、ユーザーは問題の原因を特定できない可能性があります。この問題を診断するには、管理者が Siebel 診断ツールにログインし、[イベントログ分析] 画面を使用して、ユーザーが実行したビジネスプロセス全体に関連するすべてのタスクのイベントログを調べます。イベントログは、複数のサーバーの複数のコンポーネントのタスクにまたがる可能性があります。
- **サーバーパフォーマンス分析：**アプリケーション全体のパフォーマンスが全体的に低下しているとします。この問題に対処するには、管理者は最初に、特定のサーバー上で実行されているすべてのコンポーネントに関して SARM を有効にする必要があります。次に、管理者は Siebel 診断ツールにログインし、[サーバーパフォーマンス分析] 画面を使用して、そのサーバーに関して収集した SARM データを診断し、パフォーマンスのボトルネックを特定します。
- **ユーザーパフォーマンス分析：**複数のユーザーから、アプリケーションセッションでのパフォーマンスの問題が報告されたとします。この状況に対処するには、管理者は最初に、そのコンポーネント（たとえば CallCenter Object Manager）に関して SARM を有効にします。次に、管理者は Siebel 診断ツールにログインし、[ユーザーパフォーマンス分析] 画面を使用して、そのコンポーネントに関して収集した SARM データを診断し、パフォーマンスのボトルネックを特定します。

Siebel 診断ツールを使用するための前提条件

ここでは、Siebel 診断ツールを初めて起動する前に満たしておく必要がある前提条件について説明します。Siebel 診断ツールは Siebel 管理フレームワークのエンティティの 1 つであるため、Siebel 診断ツールを使用する前に Siebel Server、Siebel 管理サーバ、および Siebel 管理エージェントのインストールと設定を済ませておく必要があります。Siebel 診断ツールは、Siebel 管理サーバのインストールの一部としてインストールされます。また、Siebel 管理エージェントは、通常は Siebel Server のインストールの一部としてインストールされます。

図 13 に、Siebel 診断ツールを初めて使用する場合に実行する必要がある前提条件手順の概要を示します。これらの前提条件手順を 1 回だけ実行することにより、Siebel 診断ツールをいつでも起動して使用できるようになります。Siebel 診断ツールの起動方法については、67 ページの「Siebel 診断ツールの起動」を参照してください。

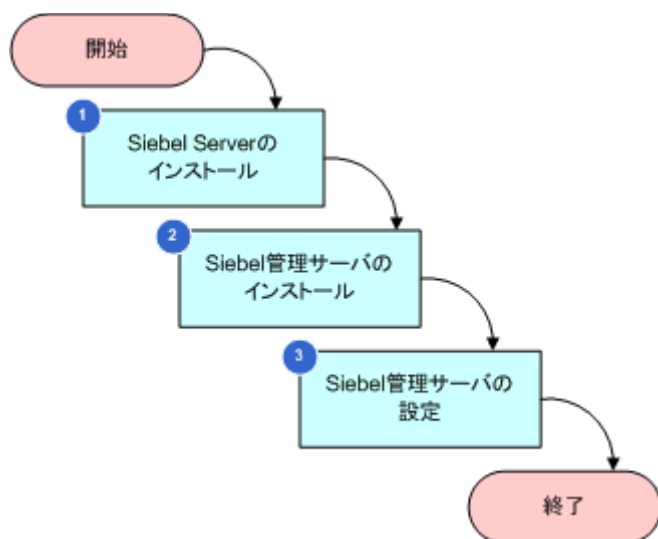


図 13 Siebel 診断ツールを初めて使用する場合の前提条件手順

図 13 は、次の前提条件手順を示しています。

- 1 監視するエンタープライズ用の 1 つまたは複数の Siebel Server をインストールして設定します。

通常、Siebel 管理エージェントは、Siebel Server のインストールプロセスの一部としてインストールされます。ただし、後で必要に応じて Siebel 管理エージェントを Siebel Server にインストールまたは再インストールできます。そのためには、個別のインストーラを使用します。このインストーラについては、使用しているオペレーティングシステム用の『Siebel インストールガイド』を参照してください。

- 2 Siebel 管理サーバをインストールします。

Siebel 診断ツールは自動的にインストールされます。Siebel 診断ツールは WAR ファイルとしてパッケージ化されており、Siebel 管理サーバのインストールの一部として組み込まれています。この WAR ファイルのデフォルトのディレクトリは、`C:\$ba80¥mgmtsrvr¥tomcat¥webapps¥DiagTool.war` です。

注意： Siebel 管理サーバは、別の専用マシンにインストールすることをお勧めします。

- 3 Siebel 管理サーバを設定します。

Siebel 管理フレームワークの各エンティティのインストールと設定については、使用しているオペレーティングシステム用の『Siebel インストールガイド』を参照してください。

Siebel 診断ツールの起動

次の手順に従って、Siebel 診断ツールを起動します。

注意： Siebel 診断ツールを初めて起動する場合は、すべての前提条件が満たされていることを確認したうえで起動してください。これらの前提条件については、66 ページの「Siebel 診断ツールを使用するための前提条件」を参照してください。

Siebel 診断ツールを起動するには

- 1 Siebel 管理サーバシステムサービスを開始します。

サービスの開始については、『Siebel システム管理ガイド』を参照してください。

- 2 サポートされている Web ブラウザで、次の URL にアクセスします。

`http://MgmtServer_Host:Http_Port/DiagTool`

ここで、各項目は次のようになります：

- `MgmtServer_Host` は、Siebel 管理サーバがインストールされているマシンです。
- `Http_Port` は、Siebel 診断ツールの実行に使用するポート番号です。

備考： デフォルトのポートは 8080 です。ただし、Siebel 管理サーバの設定時にカスタムポートを指定できます。Siebel 管理サーバのカスタムポートの指定については、使用しているオペレーティングシステム用の『Siebel インストールガイド』を参照してください。

サポートされているブラウザについては、Siebel SupportWeb 上の「System Requirements and Supported Platforms & Miscellaneous Documentation」を参照してください。

- 3 ログイン画面で、Siebel 管理サーバの設定のセットアップ時に作成したユーザー ID およびパスワードを入力します。たとえば、作成した Siebel ユーザーの名前が `diagtool` でパスワードが `diag` である場合は、この情報をここで入力します。

Siebel 診断ツールアプリケーションの画面が表示されます。デフォルトでは、[サーバーパフォーマンス分析] 画面がアクティブになっています。

Siebel 診断ツール用の Siebel ユーザーを作成する方法については、使用しているオペレーティングシステム用の『Siebel インストールガイド』を参照してください。

これで、Siebel 診断ツールを使用して分析タスクを行う準備ができました。表 19 に、Siebel 診断ツールの使用に関する詳細情報へのリンクを示します。

表 19 Siebel 診断ツールの機能へのリンク

設定と使用に関する情報	参照先
クエリーパラメータフィールド	68 ページの「Siebel 診断ツールのクエリーパラメータフィールドについて」
設定	69 ページの「Siebel 診断ツール用の設定の指定」
イベントログ分析	69 ページの「イベントログ分析を使用したセッションエラーおよびイベントの監視」
サーバーパフォーマンス分析	73 ページの「サーバーパフォーマンス分析を使用したサーバーおよびサーバーコンポーネントのデータの監視」
ユーザーパフォーマンス分析	77 ページの「ユーザーパフォーマンス分析を使用したユーザーセッションの監視」

Siebel 診断ツールのクエリーパラメータフィールドについて

分析リクエストのフィルターに使用するクエリーフォームが、Siebel 診断ツールの 3 つの機能要素（イベントログ分析、サーバーパフォーマンス分析、およびユーザーパフォーマンス分析）と、[設定] 画面に用意されています。表 20 に、これらのクエリーフォームのフィールドを示します。各クエリーフォームには、同じクエリーフィールドが多数表示されますが、一部のフィールドは、特定の分析画面に固有です。これらのフィールドは、個々のクエリーに応じて設定を変更してください。

表 20 Siebel 診断ツールの分析画面のクエリーパラメータフィールド

フィールド	説明	サーバーパフォーマンス分析	ユーザーパフォーマンス分析	イベントログ分析	設定
エンタープライズ	Siebel Enterprise の名前	有	有	有	有
グループ	サーバーグループの名前	有	有	有	有
サーバー	特定のサーバーの名前	有	有	有	有
コンポーネント	特定のコンポーネントの名前	有	有	有	有
開始時刻 終了時刻	分析の開始時刻と終了時刻	有	有	有	有
結果タイプ	ヒストグラム（棒グラフ）または円グラフを返します。	有	無	無	無
ユーザー名	照会するユーザーの名前	無	有	有	有
OS PID	オペレーティングシステムのプロセス ID	無	無	有	無
タスク ID	タスク ID	無	無	有	無

各クエリーフォームの [エンタープライズ] フィールドには、configuration.agents.xml ファイル (MgmtSrvrInstallDir\tomcat\webapps\DiagTool\WEB-INF) で指定された一意のエンタープライズ名が自動入力されます。configuration.agents.xml ファイルについては、使用しているオペレーティングシステム用の『Siebel インストールガイド』を参照してください。

[グループ]、[サーバー]、[コンポーネント] の各フィールドも同様に自動入力されます。開始する各クエリーの [エンタープライズ]、[グループ]、[サーバー]、および [コンポーネント] の各フィールドは、自動的に更新されます。ただし、更新されるのは、変更したフィールドより下のレベルのフィールドのみです。たとえば、[エンタープライズ] フィールドを変更した場合、[グループ]、[サーバー]、および [コンポーネント] の各フィールドが自動的に更新されます。しかし、[サーバー] フィールドを変更した場合は、[コンポーネント] フィールドのみが更新されます。

また、[設定] 画面では、さまざまなクエリーフィールドの設定値を指定することができます。これにより、今後の分析開始時に時間を節約できます。設定を指定する方法については、69 ページの「Siebel 診断ツール用の設定の指定」を参照してください。

Siebel 診断ツール用の設定の指定

ここでは、Siebel 診断ツールの設定の概要とこの機能を使用するための手順について説明します。

Siebel 診断ツールの設定について

[診断設定] 画面では、[エンタープライズ]、[グループ]、[サーバー]、[コンポーネント]、[開始時刻]、[終了時刻]、および [ユーザー名] の各フィールドの設定値を指定できます。これにより、分析画面（イベントログ分析、サーバーパフォーマンス分析、およびユーザーパフォーマンス分析）を使用するときに、[設定] 画面で指定した値が、各クエリーフォームの対応するフィールドにデフォルトで表示されるようになります。ただし、[設定] 画面で指定した値を変更することもできます。これを行うには、フィールドに別の値を入力するか、設定をリセットします。

たとえば、GenTrig サーバーコンポーネントを定期的に監視する場合は、[設定] 画面の [コンポーネント] ドロップダウンリストから [GenTrig] を選択します。その後、いずれかの分析画面に移動すると、[コンポーネント] フィールドのデフォルト値として GenTrig コンポーネントが表示されます。

注意： Siebel 診断ツールの設定は、Siebel 管理サーバの Cookie として保存されるため、この機能を使用するには、ブラウザで Cookie が表示されるように設定する必要があります。これらの Cookie の確認と削除を行うには、ブラウザのコントロールを使用します。

Siebel 診断ツールの設定の指定

クエリーフォームのフィールドの設定値を指定するには、[設定] 画面を使用します。

Siebel 診断ツール用の設定を指定するには

- 1 Siebel 診断ツールがアクティブでない場合は、このツールを起動し、[設定] をクリックします。
- 2 設定値を指定するフィールドに値を入力し、[保存] をクリックします。

設定が保存されたことを示すメッセージが表示されます。

これらのフィールドの説明については、68 ページの「Siebel 診断ツールのクエリーパラメータフィールドについて」を参照してください。

イベントログ分析を使用したセッションエラーおよびイベントの監視

ここでは、Siebel 診断ツールのイベントログ分析機能の概要およびイベントログ分析を使用してセッションエラーおよびイベントの監視、分析、および診断を行う方法について説明します。

イベントログ分析について

イベントログ分析を使用すると、特定のユーザーセッションについて、エンタープライズ、サーバーグループ、サーバー、およびコンポーネントの各レベルにおけるユーザーセッションログおよびエラーの詳細データにアクセスできます。また、ユーザーセッションの問題の分析と特定を行うこともできます。

Siebel 診断ツールの機能のうち、特定のエンタープライズ内のすべてのサーバーのデータを取得できるのはイベントログ分析機能だけです。たとえば、特定のユーザーまたはすべてのユーザーのセッション詳細をクエリーできます。[ユーザー名] に「User A」という値を指定してクエリーを実行すると、User A が開始したすべてのタスクが取得されます。一方、[ユーザー名] の値を指定しなかった場合は、エンタープライズ内の一致するタスクがすべて取得されます。

通常は、次のように指定して、ユーザーセッションの詳細をクエリーします。

- 指定した開始時刻から終了時刻までの期間
- 特定のサーバーまたはサーバーグループのユーザー
- 特定のコンポーネントのユーザー

ただし、次の条件を指定してクエリーを実行することもできます。

- オペレーティングシステムのプロセス ID
- タスク ID

日付範囲クエリーについて

日付範囲クエリーでは、開始時刻と終了時刻を指定することにより、検索で取得される結果の数を制限できます。たとえば、開始時刻が午前 11 時で終了時刻が午後 2 時の場合は、開始時刻が午前 11 時から午後 2 時の間のログファイルだけが取得されます。

ヒント： デフォルトでは、[開始時刻] 日付フィールドと [終了時刻] 日付フィールドの横にある [今] リンクをクリックすると、現在の時刻が表示されます。これらのフィールドは、個々のクエリーで変更できますが、その場合はサーバーのタイムゾーンを忘れないようにしてください。

表 21 に、さまざまな日付範囲クエリーの結果を示します。

表 21 日付範囲クエリーの結果の例

開始時刻	終了時刻	結果
2006-11-10 11:00.00	2006-11-10 14:00.00	開始時刻が午前 11 時から午後 2 時の間のすべてのタスク
2006-11-10 11:00.00	NULL	開始時刻が午前 11 時から現在までのすべてのタスク
NULL	2006-11-10 14:00.00	開始時刻が午後 2 時より前のすべてのタスク
NULL	NULL	すべてのタスク
2006-11-10 11:00.00	2006-11-10 11:00.00	開始時刻が午前 11 時のタスクのみ

Siebel 診断ツールのその他のクエリーパラメータフィールドについては、68 ページの「Siebel 診断ツールのクエリーパラメータフィールドについて」を参照してください。

イベントログ分析の使用方法

[イベントログ分析] 画面を使用してクエリーを実行すると、さまざまな Siebel Server 全体の中から一致するセッションがすべて取得されます。取得されたデータは Siebel データベースの S_SRM_TASK_HIST テーブルに保存され、結果は [セッションクエリー結果] ビューに表示されます。このビューでは、タスクで発生したエラーやタスクのログファイルを確認できます。

エラーが発生した場合、[セッションクエリー結果] ビューのフォームアプレットで [エラー] リンクと [ダウンロード] リンクがアクティブになります。これらのリンクのいずれかをクリックすると、次のことを確認できます。

- [エラー] リンクには、このセッションまたはイベントで発生したエラーに関する詳細情報が表示されます。
- [ダウンロード] リンクには、このセッションまたはエラーに関連するログファイルが表示されます。

イベントログ分析を使用してセッションまたはタスクを監視するには

- 1 Siebel 診断ツールがアクティブでない場合は、このツールを起動します。
- 2 [イベントログ分析] 画面タブをクリックします。
- 3 [エンタープライズ] ドロップダウンリストから、分析するセッションまたはタスクをホストしているエンタープライズを選択します。
- 4 [グループ] ドロップダウンリストから、**ステップ 3** で指定したエンタープライズ内のグループを選択します。[グループ (全件)] を指定することもできます。
- 5 [サーバー] ドロップダウンリストから、**ステップ 3** で指定したエンタープライズ内のサーバーを選択します。すべてのグループのすべてのサーバーを検索することもできます。
- 6 [コンポーネント] ドロップダウンリストから、コンポーネントを選択します。[全コンポーネント] を選択して、すべてのコンポーネントを検索することもできます。
- 7 [開始時刻] と [終了時刻] に値を指定して、分析用に取得するデータの量を制限します。この 2 つのフィールドを空白のままにして、分析に利用できるすべてのデータを取得することもできます。
ヒント: これらのフィールドに現在の日時を入力するには、[今] リンクをクリックし、必要に応じて編集します。
- 8 必要に応じて [ユーザー名] に値を入力します。
- 9 (オプション) 診断するオペレーティングシステムのプロセスがわかっている場合は、[OS PID] フィールドにプロセス ID を入力します。プロセス ID が不明な場合は、このフィールドを空白のままにします。
- 10 (オプション) 診断するタスクの ID がわかっている場合は、[タスク ID] フィールドにタスク ID を入力します。タスク ID が不明な場合は、このフィールドを空白のままにします。

11 [送信] をクリックします。

Siebel 診断ツールによって、クエリー条件に一致するデータが取得され、[セッションクエリー結果] ビューに表示されます。

Event Log Analysis - Session Query Results									
Task ID	User ID	Thread ID	Proc ID	Start Time	End Time	Component	Server	Log Size	Log Details
23068682	sadmin	15	12611	Fri Nov 10 15:32:56 MST 2006		SCCObjMgr_enu	sdcv440s041	605	Errors Download
2097185	sadmin	35	12463	Fri Nov 10 15:32:42 MST 2006		SRBroker	sdcv440s041	0	Errors Download
2097181	sadmin	31	12463	Fri Nov 10 15:32:39 MST 2006		SRBroker	sdcv440s041	0	Errors Download
2097182	sadmin	32	12463	Fri Nov 10 15:32:39 MST 2006		SRBroker	sdcv440s041	0	Errors Download

備考：セッションでエラーが発生した場合は、[ログの詳細] カラムで [エラー] リンクおよび [ダウンロード] リンクがアクティブになります。[クエリーを編集] ボタンをクリックして、元のクエリーを取得して変更することもできます。

12 [エラー] リンクと [ダウンロード] リンクがアクティブな場合は、次のアクションを実行します。

a [エラー] リンクをクリックします。

[セッションエラー] ビューに、このイベントで発生したエラーに関する詳細情報が表示されます。

Event Log Analysis - Session Errors						
Flow ID	Event Type	Event Subtype	Severity	Serm ID	Timestamp	Text
0000000645543143	ObjMgrLog	Error	1	9767	Fri Nov 10 07:33:45 MST 2006	(cscfg.cpp (165)) SBL-CSR-00418: Communication: User is not associated with any communication configuration in the database.
0000004145542ccf	ObjMgrLog	Error	1	10005	Fri Nov 10 07:34:02 MST 2006	(cscfg.cpp (165)) SBL-CSR-00418: Communication: User is not associated with any communication configuration in the database.

Showing 1 - 2 of 2

b [ダウンロード] リンクをクリックします。

[ログの詳細] ビューに、このイベントに関連するログファイルが表示されます。

Log Details - /export/home/qa3/20400/ses/siebsrvr/enterprises/siebel/sdcv440s041/log/SCCObjMgr_enu_0022_23068682.log	
i=2	2006-11-10 07:33:45 2006-11-10 07:35:28 -0700 00000003.001 003f 0001 09 SCCObjMgr_enu 23068682 12611 15 /export/home/qa3/20400/ses/siebsrvr/enterprises/siebel/sdcv440s041/log/SCCObjMgr_enu_0022_23068682.log 8.0 [20400] ENU
ObjMgrLog	Error 1 0000000645543143:9767 2006-11-10 07:33:45 (cscfg.cpp (165)) SBL-CSR-00418: Communication: User is not associated with any communication configuration in the database.
ObjMgrLog	Error 1 0000004145542ccf:10005 2006-11-10 07:34:02 (cscfg.cpp (165)) SBL-CSR-00418: Communication: User is not associated with any communication configuration in the database.

サーバーパフォーマンス分析を使用したサーバーおよびサーバーコンポーネントのデータの監視

Siebel 診断ツールのサーバーパフォーマンス分析機能を使用すると、さまざまなサーバーおよびサーバーコンポーネントの分析を行うことができます。サーバーの分析は、一度に 1 台ずつ行います。ここでは、サーバーパフォーマンス分析を使用してサーバーおよびサーバーコンポーネントのデータの監視、分析、および診断を行う方法について説明します。

サーバーパフォーマンス分析の使用方法

スコープを定義するために、指定した Siebel Enterprise 内の特定のサーバーまたはサーバーコンポーネントに対してクエリーを実行し、応答時間、CPU 使用率、およびメモリ使用率を表示します。返されるデータは SARM (Siebel Application Response Measurement) ベースであり、[サーバーパフォーマンス分析] ビューにグラフィック形式で表示されます。

注意：サーバーパフォーマンス分析を使用する前に、粒度レベル 1 または 2 を指定して SARM を有効にする必要があります。SARM の有効化およびレベルの設定については、『Siebel パフォーマンスチューニングガイド』を参照してください。

クエリーを送信するときに、結果の表示形式を選択できます。次の 2 つの形式があります。

- **SARM ヒストグラム：**ドリルダウンできるヒストグラム（棒グラフ）です。
- **サーバーエリア/サブエリア：**ドリルダウンできない円グラフです。

サーバーパフォーマンス分析を使用してサーバーまたはサーバーコンポーネントのデータを監視するには

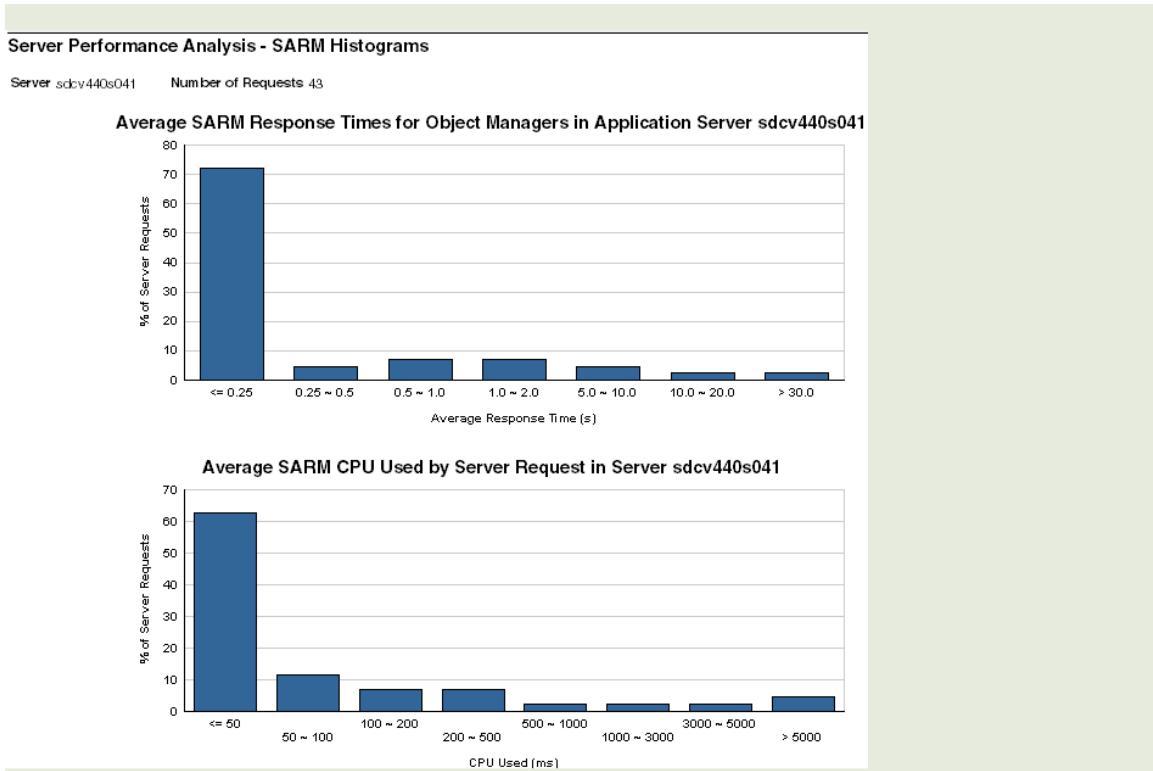
- 1 Siebel 診断ツールがアクティブでない場合は、このツールを起動します。
- 2 [サーバーパフォーマンス分析] 画面タブがアクティブでない場合は、このタブをクリックします。
- 3 [エンタープライズ] ドロップダウンリストから、分析するサーバーまたはサーバーコンポーネントのデータをホストしているエンタープライズを選択します。
- 4 [グループ] ドロップダウンリストから、**ステップ 3** で指定したエンタープライズ内のグループを選択します。[グループ (全件)] を選択することもできます。
- 5 [サーバー] ドロップダウンリストから、**ステップ 3** で指定したエンタープライズ内のサーバーを選択します。
- 6 [コンポーネント] ドロップダウンリストから、コンポーネントを選択します。[全コンポーネント] を選択して、すべてのコンポーネントを検索することもできます。
- 7 [開始時刻] と [終了時刻] に値を指定して、分析用に取得するデータの量を制限します。この 2 つのフィールドを空白のままにして、分析に利用できるすべてのデータを取得することもできます。

ヒント： このフィールドに現在の日時を入力するには、[今] リンクをクリックし、必要に応じて編集します。

- 8 生成する結果のタイプ（ヒストグラム、サーバーエリアまたはサブエリア）に対応する [結果タイプ] ラジオボタンを選択し、[送信] をクリックします。

選択したラジオボタンに応じて、次のいずれかのビューが表示されます。

- [サーバーヒストグラム] ラジオボタンを選択した場合は、指定したサーバーのオブジェクトマネージャの SARM 応答時間とサーバーリクエストの平均 SARM CPU 使用率が [SARM ヒストグラム] ビューに表示されます。76 ページのステップ 9 に進んでください。

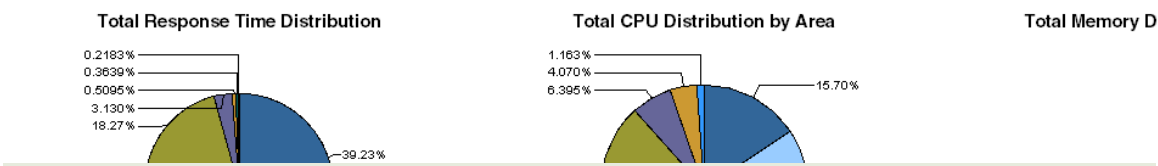


- [サーバーエリア/サブエリア] ラジオボタンを選択した場合は、[エリア/サブエリアの詳細] ビューが表示されます。

これで、指定したサーバーまたはサーバーコンポーネント（またはすべてのコンポーネント）の応答時間、CPU 使用率、およびメモリ使用率を確認できます。フォームアプレットに示されたデータは、円グラフのデータと同じです。

Server Performance Analysis - Area/Sub-Area Details						
Server	sdsv440s041	Component	All Components			
Host Name	sdsv440s041	Number of Requests	317			
Area	Sub-Area	# of Times Invoked	Total Response Time	Avg. Response Time	Total CPU	Avg. CPU
SEC		9	539	59	27	3
	SEC_AUTH	3	539	179	27	9
	SEC_GET_CRED	3	0	0	0	0
	SEC_GET_UNAME	3	0	0	0	0
DBC		36	526	14	38	1
	DBC_CONN_OPEN	3	489	163	23	7
	DBC_EXECUTE	10	33	3	11	1
	DBC_PREPARE	10	3	0	3	0
	DBC_FETCH	13	0	0	0	0
OBJMGR		191	251	1	87	0

Showing 1 - 10 of 41 [Next >](#)



9 ステップ 8 で結果の表示オプションとして [サーバーヒストグラム] ラジオボタンを選択した場合は、次のアクションを実行します。

a [SARM ヒストグラム] ビューでそれぞれの棒をドリルダウンします。

[リクエスト詳細] ビューに、指定したサーバーに対して行ったルートの SARM リクエストの詳細が表示されます。

Server Performance Analysis - Request Details						
Server sdcv440s041		Number of Requests 43				
User ID	Sarm ID	Start Time	Total Response Time	Total CPU	Total MEM	Component
	1,12611.1	Fri Nov 10 07:32:35 MST 2006	2	0	0	SCCObjMgr_enu
	1,12611.7	Fri Nov 10 07:32:35 MST 2006	0	0	0	SCCObjMgr_enu
	1,12611.4	Fri Nov 10 07:32:35 MST 2006	1	0	0	SCCObjMgr_enu
	1,12611.6	Fri Nov 10 07:32:35 MST 2006	0	0	0	SCCObjMgr_enu

備考：メモリは負の数値として表示される場合があります。これは、メモリの割り当て解除を行っている場合、メモリ使用率合計が負の数値として表示されるためです。

b SARM ID のリンクをドリルダウンして詳細を表示します。

指定したサーバーコンポーネントの特定のエリアまたはサブエリアの詳細なパフォーマンスサービス指標を示す SARM データが表示されます。

Server Performance Analysis - Request Details						
Task ID	0	Sarm File	/export/home/ga320400/ses/siebsrvr/enterprises/siebel/sdcv440s041/log/A_SCCObjMgr_enu_T200611100732_P012611_N0001.sarm			
Thread ID	1	Component	SCCObjMgr_enu			
User ID		Host Name	sdcv440s041			
Sarm ID	1,12611.1					
Area	Sub-Area	Response Time	CPU Used	MEM Used	Host CPU %	Instance Name
SRB	SRB_SYNCMSG	2	0	0	18	@
Showing 1 - 1 of 1						

ユーザーパフォーマンス分析を使用したユーザーセッションの監視

Siebel 診断ツールのユーザーパフォーマンス分析機能を使用すると、特定の期間における特定のサーバーまたはサーバーコンポーネントのユーザーに関する分析を実行できます。ここでは、ユーザーパフォーマンス分析を使用してユーザーセッションのデータの監視、分析、および診断を行う方法について説明します。

ユーザーパフォーマンス分析の使用方法

スコープを定義するために、指定した Siebel Enterprise 内の特定のサーバーまたはサーバーコンポーネントに対してクエリーを実行し、ユーザーID、開始時刻、および終了時刻を入力します。返されるデータは SARM (Siebel Application Response Measurement) ベースであり、[ユーザーパフォーマンス分析] ビューにグラフィック形式で表示されます。

クエリーを送信すると、初期結果が取得され、返されたデータが次のように [ユーザーパフォーマンス分析] ビューに表示されます。

- **応答時間の線グラフ**：指定したサーバー上で特定のユーザーが行ったリクエストの応答時間パターン
- **棒グラフ**：指定したサーバー上で特定のユーザーが行ったリクエストの棒グラフ（ドリルダウン可能）

注意：サーバーパフォーマンス分析を使用する前に、粒度レベル 1 または 2 を指定して SARM を有効にする必要があります。SARM の有効化およびレベルの設定については、『Siebel パフォーマンスチューニングガイド』を参照してください。

ユーザーセッションを監視するには

- 1 Siebel 診断ツールがアクティブでない場合は、このツールを起動します。
- 2 [ユーザーパフォーマンス分析] 画面タブをクリックします。
- 3 [エンタープライズ] ドロップダウンリストから、分析するユーザーセッションのデータをホストしているエンタープライズを選択します。
- 4 [グループ] ドロップダウンリストから、**ステップ 3** で指定したエンタープライズ内のグループを選択します。[グループ (全件)] を指定することもできます。
- 5 [サーバー] ドロップダウンリストから、**ステップ 3** で指定したエンタープライズ内のサーバーを選択します。
- 6 [コンポーネント] ドロップダウンリストから、コンポーネントを選択します。[全コンポーネント] を選択して、すべてのコンポーネントを検索することもできます。
- 7 [開始時刻] と [終了時刻] に値を指定して、分析用に取得するデータの量を制限します。この 2 つのフィールドを空白のままにして、分析に利用できるすべてのデータを取得することもできます。

ヒント： このフィールドに現在の日時を入力するには、[今] リンクをクリックし、必要に応じて編集します。

- 8 [ユーザー名] に値を入力し、[送信] をクリックします。

Siebel 診断ツールによって、クエリー条件に一致するデータが取得され、[ユーザーパフォーマンス分析] ビューに表示されます。

User Performance Analysis									
User ID	# of Sessions	Total Response Time	Avg. Response Time	Total CPU	Avg. CPU	Total MEM	Avg. MEM	Response Time	Area/Sub-Area
sadmin	2	78108	2440	28105	878	0	0	View	View

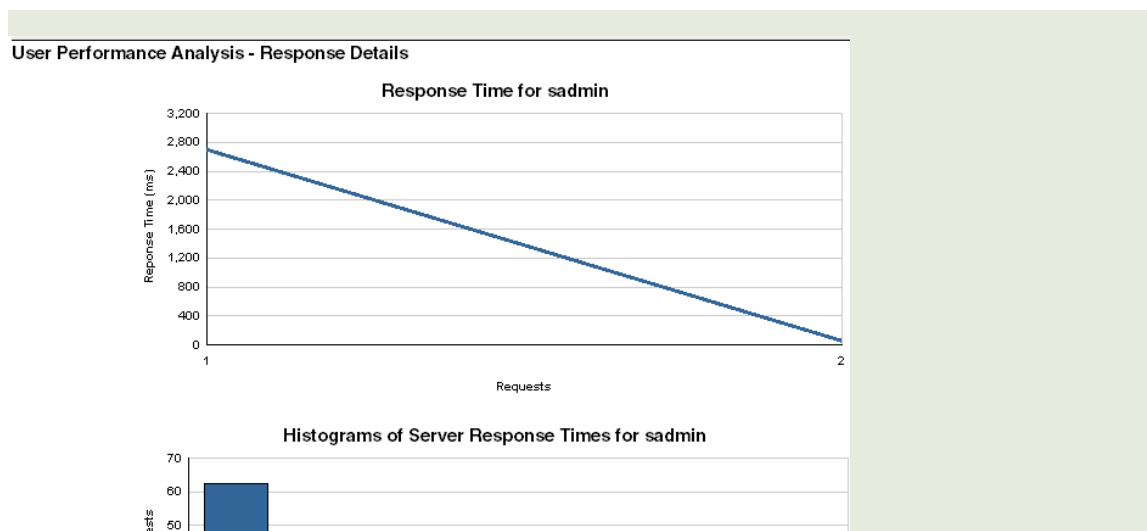
Showing 1 - 1 of 1

ヒント： [応答時間] カラムと [エリア/サブエリア] カラムに [ビュー] リンクがあります。

- 9 次のいずれかのアクションを実行して、詳細な統計情報を表示します。

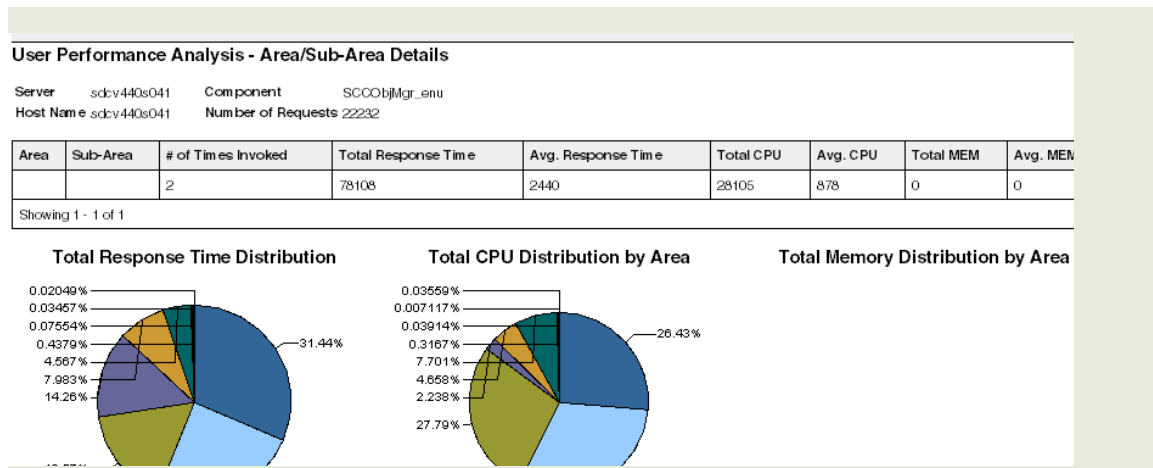
- [応答時間] カラムで、[ビュー] をクリックします。

[応答詳細] ビューに、指定したユーザーに関するサーバー応答時間の線グラフおよびサーバー応答時間のヒストグラム（棒グラフ）が表示されます。ステップ 10 に進んでください。



- [エリア/サブエリア] カラムで、[ビュー] をクリックします。

エリア/サブエリアの詳細ビューに、応答時間、CPU 使用率、およびメモリ使用率が表示されます。フォームアプレットに示されたデータは、円グラフのデータと同じです。



- 10** ステップ 9 の [応答時間] カラムで [ビュー] リンクを選択した場合は、次のアクションを実行します。

- a ヒストグラムの棒をクリックして、詳細な統計情報を取得します。

SARM データが表示され、応答時間、CPU 使用率、およびメモリ使用率の詳細なパフォーマンスサービス基準が表示されます。

User Performance Analysis - Request Details

Server sdbv440s041 Number of Requests

User ID	Serm ID	Start Time	Total Response Time	Total CPU	Total MEM	Component
sadmin	4.12611.48887	Fri Nov 10 07:34:19 MST 2006	1	1	0	SCCObjMgr_enu
sadmin	4.12611.51756	Fri Nov 10 07:34:29 MST 2006	1	1	0	SCCObjMgr_enu
sadmin	4.12611.51711	Fri Nov 10 07:34:27 MST 2006	129	62	0	SCCObjMgr_enu

b SARM ID のリンクをドリルダウンします。

指定したサーバーコンポーネントの特定のエリアまたはサブエリアの詳細なパフォーマンスサービス基準を示す SARM データが表示されます。

User Performance Analysis - Request Details						
Task ID	290686&2	Sarm File	/export/home/qa3/20400/ses/siebsvri/enterprises/siebel/sdcv440s041/log/A_SCCObjMgr_enu_T200611100732_P012611_N0002.sarm			
Thread ID	15	Component	SCCObjMgr_enu			
User ID	sadmin	Host Name	sdcv440s041			
Sarm ID	4.12611.48887					
Area	Sub-Area	Response Time	CPU Used	MEM Used	Host CPU %	Instance Name
INFRA	INFRA_ENTRY	1	1	0	90	sadmin
OBJMGR	OBJMGR_RPC_HANDLE_MSG	0	0	0	92	
OBJMGR	OBJMGR_BSVC_INVOKE	0	0	0	90	Web Engine Interface
SWE	SWE_CMD_SWEUAID	0	0	0	82	978gxOQIPys8HeqjHRA7kobLRbKvKU1xqYUTK8SdJT7w_
SWE	SWE_COMMAND	0	0	0	57	GetCachedFrame
Showing 1 - 5 of 5						

5

SWSE のログと監視の設定

この章では、Siebel Web Server Extension (SWSE) のログや監視のための設定について説明します。

この章では、次のトピックについて説明します。

- 81 ページの「SWSE ログについて」
- 82 ページの「SWSE ログの設定」
- 82 ページの「SWSE ログファイル Cookie の解析」
- 82 ページの「SWSE ログファイル Cookie の解析」
- 83 ページの「SWSE の監視について」
- 83 ページの「SWSE Statistics ページの設定」
- 84 ページの「SWSE Statistics ページの表示」
- 85 ページの「SWSE Statistics ページの各項目」
- 86 ページの「SWSE Statistics ページの例」

SWSE ログについて

Siebel Web Server Extension (SWSE) は、Siebel Server への接続が試みられると、1 つまたは複数のログファイルを生成します。これらのログファイルは `SWEAPP_ROOT¥log` ディレクトリにあります (`SWEAPP_ROOT` は、Siebel Web Server Extension のインストールディレクトリ)。

SWSE ログファイル名の形式は次のとおりです。

```
PlatformPrefix_Timestamp_Proc_ID.log
```

ここで、各項目はそれぞれ次のようになります。

```
PlatformPrefix = ss
```

```
timestamp = YMMDD 形式で表したログファイルの日付
```

```
Proc_ID = SWSE をホストする Web サーバーのオペレーティングシステムのプロセス ID。
```

これらのファイルには、選択されているログレベルに従って、エラー、警告、全般情報が記録されます。Web サーバーのホストマシンで環境変数を使用してログレベルを設定することができます。SWSE ログの設定については、[82 ページの「SWSE ログの設定」](#)を参照してください。

備考: SWSE では、Siebel Server と Siebel Server コンポーネントについて定義されるログイベントレベルは使用しません。

Web サーバーの障害や Siebel Web Engine の無効な設定などのイベントは、これらのログに記録されます。ログファイルを分析して、SWSE の問題を解決する手がかりを見つけることができます。

SWSE ログの設定

SWSE ログを設定するには、次の手順を実行します。eapps.cfg ファイル内のパラメータを設定することによって SWSE ログを設定する以前の方法は、無効になりました。

SWSE ログを設定するには

1 Web サーバーを実行しているマシンで、次の環境変数を指定の値に設定します。

- SIEBEL_LOG_EVENTS = 4 (またはそれ以上)

環境変数の設定については、『Siebel システム管理ガイド』を参照してください。

2 その他に、セッションマネージャおよび SWSE ログファイルでの SISNAPI 追跡の詳細情報を追加するように、次の環境変数を設定します。

- SIEBEL_SESSMGR_TRACE = 1
- SIEBEL_SISNAPI_TRACE = 1

備考： 詳細なログを設定すると、多くのディスク領域を使用します。十分なディスク領域があることを確認してください。

これらの環境変数については、[89 ページの「システムログの環境変数について」](#)を参照してください。

3 Web サーバーを停止して再起動し、これらの環境変数を有効にします。

備考： SWSE の問題を解決したら、これらの変数を元の値にリセットします。

SWSE ログファイル Cookie の解析

SWSE ログファイルでは、ユーザーセッション cookie の最後の部分でシステムデータが 16 進形式でエンコードされています。cookie の例を次に示します。

```
cookie (siebel.TCPIP.NONE.none://172.19.14.20:2320/siebel/eCommunicationsObjMgr/!24.8c4.1779.3db56d28)
```

SWSE cookie データについては、[表 22](#) を参照してください。

表 22 SWSE ユーザーセッション cookie データの説明の例

16 進形式の cookie データ	データタイプ	10 進形式	説明
24	サーバー ID	36	Siebel Server の ID 番号
8c4	OS PID	2244	ユーザーセッションを処理するアプリケーションオブジェクトマネージャ (AOM) のオペレーティングシステム ID 番号
1779	タスク ID	6009	ユーザーセッションを処理するアプリケーション OM の Siebel タスク ID
3db56d28	日付	1035300136	その cookie のアクションをオペレーティングシステムのタイムスタンプ形式で表したもの

SWSE の監視について

SWSE Statistics ページを設定し、読み取ることによって、Siebel Web Server Extension (SWSE) を監視します。この HTML ページには、SWSE のオペレーションおよび通信に関する最新情報が示されます。システム管理者はこれらの情報から、Web サーバーの使用状況を把握できます。Statistics ページの各セクションには、測定可能なオブジェクトとその値、平均値、および標準偏差が一覧表示されます。

注意： SWSE Statistics ページには、実行しているリクエストのタイプや潜在的なアクティブセッションに関する重要情報が示されるため、Web サーバーやサードパーティの認証メカニズムを使ってページへのアクセスを保護することを強くお勧めします。

SWSE Statistics ページの設定

SWSE Statistics ページは、eapps.cfg ファイルの [swe] セクションで、パラメータ StatsPage を使って設定します。デフォルトでは、次の値をとります。

```
[defaults]
```

```
StatsPage = _stats.swe
```

注意： セキュリティ上の理由で、StatsPage パラメータのデフォルト値を変更します。そうしないと、許可されていない第三者がこのデータにアクセスできてしまいます。新しいファイル名に .swe サフィックスが付いていることを確認します。セキュリティの情報について詳しくは、81 ページの「SWSE ログについて」および『Siebel セキュリティガイド』を参照してください。

eapps.cfg ファイルには、SWSE Statistics ページの内容を定義するための SessionMonitor というパラメータも含まれています。

SessionMonitor パラメータは、現行のすべてのセッションから作成した統計レポートをアプリケーションの SWSE Statistics ページに示す場合に指定します。SessionMonitor が有効 (TRUE) な場合、作成されたセッションは統計リポジトリに入れられ、アプリケーションの SWSE Statistics ページに表示されます。これにより、システム管理者は、システムにログオンしたユーザーを常に特定でき、特定ユーザーのセッション ID を非デバッグのログレベルで判別できます。ただし、この機能を使うと、パフォーマンスが多少低下します。SessionMonitor が無効 (FALSE) な場合、セッションは統計リポジトリによって監視されないため、アプリケーションの SWSE Statistics ページに表示されません。

このパラメータは、eapps.cfg ファイルの [swe] セクションで設定します。デフォルト値は FALSE で、次のように指定されています。

```
[swe]
SessionMonitor = FALSE
```

SWSE Statistics ページの表示

Siebel Web Server Extension (SWSE) の Statistics ページは、SWSE プラグインによって生成されます。SWSE Statistics ページを表示するには、次の URL を Web ブラウザで指定します。

```
http://host/application/_stats.swe
```

SWSE Statistics ページのアクセサリハンドル名を定義するだけでなく、現在アクティブなセッションをページに表示するかどうかも設定できます。現在のアクティブセッションの監視については、[83 ページの「SWSE Statistics ページの設定」](#)の SessionMonitor パラメータの説明を参照してください。

SWSE Statistics ページの URL にパラメータを追加して、ページの表示や内容を変更することができます。

統計ページの冗長オプション：このオプションでは、SWSE Statistics ページに表示する情報量を指定できます。[表 23](#) に示す 3 つの設定があります。

表 23 統計ページの冗長オプションの設定

Verbose パラメータの設定	説明
verbose=low	デフォルト値 (ある場合)。システムレベルとアプリケーションレベルの統計だけを表示します。
verbose=medium	低レベルの設定情報とロック統計を表示します。
verbose=high	中レベルの設定情報と、Siebel Server で現在アクティブなオペレーションをすべて表示します。

統計ページのリセットオプション：このオプションでは、統計を表示した後でリセットするかどうかを指定できます。[表 24](#) に示す 2 つの設定があります。

表 24 統計ページのリセット設定

Verbose パラメータの設定	説明
Reset=True	カウンタ以外の値と現在のオペレーションの統計をすべてリセットします。
Reset=False	デフォルト値 (ある場合)。現在のオペレーションの統計をリセットしません。

パラメータを指定して SWSE Statistics ページをリクエストする例を次に示します。

- `http://ホスト/アプリケーション/_stats.swe?Verbose=High&Reset=True`
この場合、システム統計、アプリケーション、現在のセッション、ロック、および現在のオペレーションの処理統計が示された後で、カウンタ以外の値と現在のオペレーションの統計がすべてリセットされます。
- `http://ホスト/アプリケーション/_stats.swe?Reset=True`
この場合、システム統計とアプリケーションの統計が示された後で、カウンタ以外の値と現在のオペレーションの統計がすべてリセットされます。

SWSE Statistics ページの各項目

SWSE Statistics ページに示される各イベントと測定可能なオブジェクトを次のリストに示します。これらの基準例については、[86 ページの「SWSE Statistics ページの例」](#) を参照してください。

Open Session Time：セッションを開くために要した時間の合計です。一般統計のセクションでは、カウントはセッションが開かれた回数を、平均はセッションを開くために要した平均時間を示します。

Response Time (waiting for service event)：Siebel Server からコールバック応答を受け取るまでの時間を測定するイベントで、CTI および内部ログインコールバックと連携して機能します。コールバックとは、プラグインとの通信を開始するために Siebel Server が使用するメカニズムです。

Close Session Time：セッションの終了に要する時間を示します。セッションの終了処理には、セッションマネージャにセッションの終了を知らせる処理が含まれる場合もあります。セッションマネージャが TCP/IP 接続を終了する場合と、終了しない場合があります。

Request Time (waiting for service method to process)：リクエストを Siebel Server に送信してから応答が返されるまでの時間です。たとえば、ユーザーがブラウザのボタンをクリックして送信したリクエストをプラグインが受け取り、Siebel Server からサービス呼び出す場合、Request Time の値は、目的のサービスが呼び出されるまでの合計時間になります。

Applications：ここには、セッションの寿命やアプリケーションの試行回数など、さまざまアプリケーションに関する情報が表示されます。

Current Sessions：現在アクティブな開いているセッションの情報が表示されます。ここに情報を示すためには、パラメータ SessionMonitor を True に設定する必要があります (SessionMonitor については、[83 ページの「SWSE Statistics ページの設定」](#) を参照してください)。冗長モードでは、このセクションに匿名セッションの情報も示されます (冗長モードについては、[84 ページの「SWSE Statistics ページの表示」](#) を参照してください)。

SWSE Statistics ページの例

SWSE Statistics ページの例を表 25、86 ページの表 26、87 ページの表 27、87 ページの表 28、および 87 ページの表 29 に示します。これらの表に含まれる情報は、SWSE Statistics ページの 1 ページに示されるものです。

表 25 システム統計のサンプル (単位: 秒)

イベント	値	一般統計 (カウント、平均、標準偏差)	頻度 (平均、標準偏差)
Open Session Time	191.6682	12 15.9723 34.4210	61.9689 128.9318
Response Time (waiting for service event)	0.0000	0 0.0000 0.0000	0.0000 0.0000
Close Session Time	0.0000	0 0.0000 0.0000	0.0000 0.0000
Request Time (waiting for service method to process)	349.9513	23 15.2153 70.4652	3374.4503 16020.5422

表 26 アプリケーション統計のサンプル (単位: 秒)

アプリケーション名	合計	一般統計 (カウント、平均、標準偏差)	頻度 (平均、標準偏差)
/echannel/	13.0000	13 1.0000 0.0000	5970.1458 21303.1122
/echannel/Session Lifespan	0.0000	0 0.0000 0.0000	0.0000 0.0000

表 27 現在のセッションのサンプル (単位: 秒)

イベント	合計時間	一般統計 (カウント、平均、標準偏差)	頻度 (平均、標準偏差)
siebel://test:2320/siebel/ objmgr/test/ !1.64c.14.3bb0e99fuser0	3.9228	4 0.9807 0.8953	85.9297 168.6426
siebel://test:2320/siebel/ objmgr/test/ !9.34b.1fe.3bbf349fuser1	338.4631	9 37.6070 112.8092	59.4458 116.0594
siebel://test:2320/siebel/ objmgr/test/ !1.56.1ef.4c0a0e99fuser2	3.3424	3 1.1141 0.8227	25665.0354 44450.4096

表 28 ロックのサンプル (単位: 秒)

アプリケーション名	合計	一般統計 (カウント、平均、標準偏差)	頻度 (平均、標準偏差)
/アプリケーション /InitLock	0.0000	1 0.0000 0.0000	0.0002 0.0000
/アプリケーション / anonSessionLock	0.0003	25 0.0000 0.0000	3104.4834 15393.1114
SWEWebPublishMutex	0.0000	2 0.0000 0.0000	0.8005 1.1318

表 29 現在のオペレーションの処理のサンプル

オペレーション	時間
NewAnonSession_00000022_499	0.9581
Open Session Time_00000023_499	0.9580

6

その他のシステムログの設定

この章では、Siebel Server およびコンポーネントのイベントログに加えて、エラーや不適切なアプリケーションの動作を検出するために使用できる他のシステムログ設定および情報について説明します。

この章では、次のトピックについて説明します。

- 89 ページの「システムログの環境変数について」
- 90 ページの「Siebel Gateway Name Server ログファイルの設定」
- 91 ページの「標準エラーファイルの設定」
- 92 ページの「その他の Siebel Server ログファイルについて」
- 92 ページの「フライトデータレコーダー (FDR) ログファイルについて」

システムログの環境変数について

展開された Siebel アプリケーションのその他の情報を記録する場合に役立つように、次のシステム環境変数を設定できます。Microsoft Windows と UNIX でのこれらの環境変数の設定については、『Siebel システム管理ガイド』を参照してください。これらの変数の変更については、使用しているオペレーティングシステムに固有のマニュアルを参照してください。

- **SIEBEL_LOG_EVENTS** : SIEBEL_LOG_EVENTS 環境変数で、イベントログレベルを設定します。このレベルによって、そのログファイルで取得される情報の範囲が決定されます。レベルの設定と取得される情報については、44 ページの表 6 を参照してください。この環境変数に大きい数値を設定すると取得される情報が多くなり、小さい数値を設定すると取得される情報が少なくなります。数値は情報の重大度に反比例し、0 は 5 よりも重大です。この値を 5 に設定すると、0 に設定したときよりも多くのディスク領域が消費され、パフォーマンスが低下します。
- **SIEBEL_LOG_ARCHIVES** : SIEBEL_LOG_ARCHIVES 環境変数は、アーカイブされるログファイル数を決定します。この値に正の整数を設定してください。この値は保存されるファイル数を示します。たとえば、値が 3 の場合、最新のログファイルが 3 つだけ保存され、その他のログファイルはすべて削除されます。新しいログ program.log が作成されると、以前のバージョンは program_1.log、program_2.log などとしてアーカイブされます。ファイル名に含まれる番号は、ファイルが古くなるたびに大きくなります。最も古いログファイルは、設定されている整数よりも番号が大きくなると削除されます。この変数のデフォルト値は 10 です。
- **SIEBEL_LOG_DIR** : SIEBEL_LOG_DIR 環境変数は、ログファイルの場所を決定します。この変数を設定すると、デフォルトのディレクトリから場所を変更できます。このディレクトリが既に存在し、その場所にあるファイルへの書き込みアクセス権が有効で、ログファイルをサポートするのに十分な空き領域があることを確認してください。
- **SIEBEL_CRASH_HANDLER** : SIEBEL_CRASH_HANDLER 環境変数を使用すると、crash ファイルを作成できます。crash ファイルについては、92 ページの「その他の Siebel Server ログファイルについて」を参照してください。デフォルトの設定は 1 です。この設定では crash ファイルを作成できます。この変数を 0 に設定すると、この機能は無効になります。この変数は、必ず Siebel テクニカルサポートにお問い合わせの上設定してください。

- **SIEBEL_ASSERT_MODE** : SIEBEL_ASSERT_MODE 環境変数を使用すると、assert ファイルを作成できます。assert ファイルについては、[92 ページの「その他の Siebel Server ログファイルについて」](#)を参照してください。デフォルトの設定は 0 です。この設定では assert ファイルを作成できません。この変数は、必ず Siebel テクニカルサポートにお問い合わせの上設定してください。
- **SIEBEL_SESSMGR_TRACE** : SIEBEL_SESSMGR_TRACE 環境変数を使用すると、Siebel Web Server Extension (SWSE) の一部であるセッションマネージャを追跡できます。この変数はデフォルトで 0 に設定され、致命的イベントとエラーイベントが SWSE ログファイルに記録されます。SWSE ログファイルについては、[81 ページの「SWSE ログについて」](#)を参照してください。セッションマネージャの詳細な記録を有効にするには、この変数を 1 に設定します。SWSE のログの設定については、[82 ページの「SWSE ログの設定」](#)を参照してください。
- **SIEBEL_SISNAPI_TRACE** : SIEBEL_SISNAPI_TRACE 環境変数を使用すると、Web サーバーと Siebel Server の間の Siebel 独自の通信プロトコルである SISNAPI を追跡できます。この変数はデフォルトで 0 に設定され、致命的イベントとエラーイベントが SWSE ログファイルに記録されます。SWSE ログファイルについては、[81 ページの「SWSE ログについて」](#)を参照してください。SISNAPI の詳細な記録を有効にするには、この変数を 1 に設定します。SWSE のログの設定については、[82 ページの「SWSE ログの設定」](#)を参照してください。
- **SIEBEL_STDERRROUT** : SIEBEL_STDERRROUT 環境変数を使用すると、標準エラーファイルの記録が有効になります。標準エラーファイルについては、[91 ページの「標準エラーファイルの設定」](#)を参照してください。この変数はデフォルトで 0 に設定され、標準エラーファイルの記録が無効になります。標準エラーファイルの記録を有効にするには、この変数を 1 に設定します。

ハイインタラクティブティ用のクライアント側ログの環境変数については、[96 ページの「ハイインタラクティブティ用のクライアント側ログの有効化と無効化」](#)を参照してください。

Siebel Gateway Name Server ログファイルの設定

Siebel Gateway Name Server ログファイルの NameSrvr.log は、Siebel Gateway Name Server のルートディレクトリの LOG フォルダに置かれています。このファイルは、Siebel Gateway Name Server System Service が手動で起動されたか、Siebel Gateway Name Server にエラーが発生したときに、操作情報を取得します。Siebel Gateway Name Server については、『Siebel システム管理ガイド』を参照してください。

Gateway Name Server ログを設定するには

- 1 Siebel Gateway Name Server を実行しているマシンで、次の環境変数を指定の値に設定します。

- SIEBEL_LOG_EVENTS = 3 (またはそれ以上)

この変数については、[89 ページの「システムログの環境変数について」](#)を参照してください。

備考： この値を 2 以下に設定すると、Siebel Gateway Name Server ログファイルは作成されません。

環境変数の設定については、『Siebel システム管理ガイド』を参照してください。

- 2 環境変数が有効になるように、Siebel Gateway Name Server を実行しているマシンを停止して、再起動します。

備考： Siebel Gateway Name Server がログファイルを作成しない場合は、ログの詳細がオペレーティングシステムのバッファに残っている場合があります。Name Server をシャットダウンして、ログ情報をログファイルにフラッシュします。

標準エラーファイルの設定

標準エラーファイルには、標準のエラーと標準の障害に向けたプロセスメッセージが含まれます。これらのメッセージは、Siebel Server またはサードパーティコンポーネントからのもので、Siebel Server の機能の問題を診断する場合に役立つ重要な情報が含まれます。たとえば、Siebel Server プロセスメッセージに含まれる情報は、LIBPATH の設定の間違いやレジストリの破壊などが原因で、アプリケーションオブジェクトマネージャ (AOM) コンポーネントが実行されているプロセスシェル、`siebmtshmw` を起動できないインスタンスを識別する場合に役立ちます。Siebel Server プロセスについては、『Siebel システム管理ガイド』を参照してください。

設定されたプロセスメッセージは、`SIEBSRVR_ROOT/log/StdErrOut` ディレクトリのファイルに保存されます。標準エラーファイルの形式は次のとおりです。

```
stderrout_${Process_ID}_${Time_stamp}.log
```

ここで、各項目はそれぞれ次のようになります。

`Process_ID` = オペレーティングシステムのプロセス ID 番号 (PID)

`Time_stamp` = YYYY-MM-DD HH:MM:SS 形式のログファイルの作成日時

標準エラーファイルの記録はデフォルトでは無効です。

標準エラーファイルの記録を設定するには

1 Siebel Server を実行しているマシンで、次の環境変数を指定の値に設定します。

■ `SIEBEL_STDERRROUT = 1`

この変数については、[89 ページの「システムログの環境変数について」](#)を参照してください。

環境変数の設定については、『Siebel システム管理ガイド』を参照してください。

2 環境変数が有効になるように、Siebel Server を実行しているマシンを停止して、再起動します。

その他の Siebel Server ログファイルについて

Siebel Business Applications は、Siebel Server ルートディレクトリの binary (bin) サブディレクトリに、次のようなテキストログファイルを生成します。これらのファイルは、アプリケーションの操作中にコードの特定部分が実行されたときに、状況に応じた対応を記録します。表 30 に示した形式で表示されます。

表 30 その他の Siebel Server ログファイル

ログファイル名	説明
siebel_assert*.txt	クラッシュやデータの破壊につながる可能性のある致命的な状況を示します。
siebel_crash*.txt	プロセスがクラッシュしたことを示します。これらのファイルは、Windows プラットフォームと HP-UX プラットフォームだけで生成されます。
siebel_prefer*.txt	クラッシュやデータ破損につながるほどではないエラー状況を示します。

これらのファイルが、エラーのない通常のプロセス実行中に生成された場合は、無視できます（またはサイズが非常に大きくなったときに削除されます）。ただし、エラー発生時にこれらのファイルが生成された場合は（特にファイル名に crash が含まれるもの）、Siebel テクニカルサポートに送付することで調査に利用できます。

フライトデータレコーダー（FDR）ログファイルについて

Siebel フライトデータレコーダーファイル（拡張子 .fdr）は、実行時のシステムとサーバーコンポーネントの動作の記録です。万一システムまたはサーバーのコンポーネント障害が発生した場合は、障害発生までの設定とイベントが取得され、記録されます。その後、Siebel フライトデータレコーダーログファイルは Siebel テクニカルサポートに送付することで、固有の設定と障害の前に発生したイベントの問題解決と分析のために使用されます。Siebel フライトデータレコーダーログファイルは、Siebel Server ルートディレクトリの Binary サブディレクトリに格納されます。形式は、次のとおりです。

■ SOI_P_*ProcessID*.fdr

ここで、各項目はそれぞれ次のようになります。

ProcessID は、クラッシュまたは停止したプロセスの識別番号です。

Siebel フライトデータレコーダー機能は、デフォルトで有効になっています。

備考： FDR ファイルはバイナリ形式で格納されるので、テキストエディタでは読み取れません。

環境変数 SIEBEL_CRASH_HANDLER を 0 に設定すると、FDR ファイルの作成と、他のいくつかのログ関数が無効になります。この変数を 0 に設定する場合は、必ず Siebel テクニカルサポートにお問い合わせの上で行ってください。

7

ハイインタラクティビティ用のクライアント側ログの設定

この章では、クライアント側ログの設定と、クライアントでハングやクラッシュなどが発生した場合に Siebel Web クライアントのブラウザの問題を診断およびトラブルシューティングするための情報について説明します。

この章では、次のトピックについて説明します。

- 94 ページの「ハイインタラクティビティ用のクライアント側ログについて」
- 96 ページの「ハイインタラクティビティ用のクライアント側ログの有効化と無効化」
- 98 ページの「ハイインタラクティビティ用のクライアント側ログのログファイルについて」
- 100 ページの「ハイインタラクティビティ用のクライアント側ログのトレースおよびイベントログレベルの設定について」
- 102 ページの「ハイインタラクティビティ用のクライアント側ログの SiebelLogs ログファイルの表示」
- 103 ページの「ハイインタラクティビティ用のクライアント側ログのログエリアとログシーケンスの例」
- 105 ページの「ハイインタラクティビティ用のクライアント側ログのログアーカイブについて」

備考：ハイインタラクティビティ用のクライアント側ログは、ハイインタラクティビティモードで実行されている Siebel Web クライアントアプリケーションでのみサポートされます。スタンダードインタラクティビティモードで実行されているアプリケーションでは、ハイインタラクティビティ用のログはサポートされません。

この章では、ハイインタラクティビティ機能全般、Siebel Server およびコンポーネントのログ、モバイルクライアント用のクライアント側ログについては説明しません。これらのトピックについては、次を参照してください。

- Siebel Server およびコンポーネントのログについては、このマニュアルの第 3 章「Siebel Server およびコンポーネントログの設定」を参照してください。
- モバイル Web クライアント用のクライアント側ログについては、『Siebel Remote and Replication Manager 管理ガイド』を参照してください。
- Siebel Business Applications のハイインタラクティビティ機能については、『Siebel システム管理ガイド』を参照してください。

ハイインタラクティビティ用のクライアント側ログについて

ハイインタラクティビティ用のクライアント側ログでは、Siebel イベントログシステムを使用してデータを収集し、情報をテキストログファイルに書き出します。このログファイルは、ハイインタラクティビティアプリケーションを実行しているマシンの C:\¥SiebelLogs ディレクトリ内にあります。ここでは、ハイインタラクティビティ機能用のクライアント側ログの概要とその仕組みについて説明します。

備考： ハイインタラクティビティ用のクライアント側ログは、ハイインタラクティビティモードで実行されている Siebel Web クライアントアプリケーションでのみサポートされます。スタンダードインタラクティビティモードで実行されているアプリケーションでは、ハイインタラクティビティ用のログはサポートされません。

ハイインタラクティビティ用のクライアント側ログを使用すると、次のような利点があります。

- (クライアントがハングまたはクラッシュしたときなどに) ブラウザの活動データを取得してトラブルシューティングに使用できます。
- 個々のユーザーセッション情報または特定のエンタープライズ全体のログを記録できます。
- ソースコードをデバッグする代わりに一連のオペレーションを追跡できます。
- JavaScript を使用してデバッグできます。

ハイインタラクティビティ機能用のクライアント側ログは、Siebel 診断ツールやその他のシステム管理ツールを補足するものとして使用してください。

Siebel 診断ツールについては、[第 4 章「Siebel 診断ツールを使用したデータの監視と分析」](#)を参照してください。ハイインタラクティビティ機能については、『Siebel システム管理ガイド』を参照してください。サポートされているプラットフォームについては、Siebel SupportWeb 上の「System Requirements and Supported Platforms & Miscellaneous Documentation」を参照してください。

備考： この章に記載されているクライアント側ログについての記述は、特に明記されているかどうかにかかわらず、ハイインタラクティビティモードに固有の内容であることに注意してください。

ハイインタラクティビティ用のクライアント側ログの仕組み

クライアント側ログを開始するには、サーバーのパラメータ値とクライアントの環境変数のどちらか一方または両方を指定します。図 14 に示すように、クライアントが起動されると、クライアント側の環境変数がクライアントから読み込まれます。サーバー側のパラメータが指定されている場合は、次にこのパラメータが読み込まれます。次に、取得されたログデータが初期化され、C:\SiebelLogs ディレクトリに出力されます。

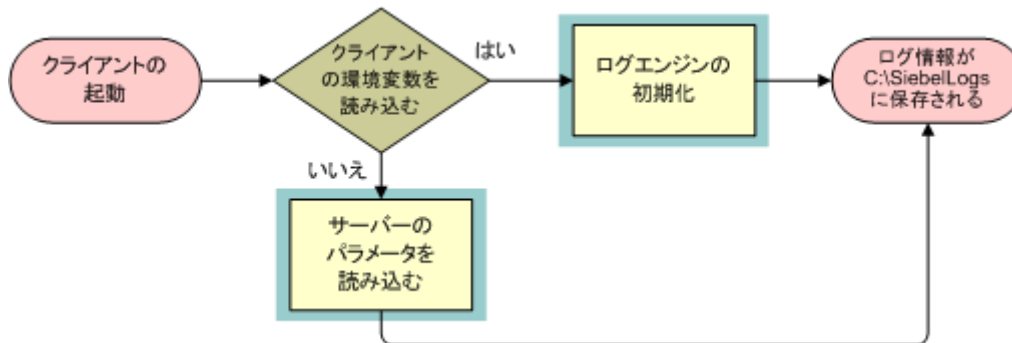


図 14 ハイインタラクティビティ用のクライアント側ログの仕組み

図 14 は、次のフローを示しています。

- 1 クライアントが起動されると、クライアント側の環境変数がクライアントから読み込まれ、次のいずれかの方法でログエンジンが初期化されます。
 - サーバーのパラメータ値が指定されていない場合、ログエンジンはクライアントから直接初期化されます。
 - クライアントの環境変数が指定されていない場合は、サーバーのパラメータ値の読み込み後にログエンジンが初期化されます。
- 2 環境変数とサーバーのパラメータの読み込み後、ログエンジンが初期化されます。
- 3 取得したログデータは C:\SiebelLogs ディレクトリに保存されます。

また、ハイインタラクティビティ用のクライアント側ログに関連して、次の点を考慮してください（図 14 には示されていません）。

- C:\SiebelLogs ディレクトリに対する許可をユーザーが持っていない場合、デスクトップ上での SiebelLogs ファイルの作成が試行されます。作成に失敗すると、ロギングが終了します。
- ディスクがいっぱいの場合は、ロギングが終了し、ログファイルは作成されません。
- ログファイルの最小サイズは 50 MB です。ユーザーが 50 より小さい値を入力した場合、ログサイズは 50 にリセットされます。

ハイインタラクティビティ用のクライアント側ログの有効化と無効化

ハイインタラクティビティ用のクライアント側ログを有効または無効にするには、クライアント側の環境変数およびサーバー側のパラメータを設定します。

備考： クライアントで定義した値が、サーバーで定義した値よりも優先されます。

サーバー側のパラメータの設定について

表 31 は、クライアント側ログに関して設定できるサーバーパラメータを示しています。ロギングを有効にするには、ClntTraceMode パラメータを設定する必要があります。その他のパラメータは自動でデフォルト値に設定されるため、特に必要なければ変更する必要はありません。

表 31 クライアント側ログ用のサーバーパラメータの設定

パラメータ	説明	指定可能な値	デフォルト値
ClntTraceMode	このパラメータは、ロギングを有効または無効にするときに設定します。	1：有効 0：無効	0
ClntLogFileSize	ログファイルのサイズ（単位：MB）		50
ClntLogArchiveCount	アーカイブするファイルの数		5
ClntLogDirectory	ログの作成先ディレクトリ		C:\%SiebelLogs
ClntTraceUnicode	このパラメータは、Unicode によるトレースを有効または無効にするときに設定します。	Y：Unicode によるトレースが有効 N：Unicode によるトレースが無効	N

クライアント側の環境変数の設定について

表 32 は、クライアント側ログに関して設定できる環境変数を示しています。ロギングを有効にするには、SEBLCL_TRACEMODE 変数を設定する必要があります。その他のパラメータは自動でデフォルト値に設定されるため、特に必要なければ変更する必要はありません。

表 32 クライアント側ログ用のクライアント環境変数の設定

パラメータ	指定可能な値	デフォルト値
SEBLCL_TRACEMODE	1：有効 0：無効	0
SEBLCL_LOGFILESIZE	ログファイルのサイズ（単位：MB）	50
SEBLCL_LOGARCHIVECOUNT	アーカイブするファイルの数	5
SEBLCL_LOGDIR	ログの作成先ディレクトリ	C:\%SiebelLogs
SEBLCL_TRACEUNICODE	Y：Unicode によるトレースが有効 N：Unicode によるトレースが無効	N

クライアント側ログの有効化と無効化について

特定の Siebel Enterprise または 1 人以上のユーザーについて、クライアント側ログを有効または無効にできます。表 33 に示すように、エンタープライズに対してロギングを有効にするには、サーバーのパラメータを定義しますが、クライアントの環境変数は定義しません。一方、1 人以上のユーザーに対してロギングを有効にするには、クライアントの環境変数を定義しますが、サーバーのパラメータは定義しません。

表 33 Siebel Enterprise または 1 人以上のユーザーに対してクライアント側ログを有効にする方法

ロギングを有効にする対象	サーバーパラメータの定義	クライアント環境変数の定義
特定の Siebel Enterprise	必須	不要
1 人以上のユーザー	不要	必須

クライアントの設定はサーバーの設定よりも優先されます。表 34 は、クライアント (SEBLCL_TRACEMODE 変数) およびサーバー (ClntTraceMode パラメータ) での TRACEMODE の設定が、クライアントの出力にどのように影響するかを示しています。

表 34 クライアントおよびサーバーでの TRACEMODE の設定によるクライアント出力への影響

クライアントの値	サーバーの値	クライアント出力
なし	0	ログなし
なし	1	すべてのユーザーについてログあり
0	0	ログなし
0	1	現在のユーザーについてログなし
1	1	現在のユーザーおよびすべてのユーザーについてログあり
1	0	現在のユーザーについてのみログあり

コマンドラインインターフェイスを使用したクライアント側ログの有効化の例

Siebel Call Center (Uagent.cfg) 用のクライアント側ログを有効にする場合は、srvrmgr プログラムを使用して次のコマンドを入力します。

```
change param ClntTraceMode = 1 for compdef SCCObjMgr_enu
```

srvrmgr プログラムおよびコマンドラインインターフェイスの使用方法については、『Siebel システム管理ガイド』を参照してください。

ハイインタラクティビティ用のクライアント側ログのログファイルについて

ここでは、ハイインタラクティビティ用のクライアント側ログファイルのファイル名、データ形式、およびログファイルヘッダー情報について説明します。

ログファイルの名前

次の命名規則を使用して、セッションごとに個別のログファイルがC:\SiebelLogsディレクトリ内に作成されます。

```
SiebelCL.<session_id><number>.log
```

ここで、各項目は次のようになります：

session_id は、ユーザーに対して作成される一意のセッション番号です。

number は増分整数であり、ファイルサイズに依存します。ファイルサイズが SEBLCL_LOGFILESIZE パラメータの値を超えると、新しいファイルが作成されます。

たとえば、次のような名前のログファイルが作成されます。

```
SiebelCL.r-33c2VPwL7m8kSsty29fvFFSdTT9fLckkCk5sLRPyw_.log
```

ヒント： ログファイルは Microsoft Excel と互換性があるため、Excel で開くことができます。

データ形式

ログファイルのデータ形式は次のとおりです。

```
<trace_area><TAB><trace_category><TAB><numeric_category_level><TAB>  
<SARM_operation_number><timestamp><TAB><source_file(line_number)>  
<SPACE><logged_data><CRLF>
```

ここで、各項目は次のようになります：

trace_area は、ログデータに書き込むアプリケーションの機能要素です。

trace_category は、ログレベルを表すテキスト名です。

numeric_category_level は、ログレベルを示す数値であり、値が小さいほど、障害に関連して重大度の高いログ内容であることを意味します。たとえば、0 と 1 の場合はエラー情報が含まれ、2 と 3 の場合は詳細情報が含まれますがエラーは含まれません。

SARM_operation_number は、コンポーネントログファイルおよび SARM ファイルで収集されたものと同じクリック ID です。

timestamp は、ログデータがログに書き込まれた日時（YYYY-MM-DD HH:MM:SS 形式）です。

source_file(line_number) は、ログ呼び出しが開始されたソースコードファイルの名前と行番号です。

logged_data は、ログに書き込まれた情報であり、アプリケーションの動作、パラメータ値などに関するコンテキスト情報を示します。

CRLF は行終了文字（改行復帰）の略号です。

ログファイルヘッダー

他の Siebel アプリケーションイベントログと同様、各ログファイルのヘッダーには次の情報が表示されます。

```
<start_timestamp><end_timestamp><GMT_offset><application_name><machine_name>  
<machine_IP><username><session_id><IE_process_id><IE_thread_id><log_file_path>  
<product_version_build_lang>
```

ここで、各項目は次のようになります：

start_timestamp は、ログファイルの作成日時であり、YYYY-MM-DD HH:MM:SS の形式です。

end_timestamp は、クライアントセッションが終了し、ログの書き込みが終了した時刻です。

GMT_offset は、GMT に対するクライアントマシンのローカルタイムの時差です。

application_name は、クライアントがログインしたアプリケーションです。

machine_name は、この機能が実行されているマシンの名前です。

machine_IP は、クライアントマシンの IP アドレスです。

username は、アプリケーションにログインするために使用されたユーザー名です。

session_id は、ユーザーに対して作成される一意のセッション番号です。

IE_process_id は、Siebel アプリケーションをホストしている Internet Explorer ブラウザのオペレーティングシステムプロセス ID です。

IE_thread_id は、Internet Explorer ブラウザのオペレーティングシステムスレッド ID です。

log_file_path は、ログファイルのパスです。

product_version_build_lang は、クライアントが実行しているアプリケーションのバージョン、ビルド、および言語を表すデータです。

ハイインタラクティビティ用のクライアント側ログのログファイルヘッダーの例を次に示します。

```
2005-18-12 18:25:52 2005-08-12 18:29:13 +0530 Siebel Universal Agent 172.20.212.19  
SYI XsF2cHMrbEyI2VvUkmeq1WyA7tzeX8HOj1tqpbLbu4s 4496 6152  
C:¥SiebelLogs¥SiebelICL.XsF2cHMrbEyI2VvUkmeq1WyA7tzeX8HOj1tqpbLbu4s_.log  
8.0[HEM08_26_CIB] LANG_INDEPENDENT
```

ハイインタラクティブ性用のクライアント側ログのトレースおよびイベントログレベルの設定について

トレースを使用すると、ログイベントに関する固有の情報を収集できます。ここでは、ハイインタラクティブ性用のクライアント側ログのトレースおよびイベントログレベルについて説明します。

トレースおよびイベントログレベルの設定について

TRACEMODE を使用して、ハイインタラクティブ性用のクライアント側ログのトラブルシューティングを行うことができます。表 35 に、使用できるイベントとレベルを示します。

表 35 ハイインタラクティブ性用のクライアント側ログのトレースおよびイベントログレベル

イベント	レベル	説明
TRACE_ERROR	0	失敗したオペレーションを示します。
TRACE_WARNING	1	失敗しなかったけれども、今後何らかの条件が変更された場合に失敗する可能性のあるオペレーションを示します。
TRACE_INFO	2	ログを確認しているユーザーの関心を引くオペレーション（アプリケーションによって実行された興味深いオペレーションなど）を示します。
TRACE_DETAIL	3	実行された詳細なオペレーションを示します。このイベントでは、他のトレースイベントに比べてログの量が增大します。

備考： デフォルトのパラメータより大きいトレースレベルを設定すると、パフォーマンスに影響があります。トレースレベルは、トラブルシューティングが完了した後、デフォルトのパラメータにリセットする必要があります。

トレースおよびログレベルの設定については、[第 3 章「Siebel Server およびコンポーネントログの設定」](#)を参照してください。

トレースエリアについて

表 36 は、トレースエリアの種類と各エリアの簡単な説明を示しています。

表 36 ハイインタラクティビティ用のクライアント側ログのトレースエリア

トレースエリア	説明
TRCAREA_ATL	インターセプトされた ATL (ActiveX テンプレートライブラリ) のトレース文
TRCAREA_OM	クライアントオブジェクトマネージャのエリア
TRCAREA_CMDMGR	コマンドマネージャ
TRCAREA_GENCTL	編集ボックス、結合ボックス
TRCAREA_UICOMP	ユーザーインターフェイスコンポーネント
TRCAREA_POPUP	ポップアップ
TRCAREA_CUSTCTL	アプリケーション、カスタムコントロール
TRACEAREA_REQ	サーバーに送信されたリクエスト
TRACEAREA_RESP	PropertySet としての応答
TRACEAREA_CACHE	キャッシュに格納されているクライアント側文字列操作
TRACEAREA_BRST	ブラウザの状態 (ビジーなど)
TRACEAREA_CLNT	クライアントからのメッセージ
TRACEAREA_BRWS	ブラウザオペレーション (最小化、最大化など)
TRACEAREA_JAVA	JavaScript からのメッセージ
TRACEAREA_LAYOUT	ビューのレイアウトオペレーション

ハイインタラクティビティ用のクライアント側ログの SiebelLogs ログファイルの表示

SiebelLogs ログファイルの表示と編集には、任意のテキストエディタを使用できます。ログのテキストファイルは Microsoft Excel と互換性があるため、Excel で開くことができます。

SiebelLogs ログファイルを表示するには

- 任意のテキストエディタで SiebelLogs ログファイルを開きます。このファイルは、Microsoft Excel で開くこともできます。

図 15 は、Siebel Call Center のログファイルのサンプルの最初の部分を示しています。

```
SiebelCL_bfV4Nh7hMGqJzi73LzVvV9bWwZwXV8FZksUS8RuM5KY_log - Notepad
File Edit Format View Help
2005-12-23 18:05:53 0000-00-00 00:00:00 +0530 siebel universal Agent 64.181.161.51 SYI bfV4Nh7hMGqJzi73LzVvV9b
TRACE_AREA_OM TRACE_INFO 2 0 2005-12-23 18:05:52.716 axapp.cpp(236)CSSAXApp::CSSAXApp(): Name[]
TRACE_AREA_OM TRACE_INFO 2 0 2005-12-23 18:05:52.716 axapp.cpp(10237)CSSAXApp::CreateAsyncRPC - creating RPC
TRACE_AREA_BRWS TRACE_INFO 2 0 2005-12-23 18:05:52.747 axcmdmgr.cpp(2167)Browser DocumentComplete is called
TRACE_AREA_JAVA TRACE_INFO 2 0 2005-12-23 18:05:53.044 coapp.cpp(4953)JSSApplicationShadow Initialized
TRACE_AREA_BRWS TRACE_INFO 2 0 2005-12-23 18:05:53.044 axcmdmgr.cpp(2167)Browser DocumentComplete is called
TRACE_AREA_OM TRACE_INFO 2 0 2005-12-23 18:05:53.044 axapp.cpp(8917)*** CSSAXApp::ProcessObjectInfo() starts!
TRACE_AREA_BRWS TRACE_INFO 2 0 2005-12-23 18:05:53.060 axcmdmgr.cpp(2080)Browser BeforeNavigate2 is called with
TRACE_AREA_REQ TRACE_INFO 2 0 2005-12-23 18:05:53.153 rpcconnect.cpp(247)Begin sending RPC query string
TRACE_AREA_REQ TRACE_DETAIL 3 0 2005-12-23 18:05:53.153 rpcconnect.cpp(289)GET query string: SWEC=0&SWERPC=1&sr
TRACE_AREA_REQ TRACE_INFO 2 0 2005-12-23 18:06:08.637 rpcconnect.cpp(480)Completed RPC request
TRACE_AREA_OM TRACE_ERROR 0 0 2005-12-23 18:06:08.684 cenvchk.cpp(310)Client Environment Check: your browser i
TRACE_AREA_OM TRACE_ERROR 0 0 2005-12-23 18:06:08.684 cenvchk.cpp(317)Setting: Sun Java Runtime, Optional, Des
TRACE_AREA_OM TRACE_INFO 2 0 2005-12-23 18:06:08.700 axapp.cpp(9489)*** CSSAXApp::ProcessObjectInfo() ends!
TRACE_AREA_BRWS TRACE_INFO 2 0 2005-12-23 18:06:08.700 axcmdmgr.cpp(2356)Browser DownloadBegin is called
TRACE_AREA_BRWS TRACE_INFO 2 0 2005-12-23 18:06:08.762 axcmdmgr.cpp(2242)Browser NavigateComplete2 is called
TRACE_AREA_BRWS TRACE_INFO 2 0 2005-12-23 18:06:08.762 axcmdmgr.cpp(2242)Browser NavigateComplete2 is called
TRACE_AREA_BRWS TRACE_INFO 2 0 2005-12-23 18:06:08.778 axcmdmgr.cpp(2385)Browser DownloadEnd is called
TRACE_AREA_BRWS TRACE_INFO 2 0 2005-12-23 18:06:08.778 axcmdmgr.cpp(2167)Browser DocumentComplete is called
TRACE_AREA_BRWS TRACE_INFO 2 0 2005-12-23 18:06:08.778 axcmdmgr.cpp(2167)Browser DocumentComplete is called
TRACE_AREA_BRWS TRACE_INFO 2 0 2005-12-23 18:06:08.856 axcmdmgr.cpp(2080)Browser BeforeNavigate2 is called with
TRACE_AREA_BRST TRACE_INFO 2 0 2005-12-23 18:06:08.856 axcmdmgr.cpp(2666)Entering Busy state
TRACE_AREA_BRWS TRACE_INFO 2 0 2005-12-23 18:06:08.856 axcmdmgr.cpp(2356)Browser DownloadBegin is called
TRACE_AREA_BRWS TRACE_INFO 2 0 2005-12-23 18:06:08.856 axcmdmgr.cpp(2080)Browser BeforeNavigate2 is called with
TRACE_AREA_BRWS TRACE_INFO 2 0 2005-12-23 18:06:08.856 axcmdmgr.cpp(2080)Browser BeforeNavigate2 is called with
TRACE_AREA_BRWS TRACE_INFO 2 0 2005-12-23 18:06:08.856 axcmdmgr.cpp(2080)Browser BeforeNavigate2 is called with
TRACE_AREA_BRWS TRACE_INFO 2 0 2005-12-23 18:06:08.856 axcmdmgr.cpp(2080)Browser BeforeNavigate2 is called with
TRACE_AREA_BRWS TRACE_INFO 2 0 2005-12-23 18:06:08.856 axcmdmgr.cpp(2080)Browser BeforeNavigate2 is called with
```

図 15 Siebel Call Center のログファイルのサンプル

ハイインタラクティビティ用のクライアント側ログのログエリアとログシーケンスの例

ここでは、ハイインタラクティビティ用のクライアント側ログのログ情報の例を示します。

- ログエリアと説明
- ログシーケンス

ログの例 (エリア別)

表 37 は、ログに表示されるイベントの例をエリア別に示しています。

表 37 ログの例 (エリア別)

エリア	例
コントロールのイベントの説明テキスト	TRACE_AREA_GENCTL TRACE_INFO 3 0 2004-06-10 16:28:01.121 listctrl.cpp(1957):User right-clicked.
オペレーションの開始と終了	<ul style="list-style-type: none"> ■ TRACE_AREA_REQ TRACE_INFO 3 0 2004-06-10 16:28:01.123 axapp.cpp(9231):Begin sending RPC ■ TRACE_AREA_REQ TRACE_INFO 3 0 2004-06-10 16:28:05.234 axapp.cpp(9232):Completed RPC request.
GET リクエストのログ	TRACE_AREA_REQ TRACE_DETAIL 4 0 2004-06-10 16:28:01:235 axapp.cpp(9236):[155]GET query string: SWECmd=GetCachedFrame&SWEACn=5114&SWEC=3&SWEFrame=top._swe.
POST リクエストのログ	TRACE_AREA_REQ TRACE_DETAIL 4 0 2004-06-10 16:28:01:235 axapp.cpp(9236):[155] POST:data=field1=<data>&field2=<data>...
String Cache オペレーションの詳細のログ	TRACE_AREA_CACHE TRACE_DETAIL 4 0 2004-06-10 16:28:01:435 axapp.cpp(9252): Queried view for layout cache for view Order Entry List View
Busy 状態の開始と終了のログ	TRACE_AREA_BRST TRACE_DETAIL 4 0 2004-06-10 16:28:435 axapp.cpp(5122): Entering busy state
サーバーからのエラーメッセージのログ	TRACE_AREA_JAVA TRACE_ERROR 1 0 2004-06-10 16:28:09:435 axapp.cpp(5129):SBL-UIF-00335:We are unable to process your request.(This is most likely because you used the browser BACK or REFRESH button to get to this point)
ブラウザオペレーションのログ	TRACE_AREA_BRWS TRACE_INFO 3 0 2004-06-10 16:28:09:435 axapp.cpp(5102):Browser minimized.

表 37 ログの例 (エリア別)

エリア	例
<p>JavaScript からのログ</p>	<p>JavaScript 経由のログは、アプリケーションオブジェクトの公開されている API を使用してサポートされます。たとえば、ログエンジンが次のように呼び出されたとします。</p> <p>JavaScript => theApplication().SeblTrace(<i>level</i>,<i>logmessage</i>);</p> <p><i>level</i> は 0、1、2、または 3 です (各レベルの説明については 100 ページの表 35 を参照)。</p> <p><i>logmessage</i> は文字列メッセージです。</p> <p>Java トレースログは次のように表示されます。</p> <pre>TRACE_AREA_JAVA TRACE_INFO 4 0 2004-06-10 16:29:09:358 JSSApplicationShadow Initialized.</pre> <p>備考： ブラウザスクリプトからの自動ログはサポートされていません。</p>
<p>ビューのレイアウトオペレーションのログ</p>	<pre>TRACE_AREA_LAYOUT TRACE_Detail 4 0 2004-06-10 16:29:22:578 axapp.cpp(1223): Accessing view layout for Account List View from disk</pre>
<p>GotoView の Propertyset 情報のログ</p>	<pre>TRACE_AREA_RESP TRACE_INFO 3 0 2004-06-10 16:28:09:435 axapp.cpp(5102): Propertyset for gotoview</pre> <p>@0*0*6*3*0*3*0*6*Target35*top._sweclient._swecontent._sweview4 *SWEC1*74*View17*Account List View6*ViewId0*6*Status9*NewLayout2*UC1*10*6*3*api3*0*2*0*2* sc3*0*3*rpc1*71*v3034*8*Accounts5*Query6*Cancel15*Query</p> <p>Assistant6*Delete4*Save13*PositionOnRow18*ToggleListRowCount8* Location4*Site17*Main Phone Number12*Main Phone#14*Account status23*PickList Account Status9*Home</p> <p>Page3*URL7*GotoUrl12*SynchAccount10*BlankLine110*Blankline213* OwnerInstance19*LabelACCOUNTDETAILS10*LabelAUDIT13* LabelAsterisk13*LabelDUN</p>

ログシーケンスの例

ログシーケンスの例を次に示します。

- 1 TRACE_AREA_BRST TRACE_INFO 2 1 2005-12-23 18:06:13:700
axcmdmgr.cpp(2666)Entering Busy state
- 2 TRACE_AREA_OM TRACE_INFO 2 1 2005-12-23 18:06:13:700
axservice.cpp(228)CSSAxService::InvokeMethod()Name[GetAlarms]
- 3 TRACE_AREA_REQ TRACE_INFO 2 1 2005-12-23 18:06:13:700
rpcconnect.cpp(247)Begin sending RPC query string
- 4 TRACE_AREA_REQ TRACE_INFO 3 1 2005-12-23 18:06:13:700
rpcconnect.cpp(289)GET query
string:SWEC=2&SWEMethod=GetAlarms&SWERPC=1&SWEActiveApplet=Layout%20Controls%
20Applet&SWECmd=InvokeMethod&SWEIPS=%400*0*5*0*0*3*0*8*interval4*150013*
packUIStrings4*18:06:true9*alarmDate10*12/23/
20055*SWEJI5*false3*now8*18:06:13&SWEActiveView=Home%20Page%20View%
20(WCC)&SWEService=Alarm%20Manager
- 5 TRACE_AREA_REQ TRACE_INFO 2 1 2005-12-23 18:06:13:762
rpcconnect.cpp(480)CompletedRPC request
- 6 TRACE_AREA_BRST TRACE_INFO 2 1 2005-12-23 18:06:13:762
axcmdmgr.cpp(2689)Entering Ready state

ハイインタラクティビティ用のクライアント側ログのログアーカイブについて

ハイインタラクティビティ用のクライアント側ログのアーカイブフォルダには、事前設定されたファイル数までの履歴ログデータが格納されます。アーカイブフォルダに格納されるファイルの最大数を設定するには、SEBLCL_LOGARCHIVECOUNT 設定パラメータを使用します。現在のログファイルが作成されているディレクトリ内に SEBLCL_LOGDIR¥logarchive という名前の新しいディレクトリが作成され、このディレクトリにファイルがアーカイブされます。ユーザーがログインすると、アーカイブするファイルの有無が Web クライアントによって検査されます。

前述した現在のファイルは、通常、SiebelCL.<session_id>.log という名前です。

ここで、各項目は次のようになります：

session_id は、ユーザーに対して作成される一意のセッション番号です。

このファイルのサイズが、事前設定された最大ファイルサイズに達すると、同じフォルダ内に別のログファイルが作成されます。作成されるファイル数の上限は、次の規則に従って、ClntLogArchiveCount サーバーパラメータにより指定されます。

SiebelCL. <session_id>.0n.log, SiebelCL.<session_id>.0(n+1).log

パラメータのサイズ制限については、96 ページの「ハイインタラクティビティ用のクライアント側ログの有効化と無効化」を参照してください。サーバーパラメータの設定については、『Siebel システム管理ガイド』を参照してください。

8

システムログファイルのクエリー

Siebel アプリケーションによって生成されたログファイルのクエリーを実行することは、操作のどの段階で発生した問題を解決する診断タスクにも有効です。Log File Analyzer (LFA) は、この分析に役立つコマンドラインユーティリティです。

この章では、次のトピックについて説明します。

- [107 ページの「Log File Analyzer について」](#)
- [108 ページの「ログファイルの分析方法」](#)
- [109 ページの「LFA を使用したログファイルの分析プロセス」](#)
- [109 ページの「Log File Analyzer の設定」](#)
- [113 ページの「Log File Analyzer の起動」](#)
- [115 ページの「Log File Analyzer のコマンドの実行について」](#)
- [115 ページの「LFA クエリーの作成および保存」](#)
- [122 ページの「LFA のクエリーのフィルター」](#)
- [129 ページの「Log File Analyzer のエラーメッセージについて」](#)

Log File Analyzer について

Siebel Log File Analyzer (LFA) は、Siebel のログファイルを検索して、対象の情報を見つけ出すように設計されたコマンドラインユーティリティです。LFA を使用して、ログファイルの内容を分析して確認し、これらのファイルから分析情報をコンパイルします。

LFA を実行し、次の 1 つまたは複数の項目でフィルターして、Siebel Server と Siebel Web Server Extension (SWSE) 全体でログファイルのクエリーを実行します。

- ユーザー名
- ログレベル
- リテラル値
- イベントまたはサブイベント
- セッション ID
- ログファイルの日時
- コンポーネント

LFA は分析出力を作成します。この出力は、コマンドラインから確認することも、テキストファイルに保存することもできます。

LFA の実行プロセスについては、[109 ページの「LFA を使用したログファイルの分析プロセス」](#)を参照してください。

LFA の言語に関する注意事項

LFA は、Siebel Server のメインログファイルのイベントに含まれる情報を使用して、使用可能なコンポーネントを決定します。このログファイルのイベントはさまざまな言語に翻訳されます。さまざまな言語のイベントの形式を理解するために、LFA は、Siebel Server のルートディレクトリの locale サブディレクトリ (/siebsrvr/locale など) にある言語ファイルの情報を読み取ります

言語ファイルを変更すると、LFA は Siebel Server のメインログファイルに含まれる特定の主要なイベントを認識できなくなり、実行時エラーが発生します。

ログファイルの分析方法

ログファイルの分析方法は、発生した問題によって異なります。対象の問題が特定のユーザーに関連しているのか、一般的なアプリケーションシステムに関連しているのかを確認します。確認された問題に適した方法を使用して Log File Analyzer (LFA) を実行します。

- ユーザーの問題を確認するために LFA を使用する方法については、[「ユーザーの問題の分析」](#)を参照してください。
 - システムの問題を確認するために LFA を使用する方法については、[「システムの問題の分析」](#)を参照してください。
- LFA の使用プロセスとその詳細については、[「LFA を使用したログファイルの分析プロセス」](#)を参照してください。

ユーザーの問題の分析

簡単に解決できないユーザーの問題については、アプリケーションへのアクセスとアプリケーションの使用にユーザーが費やした時間に関してアプリケーションが記録した追加情報が、ログファイルから提供されます。

LFA を使用すると、管理者は、ユーザーのセッションに関連するイベントのクエリーを数多くのログファイルで実行できます。たとえば、Casey Smith という名前のユーザーがアプリケーションに関する問題を 13 時頃に報告した場合は、LFA を使用して、12 時 30 分から 14 時までに発生した Casey に関連するイベントのクエリーを実行します。結果を絞り込むには、ログレベルがあるレベル以上でなければならないなど、エラー状況を表す条件を含めます。

LFA 出力には、個々のログイベントが見つかったファイルに関する情報が含まれます。管理者は、エラーやその他の対象のログイベントを検出した後、元のログファイルに戻って確認し、問題の解決に役立つその他の情報が得られる前後のイベントを探すことができます。

備考： ログファイルでユーザーのクエリーを実行するには、環境変数 SIEBEL_LOG_EVENTS が 4 に設定されていることを確認します。環境変数については、57 ページの「コンポーネント診断の共通イベントタイプ」を参照してください。

システムの問題の分析

ユーザーの問題を伴わない一般的なシステムの問題（ワークフローの問題など）の場合は、一般的なシステムの使用状況に関する問題を管理者が見つげ出し、解決するときに LFA が役立ちます。

たとえば、ワークフロープロセッサが特定の時間内に失敗したことがわかっている場合は、LFA を使用して、その時間内に発生したログイベントを検索し、そのイベントが含まれるログファイルで詳細を調べます。

その時点でシステムの問題が明らかになっていない場合に、予防措置としてログファイルでエラーを定期的に確認するときにも LFA が有効です。

LFA を使用したログファイルの分析プロセス

Log File Analyzer (LFA) を使用してログファイルを分析するには、次のタスクを実行します。

- 1 必要に応じて、適切な Siebel Server と Siebel Web Server Extension (SWSE) ログファイルにアクセスするように LFA を設定します。このタスクについては、[109 ページの「Log File Analyzer の設定」](#)を参照してください。
- 2 LFA を起動します。このタスクについては、[113 ページの「Log File Analyzer の起動」](#)を参照してください。
- 3 LFA を使用してログファイルでクエリーを実行します。このタスクについては、[115 ページの「LFA クエリーの作成および保存」](#)を参照してください。LFA の実行については、[115 ページの「Log File Analyzer のコマンドの実行について」](#)を参照してください。

LFA を使用したログファイルの分析方法については、[108 ページの「ログファイルの分析方法」](#)を参照してください。

Log File Analyzer の設定

デフォルト名が logreader.cfg の LFA 設定ファイルにアクセスして編集し、Log File Analyzer (LFA) を設定します。LFA は、起動時に LFA 設定ファイルを使用して、Siebel Server の位置、Siebel Web Server Extension (SWSE) プラグインの位置、その他の実行時の詳細を参照します。

このタスクは、[109 ページの「LFA を使用したログファイルの分析プロセス」](#)の最初の手順です。LFA を一度設定すると、さらに変更する必要がある場合を除き、この手順はオプションになります。

LFA 設定ファイルのデフォルトの保存場所は、Siebel Server のルートディレクトリのバイナリサブディレクトリです (/siebsrvr/bin など)。

LFA 設定ファイルには、ユーティリティによって分析されるログを設定するセクションと、確認される内容を設定するセクションが含まれます。テキストエディタを使用して、設定ファイルの適切なセクションを編集します。LFA 設定ファイルのパラメータとその説明は、[表 38](#)を参照してください。一般的な設定ファイルの例は、[112 ページの「Log File Analyzer の設定ファイルの例」](#)を参照してください。

表 38 Log File Analyzer の設定ファイルのセクションとパラメータ

セクション	パラメータ	説明
[elements]	<i>Siebel Server Identification Tag</i>	<p>[elements] セクションには、LFA が検索できる Siebel Server が表示されます。次の形式を使用します。 <i>Siebel Server Identification Tag</i> = server、ここで、 <i>Siebel Server Identification Tag</i> は、目的の Siebel Server を識別する一意のタグ名です。このタグは実際の Siebel Server 名にすることができますが、その他の設定可能な値にすることもできます。次に例を示します。</p> <p>[elements] SiebelServer1=server</p>
	<i>Siebel web Server Extension Identification Tag</i>	<p>[elements] セクションには、LFA が検索できる SWSE プラグインが表示されます。次の形式を使用します。 <i>Siebel web Server Extension Identification Tag</i> = plug-in、ここで、 <i>Siebel web Server Extension Identification Tag</i> は、目的の SWSE プラグイン識別する一意のタグ名です。このタグは実際の SWSE プラグイン名にすることができますが、その他の設定可能な値にすることもできます。次に例を示します。</p> <p>[elements] SiebelSWSE1=plugin</p>
[<i>Siebel Server</i> 識別タグ]	Path	<p>[elements] セクションに表示される Siebel Server の各識別パラメータには、対応する独自のセクションがあり、そのセクションでは、それぞれの名前が角かっこで囲まれて表示されます。Siebel Server の各セクションの path パラメータは、その Siebel Server の関連付けられたログファイルの場所を示しています。次に例を示します。</p> <p>[SiebelServer1] Path = //SiebSrv1/siebsrvr/log</p>

表 38 Log File Analyzer の設定ファイルのセクションとパラメータ

セクション	パラメータ	説明
[<i>Siebel server</i> 識別タグ .Siebel server コンポーネント名]	shortname	LFAがログファイルでコンポーネント参照を検索できるように、Siebel Server コンポーネントの表示名を角かっこで囲んで表示します。Siebel Server コンポーネントのエイリアスを shortname パラメータの値として追加します。次に例を示します。 [SiebelServer1.Server Request Broker] shortName=SRBroker Siebel Server コンポーネントとそのエイリアスについては、『Siebel システム管理ガイド』を参照してください。
[<i>Siebel web server Extension</i> 識別タグ]	Path	[elements] セクションに表示される SWSE プラグインの各識別パラメータには、対応する独自のセクションがあり、そのセクションでは、それぞれの名前が角かっこで囲まれて表示されます。SWSE プラグインの各セクションの path パラメータは、その SWSE プラグインの関連付けられたログファイルの場所を示しています。次に例を示します。 [SiebelSWSE1] Path = //SWSE1/eappweb/log
[Render] ¹	event	有効にすると、ログイベントの情報が表示されます。有効にするには 1 に、無効にするには 0 に設定します。
	subevent	有効にすると、ログサブイベントの情報が表示されます。有効にするには 1 に、無効にするには 0 に設定します。
	loglevel	イベントサブタイプのログレベルの情報が表示されません。有効にするには 1 に、無効にするには 0 に設定します。
	time	有効にすると、ログのタイミング情報が表示されます。有効にするには 1 に、無効にするには 0 に設定します。
	file	有効にすると、ログファイルパス情報が表示されます。有効にするには 1 に、無効にするには 0 に設定します。

1. [Render] セクションのパラメータ情報は、LFA の実行時にコマンドを使用して制御することもできます。詳しくは、115 ページの「Log File Analyzer のコマンドの実行について」を参照してください。

備考： タイトルが [schemes]、[user]、および [session] のセクションは変更しないでください。

Log File Analyzer の設定ファイルの例

次の Log File Analyzer (LFA) の設定ファイルの例は、SiebSrv1 および SiebSrv2 という名前の 2 つの Siebel Server と、SWSE1、SWSE2、および SWSE3 という名前の 3 つの Siebel Web Server Extension (SWSE) を持つ 3 つの Web サーバーを使用した Siebel アプリケーションのものです。LFA 設定ファイルには、2 つの Siebel Server コンポーネント (Server Request Broker および Call Center Object Manager) のエイリアス情報も含まれます。LFA は、この設定ファイルを使用して、すべての Siebel Server および SWSE ログファイルを検索し、表示された 2 つの Siebel Server コンポーネントを検索して、ログレベルとログファイルのパスを除くすべての情報を表示します。

個々のセクションとパラメータについては、[109 ページの「Log File Analyzer の設定」](#)を参照してください。

```
[elements]
SiebSrv1=server
SiebSrv2=server
SWSE1=plugin
SWSE2=plugin
SWSE3=plugin
[SiebSrv1]
Path = //SiebSrv1/siebsrvr/log
[SiebSrv2]
Path = //SiebSrv2/siebsrvr/log
[SiebSrv1.Server Request Broker]
shortName=SRBroker
[SiebSrv2.Call Center Object Manager (ENU)]
shortName=SCCObjMgr
[SWSE1]
Path = //SWSE1/eappweb/log
[SWSE2]
Path = //SWSE2/eappweb/log
[SWSE3]
Path = //SWSE3/eappweb/log
[Render]
event=1
subevent=1
loglevel=0
time=1
file = 0
```


Log File Analyzer の起動

Log File Analyzer (LFA) の起動は、109 ページの「LFA を使用したログファイルの分析プロセス」の第 2 の手順です。LFA の基本情報については、107 ページの「Log File Analyzer について」を参照してください。

LFA ユーティリティは、Siebel Server のルートディレクトリのバイナリサブディレクトリに、Microsoft Windows では実行可能ファイル `logreader.exe` として、UNIX ではバイナリとして置かれています。

Microsoft Windows で LFA を起動する手順は、113 ページの「Microsoft Windows での Log File Analyzer の起動」に記載されています。

UNIX で LFA を起動する手順は、114 ページの「UNIX での Log File Analyzer の起動」に記載されています。

Microsoft Windows での Log File Analyzer の起動

次のコマンドを使用して、Microsoft Windows で Log File Analyzer (LFA) コマンドラインユーティリティを起動します。

Microsoft Windows で Log File Analyzer を起動するには

- 1 Siebel Server のルートディレクトリのバイナリサブディレクトリ (`/siebesrvr/bin`) に移動します。
- 2 LFA 設定ファイル (`logreader.cfg`) がこのユーティリティと同じディレクトリにあることを確認します。このファイルが別のディレクトリにある場合は、または名前が異なる場合は、表 39 で説明する `/f` パラメータを使用してください。設定ファイルについては、109 ページの「Log File Analyzer の設定」を参照してください。
- 3 Windows のコマンドプロンプトで、必要に応じて表 39 に示したパラメータを使用し、`logreader.exe` を入力します。

正しく起動されると、ログリーダーコマンドプロンプトが次のように表示されます。

```
logreader>
```

- 4 115 ページの「Log File Analyzer のコマンドの実行について」で説明するコマンドを使用して LFA を実行します。

備考： DLL ファイル `MSVCR70D.dll` および `MSVCP70D.dll` が LFA ディレクトリにあることに注意してください。

表 39 で、LFA を起動するときに表示できるパラメータについて説明します。

表 39 Log File Analyzer のパラメータ

パラメータ	説明	例
/h	LFA ユーティリティで表示できるパラメータを表示します。	logreader /h
/f	LFA 設定ファイルが LFA ユーティリティディレクトリにない場合、または設定ファイルの名前が logreader.cfg ではない場合に、このファイルを検索します。/f パラメータの後にパスまたは新しい設定ファイル名を入れます。設定ファイル名にスペースが含まれる場合は、引数を引用符で囲みます。	logreader /f abc.cfg または log reader /f g:¥abc¥abc.cfg
/i	LFA コマンドが含まれる入力ファイルを指定します。起動時に、LFA は入力ファイルに含まれるコマンドからの出力を提供します。必要に応じて、/i パラメータの後にファイル名とパスを入れてください。	logreader /i g:¥abc¥abc.txt

備考： パラメータ /f と /i は、個別に、または同時に使用します。

UNIX での Log File Analyzer の起動

次のコマンドを使用して、UNIX で Log File Analyzer (LFA) コマンドラインユーティリティを起動します。

UNIX で Log File Analyzer を起動するには

- LD_LIBRARY_PATH (Solaris)、SHLIB_PATH (HP-UX)、または LIBPATH (AIX) 環境変数に、使用するデータベースクライアントライブラリディレクトリのフルパス名が含まれていることを確認します。これらの変数については、『UNIX 用 Siebel インストールガイド』を参照してください。
- LFA 設定ファイル (logreader.cfg) がこのユーティリティと同じディレクトリにあることを確認します。このファイルが別のディレクトリにある場合は、または名前が異なる場合は、表 39 で説明する /f パラメータを使用してください。設定ファイルについては、109 ページの「Log File Analyzer の設定」を参照してください。
- 必要に応じて表 39 に示した他のパラメータを使用して、logreader を入力します。
正しく起動されると、ログリーダーコマンドプロンプトが次のように表示されます。
logreader>
- 115 ページの「Log File Analyzer のコマンドの実行について」で説明するコマンドを使用して LFA を実行します。

Log File Analyzer のコマンドの実行について

Log File Analyzer (LFA) を実行すると、Siebel アプリケーションログファイルに含まれる情報を検索し、フィルターできます。LFA の実行方法全般については、[108 ページの「ログファイルの分析方法」](#)を参照してください。

LFA を実行する場合は、コマンドとパラメータを正しく入力したことを確認してください。次の情報はすべての LFA コマンドに共通です。

- LFA では大文字と小文字が区別されます。
- スペースを含むパラメータは引用符で囲みます。

次の項で、LFA の実行方法を説明します。

- [115 ページの「LFA クエリーの作成および保存」](#)：クエリーの作成と実行は、LFA に関連付けられた基本的なタスクです。
- [122 ページの「LFA のクエリーのフィルター」](#)：クエリーをフィルターすると、対象の診断情報を見つけ出す場合に役立ちます。

備考： LFA でクエリーを実行する前に、ログファイルを非本番環境に移動します。LFA は本番環境で LFA を使用して潜在的に大きな、数多くのログファイル間で解析するため、システム全体のパフォーマンスが低下する可能性があります。

LFA クエリーの作成および保存

クエリーの作成と実行は、Log File Analyzer (LFA) に関連付けられた基本的なタスクです。保存されたクエリーの作成は、[109 ページの「LFA を使用したログファイルの分析プロセス」](#)のタスクです。

LFA の query コマンドを使用し、ユーザー、リテラル値、セッション、重大度、イベント、サブイベント、ログ時刻、またはこれらの項目の組み合わせに基づいてログファイルを検索します。

これらのコマンドの実行については、次の項を参照してください。

LFA は、各クエリーの結果をメモリに保存するか、テキストファイルに保存します。保存されたクエリーの表示については、[123 ページの「保存されたクエリー出力の表示」](#)を参照してください。出力のテキストファイルへの保存については、[123 ページの「Log File Analyzer の出力のテキストファイルへの保存」](#)を参照してください。

終了する前にクエリーを停止するには、[124 ページの「Log File Analyzer のクエリーの中断」](#)を参照してください。

ログファイルでのユーザーのクエリー

次の手順に従って、個々のユーザーに関連付けられたイベントをログファイルで検索します。Log File Analyzer (LFA) のクエリーコマンドのその他のオプションについては、[115 ページの「LFA クエリーの作成および保存」](#)を参照してください。

備考： ログファイルでユーザーのクエリーを実行するには、環境変数 SIEBEL_LOG_EVENTS が 4 に設定されていることを確認します。環境変数については、[57 ページの「コンポーネント診断の共通イベントタイプ」](#)を参照してください。

特定のユーザーに関連付けられたイベントのクエリーを実行するには

- 次のように入力します。

```
query query_name where user = user_name
```

ここで、各項目はそれぞれ次のようになります。

query_name = この名前でメモリに格納されたクエリーコマンド出力

user_name = ログファイルの対象ユーザー

このクエリーコマンドの例は次のとおりです。

```
query asqry where user = asmith
```

このコマンドは、ユーザー `asmith` に関連付けられたイベントのクエリーをログファイルで実行し、`asqry` という名前で出力をメモリに保存します。

ログファイルでのリテラル値のクエリー

次の手順に従って、特定のリテラル値をログファイルで検索します。Log File Analyzer (LFA) のクエリーコマンドのその他のオプションについては、[115 ページの「LFA クエリーの作成および保存」](#)を参照してください。

リテラル値のクエリーを実行するには

- 次のように入力します。

```
query query_name where literal = literal_value
```

ここで、各項目はそれぞれ次のようになります。

query_name = この名前でメモリに格納されたクエリーコマンド出力

literal_value = ログファイル内の対象のリテラル値

このクエリーコマンドの例は次のとおりです。

```
query litqry where literal = Parameter
```

このコマンドは、文字 `Parameter` に関連付けられたイベントのクエリーをログファイルで実行し、`litqry` という名前で出力をメモリに保存します。

ログファイルでのエラーメッセージのクエリー

次の手順に従って、エラーメッセージをログファイルで検索します。このコマンドは、リテラル値のクエリーのアプリケーションです。Log File Analyzer (LFA) のクエリーコマンドのその他のオプションについては、[115 ページの「LFA クエリーの作成および保存」](#)を参照してください。

エラーメッセージのクエリーを実行するには

- 次のように入力します。

```
query query_name where literal = error_message_number
```

ここで、各項目はそれぞれ次のようになります。

query_name = この名前でもメモリに格納されたクエリーコマンド出力

error_message_number = ログファイル内の対象のエラーメッセージ番号

このクエリーコマンドの例は次のとおりです。

```
query errorqry where literal = SBL-ASG-00001
```

このコマンドは、エラーメッセージ番号 SBL-ASG-00001 に関連付けられたイベントのクエリーをログファイルで実行し、errorqry という名前で出力をメモリに保存します。

ログファイルでのセッションのクエリー

次の手順に従って、特定のセッションをログファイルで検索します。Log File Analyzer (LFA) のクエリーコマンドのその他のオプションについては、[115 ページの「LFA クエリーの作成および保存」](#)を参照してください。

特定のセッションに関連付けられたイベントのクエリーを実行するには

- 次のように入力します。

```
query query_name where session = session_ID
```

ここで、各項目はそれぞれ次のようになります。

query_name = この名前でもメモリに格納されたクエリーコマンド出力

session_ID = ログファイル内の対象のセッション ID

このクエリーコマンドの例は次のとおりです。

```
query sesqry where session = !1.15bc.c425.3f302b17
```

このコマンドは、セッション ID!1.15bc.c425.3f302b17 に関連付けられたイベントのクエリーをログファイルで実行し、sesqry という名前で出力をメモリに保存します。

ログファイルでの特定の重大度のクエリー

次の手順に従って、特定の重大度のイベントをログファイルで検索します。Log File Analyzer (LFA) のクエリーコマンドのその他のオプションについては、115 ページの「LFA クエリーの作成および保存」を参照してください。

イベントは 0 ~ 5 に分類され、0 が最も重大です。イベントの重大度とイベントログについては、『Siebel システム管理ガイド』を参照してください。

このコマンドは、指定された重大度のイベントと、それよりも高い重大度のイベントを検出します。たとえば、重大度 2 のクエリーを実行すると、重大度 0 および 1 のイベントも出力に含まれます。

特定の重大度に関連付けられたイベントのクエリーを実行するには

- 次のように入力します。

```
query query_name where loglevel = severity_value
```

ここで、各項目はそれぞれ次のようになります。

query_name = この名前でもメモリに格納されたクエリーコマンド出力

severity_value = 対象の重大度値 (0 ~ 5 の整数値)

このクエリーコマンドの例は次のとおりです。

```
query svtqry where loglevel = 1
```

このコマンドは、重大度 0 および 1 に関連付けられたイベントのクエリーをログファイルで実行し、svtqry という名前で出力をメモリに保存します。

ログファイルでの特定のログイベントのクエリー

次の手順に従って、特定のログイベントをログファイルで検索します。Log File Analyzer (LFA) のクエリーコマンドのその他のオプションについては、115 ページの「LFA クエリーの作成および保存」を参照してください。

一部のログイベントとイベントログについては、『Siebel システム管理ガイド』を参照してください。

特定のログイベントに関連付けられたイベントのクエリーを実行するには

- 次のように入力します。

```
query query_name where event = event_name
```

ここで、各項目はそれぞれ次のようになります。

query_name = この名前でもメモリに格納されたクエリーコマンド出力

event_name = 対象のログイベント名

このクエリーコマンドの例は次のとおりです。

```
query evtqry where event = SessMgr
```

このコマンドは、SessMgr という名前のログイベントのクエリーをログファイルで実行し、evtqry という名前で出力をメモリに保存します。

ログファイルでの特定のログサブイベントのクエリー

次の手順に従って、特定のログサブイベントをログファイルで検索します。Log File Analyzer (LFA) のクエリーコマンドのその他のオプションについては、[115 ページの「LFA クエリーの作成および保存」](#)を参照してください。

一部のログサブイベントとイベントログについては、『Siebel システム管理ガイド』を参照してください。

特定のサブログイベントに関連付けられたログエントリのクエリーを実行するには

■ 次のように入力します。

```
query query_name where subevent = subevent_name
```

ここで、各項目はそれぞれ次のようになります。

query_name = この名前でもメモリに格納されたクエリーコマンド出力

subevent_name = 対象のログサブイベント名

このクエリーコマンドの例は次のとおりです。

```
query subvtqry where subevent = SlsNetGeneric
```

このコマンドは、*SlsNetGeneric* という名前のログサブイベントのクエリーをログファイルで実行し、*subvtqry* という名前で出力をメモリに保存します。

特定の時刻よりも後のログファイルのクエリー

次の手順に従って、特定の時刻よりも後に作成されたログファイルを検索します。Log File Analyzer (LFA) のクエリーコマンドのその他のオプションについては、[115 ページの「LFA クエリーの作成および保存」](#)を参照してください。

特定の時刻よりも後に記録されたイベントのクエリーを実行するには

■ 次のように入力します。

```
query query_name where time from "YYYY-MM-DD HH:MM:SS"
```

ここで、各項目はそれぞれ次のようになります。

query_name = この名前でもメモリに格納されたクエリーコマンド出力

"YYYY-MM-DD HH:MM:SS" = 対象の日時

備考：日時パラメータの厳密な時刻部分、HH:MM:SS は省略できます。この場合は、日付の基準時刻はデフォルトで 00:00:00 になります。

このクエリーコマンドの例は次のとおりです。

```
query timeqry where time from "2003-10-01 16:30:00"
```

このコマンドは、2003年10月1日午後4時30分よりも後に作成されたログファイルのクエリーを実行し、*timeqry* という名前で出力をメモリに保存します。

このコマンドを他のパラメータと組み合わせて使用すると、結果をフィルターする場合に有効です。詳しくは、[121 ページの「複数の条件を使用したログファイルのクエリー」](#)を参照してください。

特定の期間内のログファイルのクエリー

次の手順に従って、特定の期間内に作成されたログファイルを検索します。Log File Analyzer (LFA) のクエリーコマンドのその他のオプションについては、[115 ページの「LFA クエリーの作成および保存」](#)を参照してください。

特定の期間内に記録されたイベントのクエリーを実行するには

- 次のように入力します。

```
query query_name where time from "YYYY-MM-DD HH:MM:SS" to "YYYY-MM-DD HH:MM:SS"
```

ここで、各項目はそれぞれ次のようになります。

query_name = この名前でメモリに格納されたクエリーコマンド出力

"YYYY-MM-DD HH:MM:SS" = 対象の日時

備考：日時パラメータの厳密な時刻部分、HH:MM:SS は省略できます。この場合は、日付の開始時刻はデフォルトで 00:00:00 になり、終了時刻はデフォルトで 23:59:59 になります。

このクエリーコマンドの例は次のとおりです。

```
query timeintqry where time from "2003-10-01 16:30:00" to "2003-10-05"
```

このコマンドは、2003 年 10 月 1 日午後 4 時 30 分から 2003 年 10 月 5 日午後 11 時 59 分までの間に作成されたログファイルのクエリーを実行し、timeintqry. という名前で出力をメモリに保存します。

このコマンドを他のパラメータと組み合わせて使用すると、結果をフィルターする場合に有効です。詳しくは、[121 ページの「複数の条件を使用したログファイルのクエリー」](#)を参照してください。

ログファイルでのコンポーネントのクエリー

次の手順に従って、特定の Siebel Server コンポーネントをログファイルで検索します。Log File Analyzer (LFA) のクエリーコマンドのその他のオプションについては、[115 ページの「LFA クエリーの作成および保存」](#)を参照してください。

LFA 設定ファイルに、目的の Siebel Server コンポーネントの情報が含まれていることを確認します。詳しくは、[109 ページの「Log File Analyzer の設定」](#)を参照してください。

Siebel Server コンポーネントについては、『Siebel システム管理ガイド』を参照してください。

ログエントリで特定の Siebel Server コンポーネントのクエリーを実行するには

- 次のように入力します。

```
query query_name where component = component__name
```

ここで、各項目はそれぞれ次のようになります。

query_name = この名前でメモリに格納されたクエリーコマンド出力

component__name = 対象の Siebel Server コンポーネント名

備考： *component__name* パラメータには、Siebel Server コンポーネント名の正式名とエイリアス形式のいずれも使用できます。コンポーネント名とエイリアスについては、『Siebel システム管理ガイド』を参照してください。

このクエリーコマンドの例は次のとおりです。

```
query compqry where component = SCCObjMgr
```

このコマンドは、Call Center Object Manager (エイリアス SCCObjMgr) のクエリーをログファイルで実行し、*compqry* という名前で出力をメモリに保存します。

複数の条件を使用したログファイルのクエリー

次に示す、複数の条件を使用したクエリーコマンドの組み合わせの例を参照してください。各クエリーコマンドの条件とその使用方法については、[115 ページの「LFA クエリーの作成および保存」](#)を参照してください。

論理演算子 AND および OR も Log File Analyzer (LFA) のクエリーコマンドに使用できます。複数の条件コマンドをわかりやすくするために、条件セットを括弧に入れてグループ分けします。

- `query litasqry where (literal = Parameter) or (user = asmith)`

このコマンドは、文字 `Parameter` またはユーザー `asmith` のクエリーをログファイルで実行します。また、`litasqry` という名前で出力をメモリに保存します。

- `query aqry where literal = Parameter and literal = SBL-GEN`

このコマンドは、文字 `Parameter` と文字 `literal SBL-GEN` のクエリーをログファイルで実行します。また、`aqry` という名前で出力をメモリに保存します。

- `query asaugqry where user = asmith time from 2003-08-05`

このコマンドは、2003 年 8 月 5 日より後のユーザー `asmith` のクエリーをログファイルで実行します。また、`asaugqry` という名前で出力をメモリに保存します。

- `query asaugqry where user = asmith time from "2003-08-05 15:20:00" to "2003-08-05 15:30:00"`

このコマンドは、2003 年 8 月 5 日午後 3 時 20 分から午後 3 時 30 分までの 10 分間のユーザー `asmith` のクエリーをログファイルで実行します。出力は、`asaugqry` という名前でメモリに保存されます。

LFA のクエリーのフィルター

保存されたクエリーの出力をさらに絞り込むには、show コマンドを使用します。ログファイルのクエリーと保存されたクエリーの作成については、[115 ページの「LFA クエリーの作成および保存」](#)を参照してください。

1 つまたは複数の保存されたクエリーの表示については、[123 ページの「保存されたクエリー出力の表示」](#)を参照してください。

保存されたクエリー情報をフィルターするには

- 次のように入力します。

```
show query_name where_clause
```

ここで、各項目はそれぞれ次のようになります。

query_name = この名前でもメモリに格納されたクエリーコマンド出力

where_clause = キーワードを使用して表示結果をフィルターするために使用する where 句

Log File Analyzer (LFA) で使用できるキーワードについては、[124 ページの「クエリーコマンドのキーワードの表示」](#)を参照してください。show コマンドで使用する where 句の構文は、query コマンドで使用する where 句の構文と似ています。詳しくは、[115 ページの「LFA クエリーの作成および保存」](#)を参照してください。

個々のまたは複数の保存されたクエリーをさらにフィルターするには、複数の where 句条件と論理演算子 AND および OR を使用します。これらのタイプのコマンドの例については、[122 ページの「保存されたクエリーのフィルターの例」](#)を参照してください。

show コマンドのフィルター出力を保存するには、結果をテキストファイルに保存します。このタスクについては、[123 ページの「Log File Analyzer の出力のテキストファイルへの保存」](#)を参照してください。show コマンドのフィルター出力はメモリには保存できません。

保存されたクエリーのフィルターの例

次の例に、show コマンドを使用して保存されたクエリーで使用できるフィルターのタイプを示します。

- show aquery where user = asmith

このコマンドは、保存されたクエリー aquery で、ユーザー asmith に関連する情報をフィルターします。

- show aquery where user = asmith and literal = Parameter time from "2003-08-05 15:20:20" to "2003-08-05 15:30:00" > out.dat

このコマンドは、保存されたクエリー aquery で、ユーザー asmith およびリテラル値 parameter に関する 2003 年 8 月 5 日午後 3 時 20 分と 3 時 30 分間の情報をフィルターします。また、このコマンドは、フィルターしたクエリーの結果を out.dat という名前のテキストファイルに格納します。

- show aquery, bquery where user = asmith and literal = Parameter time from "2003-08-05 15:20:20" to "2003-08-05 15:30:00" > out.dat

このコマンドは、前の項と同じ条件に基づいて、保存されたクエリー aquery と bquery をフィルターします。

Log File Analyzer の出力のテキストファイルへの保存

次の手順に従って、Log File Analyzer (LFA) のコマンドの結果をテキストファイルに保存します。LFA の実行については、[115 ページの「Log File Analyzer のコマンドの実行について」](#)を参照してください。出力を作成するすべての LFA コマンドは、出力をファイルに転送できます。

Log File Analyzer の出力をテキストファイルに保存するには

- 次のように入力します。

```
log_file_analyzer_command > file_name.txt
```

ここで、各項目はそれぞれ次のようになります。

log_file_analyzer_command = LFA のコマンド

file_name.txt = 出力テキストファイルの名前

次の項目を確認してください。

- 出力をテキストファイルに保存する場合は、文字 > を含める。
- Log File Analyzer (LFA) のディレクトリ以外のディレクトリに保存する場合は、テキストファイル名でパス名を指定する。

例：

```
query litqry where literal = Parameter > output1.txt
```

このコマンドは、保存されたクエリー *litqry* の出力を *output1.txt* という名前のテキストファイルに保存します。LFA は、この出力テキストファイルを Log File Analyzer のディレクトリと同じディレクトリに格納します。

保存されたクエリー出力の表示

次の手順に従って、1 つまたは複数の保存されたクエリーコマンドの結果を画面に表示します。保存されたクエリーについては、[127 ページの「Log File Analyzer と実行時の詳細の表示」](#)を参照してください。

クエリーコマンドについては、[115 ページの「LFA クエリーの作成および保存」](#)を参照してください。

Log File Analyzer (LFA) はクエリーコマンド出力もテキストファイルに保存します。このタスクについては、[123 ページの「Log File Analyzer の出力のテキストファイルへの保存」](#)を参照してください。

保存されたクエリー出力を画面に表示するには

- 次のように入力します。

```
show query_name
```

ここで、各項目はそれぞれ次のようになります。

query_name = この名前でもメモリに格納されたクエリーコマンド出力

例：

```
show evtqry
```

この例は、前のクエリーコマンドの出力、*evtqry* を表示します。

備考： LFA は、指定のセッションでもメモリに保存されたクエリーだけを表示します。

保存された複数のクエリー出力を画面に表示するには

- 次のように入力します。

```
show query_name_1, query_name_2, ... , query_name_N
```

ここで、各項目は次のようになります：

query_name_N = この名前でもメモリに格納されたクエリーコマンド出力

例：

```
show evtqry1, evtqry2
```

この例は、前の 2 つのクエリーコマンドの出力、*evtqry1* および *evtqry2* を表示します。

Log File Analyzer のクエリーの中断

次の手順に従って、クエリーコマンドを中断します。クエリーコマンドについては、[115 ページの「LFA クエリーの作成および保存」](#)を参照してください。

実行中のクエリーコマンドを中断するには

- コマンドの実行中に CTRL+C をクリックします。

クエリーコマンドのキーワードの表示

次の手順に従って、*query* コマンドの *where* 句で使用できるキーワードを表示します。各キーワードの使用については、[115 ページの「LFA クエリーの作成および保存」](#)を参照してください。

クエリーコマンドのキーワードを表示するには

- 次のように入力します。

```
keys
```

キーワードは画面に出力されます。

ログイベントフィールドの表示状態の表示

次の手順に従って、ログイベントフィールドの表示状態を表示します。値 1 は、ログイベントフィールドが表示に設定されていることを示します。値 0 は、ログイベントフィールドが非表示に設定されていることを示します。

ログイベントフィールドの表示状態を表示するには

- 次のように入力します。

```
fields
```

実行時に表示状態を変えるには、タスク 125 ページの「LFA の結果でのログイベントフィールドの表示」または 126 ページの「LFA 結果でのログイベントフィールドの非表示」を参照してください。

Log File Analyzer (LFA) の設定ファイルを変更して、イベントログフィールドのデフォルトの表示状態を設定します。LFA の設定ファイルについては、109 ページの「Log File Analyzer の設定」を参照してください。

LFA の結果でのログイベントフィールドの表示

次の手順に従って、個々の LFA セッションの Log File Analyzer (LFA) からの出力にログファイルフィールドを表示します。この情報は LFA 設定ファイルでも設定できますが、その場合は、すべての LFA セッションに適用されません。詳しくは、109 ページの「Log File Analyzer の設定」を参照してください。

現在のイベントログフィールドの表示状態を表示するには、125 ページの「ログイベントフィールドの表示状態の表示」を参照してください。

LFA 出力でログファイルフィールドを表示するには

- 次のように入力します。

```
showfield log_field_name
```

ここで、各項目はそれぞれ次のようになります。

log_field_name = 表示するログフィールドの名前。使用可能な表示フィールドについては、表 40 を参照してください。

表示する複数のログファイルフィールドを 1 つの showfield コマンドで設定するには、各ログファイルフィールドをスペースまたはカンマで区切ります。

表 40 設定可能なログファイルフィールド

ログファイルフィールド	説明
event	イベントの名前
subevent	サブイベントの名前
loglevel	ログファイルイベントの重大度
file	ログファイルのファイルおよびパス名
time	ログファイルの日時

LFA 結果でのログイベントフィールドの非表示

次の手順に従って、個々の LFA セッションの Log File Analyzer (LFA) からの出力でログファイルフィールドを非表示にします。この情報は LFA 設定ファイルでも設定できます。その場合はすべての LFA セッションに適用されません。詳しくは、[109 ページの「Log File Analyzer の設定」](#)を参照してください。

現在のイベントログフィールドの表示状態を表示するには、[125 ページの「ログイベントフィールドの表示状態の表示」](#)を参照してください。

LFA 出力でログファイルフィールドを非表示にするには

- 次のように入力します。

```
hidefield log_field_name
```

ここで、各項目はそれぞれ次のようになります。

log_field_name = 表示するログフィールドの名前。使用可能な表示フィールドについては、[125 ページの表 40](#)を参照してください。

非表示にする複数のログファイルフィールドを 1 つの showfield コマンドで設定するには、各ログファイルフィールドをスペースまたはカンマで区切ります。

Log File Analyzer の保存されたクエリーの結果の削除

次の手順に従って、保存されたクエリーを削除します。ログファイルのクエリーについては、[115 ページの「LFA クエリーの作成および保存」](#)を参照してください。

備考： 保存されたクエリーを削除しても、テキストファイルとして保存されたクエリーは削除されません。

Log File Analyzer のクエリーの結果を削除するには

- 次のように入力します。

```
delete query_name
```

ここで、各項目はそれぞれ次のようになります。

query_name = この名前でもメモリに格納されたクエリーコマンド出力

複数の保存されたクエリーを削除するには、delete コマンドを使用するときに、各クエリー名をスペースまたはカンマで区切ります。

Log File Analyzer と実行時の詳細の表示

次の手順で `list` コマンドを使用し、保存されたクエリーと実行時の詳細を画面に表示します。Log File Analyzer (LFA) の実行については、[115 ページの「Log File Analyzer のコマンドの実行について」](#)を参照してください。保存されたクエリーの作成については、[115 ページの「LFA クエリーの作成および保存」](#)を参照してください。

各表示項目については、[128 ページの「Log File Analyzer を使用したログファイル情報の表示」](#)を参照してください。

Log File Analyzer のクエリーと実行時の詳細を表示するには

- 次のように入力します。

```
list list_item
```

ここで、各項目はそれぞれ次のようになります。

`list_item` = 対象の表示項目表示できる項目については、[表 41](#) を参照してください。

表 41 表示できる Log File Analyzer の項目

項目	説明
all	表示できる LFA のすべての項目を表示します。 備考: 少なくとも 1 つのクエリーを実行するまでは、LFA はユーザーまたはセッションを表示しません。
queries	現在のセッションで保存された LFA クエリーを表示します。
servers	LFA によって検索されるサーバーを表示します。
sessions	LFA によって検索されるログファイルで検出されたセッションを表示します。
plugins	LFA によって検索されるプラグインを表示します。
components	LFA によって検索されるログファイルに情報が含まれるコンポーネントを表示します。
processes	LFA によって検索されるログファイルに情報が含まれるプロセスを表示します。
users	LFA によって検索されるログファイルに情報が含まれるユーザーを表示します。

備考: LFA が適切なサーバーまたはプラグインを検索しない場合は、対象のサーバーまたはプラグインを検索するための LFA の設定について [「Log File Analyzer の設定」](#) を参照してください。

Log File Analyzer を使用したログファイル情報の表示

次の手順で `info` を使用し、実行時の詳細の値について詳細な情報を表示します。`info` コマンドに使用できる項目については、[127 ページの「Log File Analyzer と実行時の詳細の表示」](#) を参照してください。

Log File Analyzer (LFA) の実行については、[115 ページの「Log File Analyzer のコマンドの実行について」](#) を参照してください。保存されたクエリーの作成については、[115 ページの「LFA クエリーの作成および保存」](#) を参照してください。

Log File Analyzer の実行時の詳細の値に関する情報を表示するには

- 次のように入力します。

```
info info_item
```

ここで、各項目はそれぞれ次のようになります。

`info_item` = 対象の表示項目の値表示できる項目（表示項目 `all` および `queries` を除く）については、[127 ページの表 41](#) を参照してください。

複数のリスト値の情報を表示するには、`info_item` パラメータで値をコンマまたはスペースで区切ります。

たとえば、`list` コマンドをユーザーに使用すると、`asmith` という名前のエントリが見つかります。`asmith` に関する情報を表示するには、次のコマンドを使用します。

```
info asmith
```

Log File Analyzer の終了

次のコマンドを使用して、Log File Analyzer を終了します。Log File Analyzer を終了すると、クエリー出力をテキストファイルに保存していない場合は、そのセッションについて保存されたクエリーは削除されます。このタスクについては、[123 ページの「Log File Analyzer の出力のテキストファイルへの保存」](#) を参照してください。

Log File Analyzer を終了するには

- 次のように入力します。

```
exit
```


Log File Analyzer のエラーメッセージについて

表 42 に、Log File Analyzer (LFA) が処理中に生成する各エラーのエラーコード、メッセージテキスト、説明、および解決策（解決できる場合）を示します。

表 42 Log File Analyzer のエラーメッセージ

エラーコード	エラーテキスト	説明	解決策
SBL-LFA-00100	Section [%s] in configuration file is empty.	エラーメッセージで示されたセクションが空です。LFA にはこのセクションの内容が必要です。	設定ファイルの正しい仕様については、 109 ページの「Log File Analyzer の設定」 を参照してください。
SBL-LFA-00101	Rule "%s" appears in the configuration file but is not registered.	ルールがLFA設定ファイルに追加されていますが、このユーティリティには登録されていません。したがって、ルールは認識されません。	この時点で、LFA のカスタマイズされたルールを作成することはできません。このルールを設定ファイルから削除してください。
SBL-LFA-00102	Cannot find section [%s] in the configuration file.	エラーメッセージテキストで示された LFA 設定ファイルのセクションは必須のセクションですが、ファイルにありません。	設定ファイルの正しい仕様については、 109 ページの「Log File Analyzer の設定」 を参照してください。
SBL-LFA-00103	There is a format problem in section [%s] of the configuration file.	エラーメッセージテキストで示されたLFA設定ファイルのセクションにフォーマットエラーがあります。	設定ファイルの正しい仕様については、 109 ページの「Log File Analyzer の設定」 を参照してください。
SBL-LFA-00104	value "%s" in the section is invalid or missing.	エラーメッセージテキストで示された LFA 設定ファイルのセクションに値がありません。	設定ファイルの正しい仕様については、 109 ページの「Log File Analyzer の設定」 を参照してください。
SBL-LFA-00105	Time filters are invalid or have contradictory values.	クエリーで使用しようとしている時間フィルターが無効です。To 時刻をFrom時刻よりも前に設定できません。	時間フィルターの正しい使用方法については、 120 ページの「特定の期間内のログファイルのクエリー」 を参照してください。
SBL-LFA-00106	value or Name for "%s" is a negative number.	この値には負でない値が予想されています。	正の値を指定してください。
SBL-LFA-00107	Cannot open file: "%s".	LFA が出力を指定のファイルに書き込めません。	ファイルとディレクトリに対する自分の権限を確認してください。ファイルが読み取り専用でないことを確認してください。

表 42 Log File Analyzer のエラーメッセージ

エラーコード	エラーテキスト	説明	解決策
SBL-LFA-00108	File "%s" is already in use.	このファイルが実行中の他のアプリケーションによってロックされている可能性があります。	ファイルにアクセスしている可能性があるアプリケーションをシャットダウンして、もう一度実行してください。
SBL-LFA-00109	Cannot create pipe for command ¥"%s¥".	パイプはサポートされていません。	この機能はサポートされていません。
SBL-LFA-00110	OUT OF MEMORY !!!!!!	LFA を使用しているコンピュータのメモリが不足しています。	一部のアプリケーションをシャットダウンして、もう一度実行してください。
SBL-LFA-00112	Query's "where" clause is invalid.	クエリーの where 句が正しく指定されていません。	「where」句の正しい使用方法については、115 ページの「LFA クエリーの作成および保存」を参照してください。
SBL-LFA-00113	Query with name "%s" does not exist.	存在しないクエリーを参照しようとしました。	list queries と入力して、既存のクエリーを確認してください。そのクエリーが存在しない場合は、参照する前に作成する必要があります。クエリーの作成については、115 ページの「LFA クエリーの作成および保存」を参照してください。
SBL-LFA-00114	Filter for "%s" does not exist.	指定されたパラメータはフィルターとして使用できません。	この項目はクエリーパラメータとして使用しないでください。
SBL-LFA-00115	Category "%s" does not exist.	指定された語を使用しようとしたのですが、キーワードだけが求められています。	コマンドを修正してもう一度実行してください。キーワードについては、124 ページの「クエリーコマンドのキーワードの表示」を参照してください。
SBL-LFA-00116	Object "%s" does not exist.	参照しようとしているオブジェクト (Siebel Server、プラグイン、クエリー、ユーザー、コンポーネント、またはセッション) は使用できません。	オブジェクトを参照できることを確認してください。既存のオブジェクトの表示については、127 ページの「Log File Analyzer と実行時の詳細の表示」を参照してください。
SBL-LFA-00117	Object "%s" already exists. Please use another name	その名前のオブジェクトはすでに存在しています。	オブジェクトに別の名前を使用してください。
SBL-LFA-00118	Query "%s" finished abnormally.	おそらくログファイルが壊れたか、ユーザーが介入したことが原因でクエリーが異常終了しました。	クエリーを再度実行します。実行されず、クエリーが複雑な場合は、クエリーを単純にしてください。
SBL-LFA-00119	"%s" should not be used for naming.	指定した名前は使用できません。	別の文字の組み合わせを使用してください。

表 42 Log File Analyzer のエラーメッセージ

エラーコード	エラーテキスト	説明	解決策
SBL-LFA-00120	Cannot interpret: "%s"	指定した名前はこの場所では使用できません。	LFA がコマンド構文でエラーを識別しました。有効な LFA コマンドについては、115 ページの「 Log File Analyzer のコマンドの実行について 」を参照してください。
SBL-LFA-00121	Token has a wrong value: "%s"	指定した値は無効です。	有効な LFA コマンドについては、115 ページの「 Log File Analyzer のコマンドの実行について 」を参照してください。
SBL-LFA-00122	Unknown issue.	入力したコマンドでエラーが発生しました。	有効な LFA コマンドについては、115 ページの「 Log File Analyzer のコマンドの実行について 」を参照してください。
SBL-LFA-00123	There is no file "%s".	LFA を開始したときに指定した入力ファイルは存在しません。	ファイルがあることと、ファイル名とパスが正しいことを確認します。
SBL-LFA-00124	Wrong format of the string: "%s".	指定した文字列のフォーマットが間違っています。	有効な LFA コマンドについては、115 ページの「 Log File Analyzer のコマンドの実行について 」を参照してください。
SBL-LFA-00125	Error parsing configuration file "%s".	メッセージテキストで指定されている Log File Analyzer の設定ファイルがありません。	別の設定ファイルを使用して LFA を再起動するか、指定された設定ファイルを使用できることを確認します。
SBL-LFA-00126	Too many unrelated files are found following main server log file pattern: "%s".	サーバーのログディレクトリのログファイルに矛盾があります。複数の関連のないファイルが、LFA がサーバーモデルの初期化に使用しているサーバーのメインログファイルのパターンに一致しています。	関連のないすべてのファイルを削除して、もう一度実行してください。
SBL-LFA-00127	Invalid usage of the command.	コマンドを間違えて使用しました。	LFA コマンドの正しい使用方法とリンクについては、115 ページの「 Log File Analyzer のコマンドの実行について 」を参照してください。
SBL-LFA-00128	Component with name "%s" could not be found.	Log File Analyzer は、コンポーネントの略称に入力したコンポーネント名を翻訳できません。	これが有効なコンポーネントの場合は、その略称を LFA 設定ファイルで指定してください。詳しくは、109 ページの「 Log File Analyzer の設定 」を参照してください。

表 42 Log File Analyzer のエラーメッセージ

エラーコード	エラーテキスト	説明	解決策
SBL-LFA-00130	Language "%s" could not be initialized. Please see Log File Analyzer documentation for more information.	Siebel Server の locale ディレクトリに言語ファイルがないか、壊れています。	LFA ログファイルの言語に関する注意事項を参照してください。詳しくは、107 ページの「 Log File Analyzer について 」を参照してください。
SBL-LFA-00131	String with code "%s" could not be loaded. Please see Log File Analyzer documentation for more information.	Siebel Server の locale ディレクトリに言語ファイルがないか、壊れています。	LFA ログファイルの言語に関する注意事項を参照してください。詳しくは、107 ページの「 Log File Analyzer について 」を参照してください。
SBL-LFA-00132	Formatting string "%s" is not supported. Parameters for this string could not be extracted.	Log File Analyzer が文字列を解析できない原因となるエラーが文字列にあります。	このエラーの原因となる基本的な問題を解決できない場合は、Siebel テクニカルサポートにご連絡ください。

9

Siebel 環境データの取得

Siebel 環境情報を取得すると、診断とトラブルシューティングに役立ちます。Siebel Diagnostic Data Collector (SDDC) コマンドラインユーティリティを使用して、環境設定、構成設定、ログ情報などのデータを収集できます。

この章では、次のトピックについて説明します。

- [133 ページの「Siebel Diagnostic Data Collector について」](#)
- [135 ページの「Microsoft Windows での Siebel 環境データの取得」](#)
- [137 ページの「UNIX での Siebel 環境データの取得」](#)
- [135 ページの「Microsoft Windows での Siebel Diagnostic Data Collector の実行」](#)
- [137 ページの「UNIX での Siebel Diagnostic Data Collector の実行プロセス」](#)
- [140 ページの「Siebel 環境データの確認」](#)
- [144 ページの「Microsoft Windows での SDDC の内容の設定」](#)
- [150 ページの「UNIX での SDDC の内容の設定」](#)

Siebel Diagnostic Data Collector について

Siebel Diagnostic Data Collector (SDDC) は、Siebel Server、Siebel Gateway Name Server、および Siebel Web Server Extension (SWSE) のルートディレクトリに、Microsoft Windows では実行可能ファイル `siებსnap.exe` として、UNIX ではバイナリとして置かれたコマンドラインユーティリティです。Siebel Diagnostic Data Collector (SDDC) ユーティリティを実行すると、Siebel Server、Siebel Gateway Name Server、および Siebel Web Server Extension の情報が個別に収集され、収集されたデータが出力ファイルに格納されます。これらの出力ファイルは、確認用にただちに使用したり、必要に応じて Siebel テクニカルサポートに送信したりできます。SDDC の実行については、次の項を参照してください。

- [135 ページの「Microsoft Windows での Siebel 環境データの取得」](#) または [137 ページの「UNIX での Siebel 環境データの取得」](#)

SDDC は、実行するたびに出力ファイルを作成します。これらのファイルには、特定の各エンティティの環境情報が記録されます。収集された情報の場所とタイプの詳細については、次を参照してください。

- [140 ページの「Siebel 環境データの確認」](#)

備考： 完全な環境データ取得を実行するには、必要なすべての実行可能ファイルまたは利用可能なバイナリがあることを確認します。詳しくは、[134 ページの「SDDC の実行可能ファイルおよびバイナリについて」](#)を参照してください。

SDDC の実行可能ファイルおよびバイナリについて

Siebel Diagnostic Data Collector (SDDC) ユーティリティでは、環境データの包括取得に次の実行可能ファイルまたはバイナリが使用されます。SDDC では、すべての実行可能ファイルおよびバイナリを実行することは要求されません。ただし、そのすべてが存在している場合、ほとんどの情報が取得されます。

実行可能ファイルおよびバイナリは、オペレーティングシステムおよびプラットフォームに基づいて分類されます。

Windows の実行可能ファイル

- odbcsql
- netstat
- db2level (db2 を使用している場合)
- osql (MS SQL を使用している場合)
- sqlplus (Oracle を使用している場合)

UNIX バイナリ (共通)

SDDC では、次の 31 個のバイナリがすべての Unix プラットフォームで使用されます。

- /usr/bin/cp
- /usr/bin/ls
- /bin/tar
- /bin/mv
- /bin/compress
- /bin/mkdir
- /bin/rm
- /bin/chmod
- /bin/grep
- /bin/cat
- /bin/find
- /bin/touch
- /bin/echo
- /bin/sum
- /bin/wc
- /bin/head
- /bin/coreadm
- /bin/sed
- /bin/awk
- /bin/date
- /bin/hostname
- /bin/uname
- /bin/netstat
- /etc/system
- /usr/sbin/ndd
- /dev/tcp
- db2level
- /usr/bin/ipcs
- db2
- sqlplus
- what

Solaris 用の UNIX バイナリ

- psrinfo
- sysdef
- prtconf
- ifconfig
- CC
- /bin/isainfo
- /bin/ulimit -a
- /sbin/prtdiag

AIX 用の UNIX バイナリ

- lscfg
- instfix
- lsattr
- lspv
- lsvg
- no
- ifconfig
- /bin/oslevel
- /bin/getconf
- /bin/lslpp
- /etc/security/limits
- /bin/errpt
- /etc/inittab

HP-UX 用の UNIX バイナリ

- sysdef
- aCC
- swlist
- ioscan
- /bin/getconf
- /usr/lib/libCsup2
- /etc/system

Linux 用の UNIX バイナリ

- gcc
- getconf
- /sbin/ifconfig
- /proc/cpuinfo
- /sbin/sysctl

Microsoft Windows での Siebel 環境データの取得

Siebel Diagnostic Data Collector (SDDC) ユーティリティを手動で実行し、システムインフラストラクチャの環境設定、構成設定、およびログ情報を取得します。Siebel Server、Siebel Gateway Name Server、および Siebel Web Server Extension (SWSE) に対して SDDC を個別に実行し、それぞれに固有の情報を収集します。

SDDC の基本情報については、[133 ページの「Siebel Diagnostic Data Collector について」](#)を参照してください。

Microsoft Windows での SDDC の実行については、次の項を参照してください。

- [135 ページの「Microsoft Windows での Siebel Diagnostic Data Collector の実行」](#)

SDDC によって取得された情報を確認するには、[140 ページの「Siebel 環境データの確認」](#)を参照してください。

Microsoft Windows での Siebel Diagnostic Data Collector の実行

Microsoft Windows で Siebel Diagnostic Data Collector (SDDC) を実行するには、次のコマンドを使用します。Microsoft Windows での SDDC ユーティリティの実行の基本情報については、[135 ページの「Microsoft Windows での Siebel 環境データの取得」](#)を参照してください。

Siebel Server の情報を収集するには

- 1 Siebel Server のルートディレクトリ内のバイナリサブディレクトリに移動します。
- 2 次の例のように、/s フラグを指定して siebsnap.exe を実行します。また、必要に応じて、[136 ページの表 43](#) に示すパラメータを指定します。

```
siebsnap.exe /s
```

- 3 siebsnap 出力ディレクトリの収集された情報を確認します。このディレクトリは、SDDC ユーティリティによって *SIEBSRVR_ROOT* ディレクトリに作成されます。

Siebel Gateway Name Server の情報を収集するには

- 1 Siebel Gateway Name Server のルートディレクトリのバイナリサブディレクトリに移動します。
- 2 次の例のように、/g フラグを指定して siebsnap.exe を実行します。また、必要に応じて、[136 ページの表 43](#) に示すパラメータを指定します。

```
siebsnap.exe /g
```

- 3 siebsnap 出力ディレクトリの収集された情報を確認します。このディレクトリは、SDDC ユーティリティによって gtwsrvr ディレクトリに作成されます。

Web サーバーと SWSE の情報を収集するには

- 1 Siebel SWSE_ROOT ディレクトリ内の binary サブディレクトリに移動します。
- 2 次の例のように、/w フラグを指定して siebsnap.exe を実行します。また、必要に応じて、[136 ページの表 43](#) に示すパラメータを指定します。

```
siebsnap.exe /w
```

- 3 siebsnap 出力ディレクトリの収集された情報を確認します。このディレクトリは、SDDC ユーティリティによって SWSE_ROOT ディレクトリに作成されます。

次の[表 43](#)に、SDDC で使用できるパラメータの説明を示します。

表 43 Microsoft Windows での SDDC パラメータ

パラメータ	説明	必須/任意
/g	Siebel Gateway Name Server の情報を収集するには、siebsnap.exe コマンドにこのパラメータを追加します。	必須
/s	Siebel Server の情報を収集するには、siebsnap.exe コマンドにこのパラメータを追加します。	必須
/w	Web サーバーと SWSE の情報を収集するには、siebsnap.exe コマンドにこのパラメータを追加します。	必須
/c <i>siebsnap.cfg</i>	特定の設定ファイルを参照するには、このパラメータを使用します。このパラメータは、Siebel テクニカルサポートから設定ファイルを提供された場合に使用します。詳しくは、 144 ページの「Microsoft Windows での SDDC の内容の設定」 を参照してください。	任意
/h	siebsnap.exe コマンドにこのパラメータを指定すると、SDDC とそのパラメータについての情報が表示されます。	任意

備考： SDDC を実行するたびに、パラメータ /g、/s、/w のいずれか 1 つを使用してください。

Microsoft Windows での Siebel Diagnostic Data Collector コマンドの例

Microsoft Windows での Siebel Diagnostic Data Collector (SDDC) コマンドの例をいくつか次に示します。

- `siebsnap.exe /c siebsnapw32.cfg -g`

このコマンドは、設定ファイル `siebsnapw32.cfg` を使用して Siebel Gateway Name Server の情報を取得します。

- `siebsnap.exe /s`

このコマンドは、Siebel Server の情報を取得します。

- `siebsnap.exe /c siebsnapw32.cfg /w`

このコマンドは、設定ファイル `siebsnapw32.cfg` を使用して Web サーバーと SWSE の情報を取得します。

UNIX での Siebel 環境データの取得

Siebel Diagnostic Data Collector (SDDC) ユーティリティをユーザーが手動で実行し、システムインフラストラクチャの環境設定、構成設定、およびログ情報を取得します。Siebel Server、Siebel Gateway Name Server、および Siebel Web Server Extension (SWSE) に対して SDDC を個別に実行し、それぞれに固有の情報を収集します。

SDDC の基本情報については、[133 ページの「Siebel Diagnostic Data Collector について」](#)を参照してください。

UNIX での SDDC の実行については、次の項を参照してください。

- [137 ページの「UNIX での Siebel Diagnostic Data Collector の実行プロセス」](#)

SDDC によって取得された情報を確認するには、[140 ページの「Siebel 環境データの確認」](#)を参照してください。

UNIX での Siebel Diagnostic Data Collector の実行プロセス

UNIX で Siebel Diagnostic Data Collector (SDDC) を実行するには、次のタスクを実行します。

- 1 SDDC を使用できる UNIX 環境を準備します。このタスクについては、[138 ページの「SDDC を使用するための UNIX 環境の準備」](#)を参照してください。
- 2 Siebel Diagnostic Data Collector の実行このタスクについては、[138 ページの「UNIX での Siebel Diagnostic Data Collector の実行」](#)を参照してください。

SDDC を使用した環境データの取得の基本情報については、[137 ページの「UNIX での Siebel 環境データの取得」](#)を参照してください。

SDDC を使用するための UNIX 環境の準備

次の手順を実行して、Siebel Diagnostic Data Collector (SDDC) を使用するための UNIX 環境を準備します。このタスクは、[137 ページの「UNIX での Siebel Diagnostic Data Collector の実行プロセス」](#)の一部です。

SDDC を使用するための環境を準備するには

- 1 データベース固有のスクリプトを実行して、データベース環境変数を設定します。
- 2 `siebenv.sh` スクリプトまたは `siebenv.csh` スクリプトを実行して、Siebel 環境変数を設定します。これらのスクリプトについては、『UNIX 用 Siebel インストールガイド』を参照してください。
- 3 SDDC を実行できるように権限を変更します。

UNIX での Siebel Diagnostic Data Collector の実行

UNIX で Siebel Diagnostic Data Collector (SDDC) を実行するには、次のコマンドを使用します。このタスクは、[137 ページの「UNIX での Siebel Diagnostic Data Collector の実行プロセス」](#)の一部です。

Siebel Server の情報を収集するには

- 1 次のように、`-s` フラグを指定して `siebsnap` コマンドを実行します。また必要に応じて、[139 ページの表 44](#) に示すパラメータを指定することもできます。

```
siebsnap -s siebel_server_name
```

- 2 `siebsrvr_machine-name_server-name` 出力ディレクトリで、収集された情報を確認します。

Siebel Gateway Name Server の情報を収集するには

- 1 次のように、`-g` フラグを指定して `siebsnap` コマンドを実行します。また必要に応じて、[139 ページの表 44](#) に示すパラメータを指定することもできます。

```
siebsnap -g siebel_gateway_name
```

- 2 `machine-name_gateway` 出力ディレクトリで、収集された情報を確認します。

Web サーバーと SWSE の情報を収集するには

- 1 次のように、`-w` フラグを指定して `siebsnap` コマンドを実行します。また必要に応じて、139 ページの表 44 に示すパラメータを指定することもできます。

```
siebsnap -w webserver_root
```

- 2 `machine-name_webserver-name` 出力ディレクトリで、収集された情報を確認します。

備考： または、SDDC を UNIX で使用する場合は、Siebel Gateway Name Server 名、Siebel Server 名、または Web サーバー名の代わりに `this_server` を使用します。

表 44 UNIX での SDDC パラメータ

パラメータ	説明
<code>-g <i>siebel_gateway_name</i></code>	パラメータ <code>-g</code> と Siebel Gateway Name Server の名前を指定すると、Siebel Gateway Name Server の情報が収集されます。または、 <code>-g this_server</code> を使用します。
<code>-s <i>siebel_server_name</i></code>	パラメータ <code>-s</code> と Siebel Server の名前を指定すると、Siebel Server の情報が収集されます。または、 <code>-s this_server</code> を使用します。
<code>-w <i>webserver_root</i></code>	パラメータ <code>-w</code> と Web サーバーのルートパスを指定すると、SWSE と Web サーバーの情報が収集されます。または、 <code>-w this_server</code> を使用します。
<code>-c <i>siebsnap.ini</i></code>	特定の設定 INI ファイルを参照する場合は、このパラメータを使用します。詳しくは、150 ページの「UNIX での SDDC の内容の設定」を参照してください。
<code>-help</code>	このパラメータを指定して <code>siebsnap</code> コマンドを実行すると、SDDC とそのパラメータについての情報が表示されます。

UNIX での Siebel Diagnostic Data Collector コマンドの例

UNIX での Siebel Diagnostic Data Collector (SDDC) コマンドの例をいくつか次に示します。

- `siebsnap -s this_server -u sadmin -p sadmin`

このコマンドは、ユーザー名とパスワードを使用して Siebel Server の情報を取得します。

- `siebsnap -g gtway1`

このコマンドは、名前が `gtway1` の Siebel Gateway Name Server の情報を取得します。

- `siebsnap -w this_server`

このコマンドは、Web サーバーと SWSE 情報を取得します。

Siebel 環境データの確認

Siebel Diagnostic Data Collector (SDDC) ユーティリティが実行されるたびに、必要に応じて出力ファイルとディレクトリが作成されます。これらのファイルに手動でアクセスし、Siebel 環境データを確認したり、出力ファイルを Siebel テクニカルサポートに確認用に送信したりできます。

出力ファイルには、指定に応じて、環境設定情報、アプリケーション設定、およびログファイルが含まれます。SDDC の実行については、次の項を参照してください。

- Microsoft Windows で実行する場合は、[135 ページの「Microsoft Windows での Siebel 環境データの取得」](#)を参照してください。
- UNIX で実行する場合は、[137 ページの「UNIX での Siebel 環境データの取得」](#)を参照してください。

SDDC Microsoft Windows ユーティリティが作成する出力は、サブディレクトリとファイルを含むルートディレクトリのフォーマットになります。Microsoft Windows での SDDC 出力ファイルの情報とその保存場所については、[141 ページの「Microsoft Windows での SDDC 出力」](#)を参照してください。

UNIX での SDDC ユーティリティは、圧縮ファイルの形式で出力を作成します。UNIX での SDDC 出力ファイルの情報とその保存場所については、[143 ページの「UNIX での SDDC 出力」](#)を参照してください。

SDDC では、次の命名規則に従って、ルートディレクトリとファイル名が作成されます。

```
ss_{GS|SS|WS}yyyy-mm-dd_hh_mm_ss
```

ここで、

ss = siebsnap

GS|SS|WS = Siebel Gateway Name Server、Siebel Server、または Web サーバー

yyyy-mm-dd = 年月日

hh_mm_ss = 時分秒 (24 時間制)

たとえば、ディレクトリまたはファイル名が `ss_SS2003-04-08_17_10_30` の場合は、4 月 8 日の午後 5 時頃に収集された Siebel Server の情報であることを表します。また、ディレクトリまたはファイル名が `ss_GS2003-04-07_14_18_58` の場合は、4 月 7 日午後 2 時頃に収集された Siebel Gateway Name Server の情報であることを表します。

共通の SDDC 出力ファイルとフォルダ

Siebel Diagnostic Data Collector (SDDC) を Siebel Server、Siebel Gateway Name Server、および Siebel Web Server Extension (SWSE) に対して実行したときに生成される出力には、共通のフォルダとファイルが含まれています。表 45 に、これらのファイルとフォルダに収集される情報についての詳細説明を示します。

表 45 共通のファイルとフォルダ

ファイルとサブフォルダ	説明
Readme ファイル	SDDC の実行中にコピーされたファイルと作成されたディレクトリのスナップショットが含まれます。
Siebsnap ログファイル	SDDC の実行中に収集された情報の詳細なログが含まれます。このファイルは、Microsoft Windows で SDDC を実行した場合にのみ生成されます。
設定ファイル	SDDC の実行中に使用された設定ファイル（指定されている場合）をコピーします。このファイルは、Microsoft Windows で SDDC を実行した場合にのみ生成されます。
siebel_info ディレクトリ	Siebel 環境情報のディレクトリ。このフォルダにはサブフォルダがあり、サブフォルダには、ログファイルや Siebel 環境についての詳細情報が保存されます。
system_info ディレクトリ	システム情報のディレクトリ。このフォルダには、ハードウェア、ネットワーク統計情報、オペレーティングシステム、およびレジストリキーについての情報が記述されたテキストファイルが含まれます。
db_info ディレクトリ	データベースバージョン情報のディレクトリ。このフォルダには、データベースのバージョン情報が記述されたテキストファイルが含まれます。
webserverLogs ディレクトリ	Web サーバーログ情報のディレクトリ。このフォルダには、Web サーバーのログファイルが保存されます。

Microsoft Windows での SDDC 出力

Microsoft Windows での Siebel Diagnostic Data Collector (SDDC) の出力は、このユーティリティによって作成されたディレクトリ構造の内部に保存されたファイルで構成されています。設定ファイルを指定していない場合は、Microsoft Windows での SDDC 出力のデフォルトのディレクトリは、Siebel Server のルートディレクトリの siebsnap ディレクトリになります。SDDC の出力場所をこれ以外のディレクトリに設定するには、SDDC 設定ファイルでパラメータ `outputDirectory` を更新します。SDDC 設定ファイルでのこのパラメータやその他のパラメータの設定については、144 ページの「Microsoft Windows での SDDC の内容の設定」を参照してください。

SDDC が収集するデータが Siebel Server、Siebel Gateway Name Server、または Web サーバーと SWSE のいずれかであるかによって、siebsnap ディレクトリ（または設定された出力ディレクトリ）に追加のフォルダが作成されます。これらルートフォルダに対する時間依存のディレクトリ命名規則については、140 ページの「Siebel 環境データの確認」を参照してください。

これらのエンティティについて生成される出力内容の場所については、次の項を参照してください。

- 142 ページの「Microsoft Windows での Siebel Server の SDDC 出力」
- 142 ページの「Microsoft Windows での Siebel Gateway Name Server の SDDC 出力」
- 143 ページの「Microsoft Windows での Web サーバーの SDDC 出力」

SDDC 出力のファイルとディレクトリの内容（一部はエンティティ間で共通）については、141 ページの「共通の SDDC 出力ファイルとフォルダ」を参照してください。

Microsoft Windows での Siebel Server の SDDC 出力

Siebel Server に対して Siebel Diagnostic Data Collector (SDDC) を実行すると、siebsnap ディレクトリ（または設定された出力ディレクトリ）に、Siebel Server のルート出力フォルダがフォーマット `ss_SSyyyy-mm-dd_hh_mm_ss` で作成されます。このフォルダ内に、フォーマット `siebesrvr_server_name` でフォルダが作成されます。ここで、`server_name` は、このユーティリティによって情報が収集された Siebel Server の名前です。ディレクトリの構造と内容は次のとおりです。

```
ss_SSyyyy-mm-dd_hh_mm_ss¥  
    siebesrvr_enterprise-name_server-name¥  
        Readme ファイル  
        Siebsnap ログファイル  
        設定ファイル  
        system_info¥  
        siebel_info¥  
        db_info¥
```

Microsoft Windows での Siebel Gateway Name Server の SDDC 出力

Siebel Gateway Name Server に対して Siebel Diagnostic Data Collector (SDDC) を実行すると、siebsnap ディレクトリ（または設定された出力ディレクトリ）に、Siebel Gateway Name Server のルート出力フォルダがフォーマット `ss_GSyyyy-mm-dd_hh_mm_ss` で作成されます。このフォルダ内に、gateway というフォルダが作成され、ここに Siebel Gateway Name Server の情報が収集されます。ディレクトリの構造と内容は次のとおりです。

```
ss_GSyyyy-mm-dd_hh_mm_ss¥  
    gateway¥  
        Readme ファイル  
        Siebsnap ログファイル  
        設定ファイル  
        system_info¥  
        siebel_info¥
```

Microsoft Windows での Web サーバーの SDDC 出力

Web サーバーに対して Siebel Diagnostic Data Collector (SDDC) を実行すると、siebsnap ディレクトリ（または設定された出力ディレクトリ）に、Web サーバーの出力ルートフォルダがフォーマット `ss_wSyyyy-mm-dd_hh_mm_ss` で作成されます。このフォルダ内に、webserver という名前のフォルダが作成され、ここに Web サーバーと SWSE の情報が収集されます。ディレクトリの構造と内容は次のとおりです。

```
ss_wSyyyy-mm-dd_hh_mm_ss¥
    webserver¥
        Readme ファイル
        Siebsnap ログファイル
        設定ファイル
        system_info¥
        siebel_info¥
        webserverLogs¥
```

UNIX での SDDC 出力

UNIX での Siebel Diagnostic Data Collector (SDDC) の出力は、このユーティリティによって作成されたディレクトリ構造の内部に圧縮されたファイルで構成されています。圧縮ファイルが保存されるデフォルトのディレクトリは、SDDC の実行元のディレクトリです。SDDC 出力の保存場所を別のディレクトリに設定するには、SDDC の実行時にパラメータ `-o` を使用します。UNIX での SDDC ユーティリティの実行については、[137 ページの「UNIX での Siebel Diagnostic Data Collector の実行プロセス」](#)を参照してください。

圧縮出力ファイルの拡張子は `.tar.z` で、SDDC 出力の命名規則を使用して SDDC により作成されたファイル名に付加されます。この命名規則については、[140 ページの「Siebel 環境データの確認」](#)を参照してください。実行中に指定されたログパラメータに基づいて、拡張子 `.logarchive.tar.z`、`asserts.tar.z`、および `logarchive_asserts.tar.z` も使用されます。

各エンティティの出力については、[143 ページの「UNIX での Siebel Server の SDDC Collector 出力」](#)、[143 ページの「UNIX での Siebel Server の SDDC Collector 出力」](#)、および [144 ページの「UNIX での Web サーバーの SDDC 出力」](#)を参照してください。

SDDC 出力のファイルとディレクトリの内容（一部はエンティティ間で共通）については、[141 ページの「共通の SDDC 出力ファイルとフォルダ」](#)を参照してください。

UNIX での Siebel Server の SDDC Collector 出力

Siebel Server に対して Siebel Diagnostic Data Collector (SDDC) を実行すると、デフォルトの出力ディレクトリ（または設定された出力ディレクトリ）に、フォーマット `ss_SS_yyyy-mm-dd_hh_mm_ss.tar.z` で圧縮ファイルが作成されます。SDDC ユーティリティによって収集される情報は、`siebsnap.ini` ファイルのパラメータの設定によって異なります。`siebsnap.ini` ファイルの設定については、[144 ページの「Microsoft Windows での SDDC の内容の設定」](#)を参照してください。

デフォルトでは、Siebel Server での SDDC の実行によって `system_info`、`database_info`、および `Siebel_info` が収集されます。ファイルとディレクトリの内容については、[141 ページの「共通の SDDC 出力ファイルとフォルダ」](#)を参照してください。

UNIX での Siebel Gateway Name Server の SDDC 出力

Siebel Gateway Name Server に対して Siebel Diagnostic Data Collector (SDDC) を実行すると、デフォルトの出力ディレクトリ (または設定された出力ディレクトリ) に、フォーマット `ss_GS_YYYY-MM-DD_HH_MM_SS.tar.Z` で圧縮ファイルが作成されます。SDDC ユーティリティによって収集される情報は、`siebsnap.ini` ファイルのパラメータの設定によって異なります。`siebsnap.ini` ファイルの設定については、[144 ページの「Microsoft Windows での SDDC の内容の設定」](#) を参照してください。

デフォルトでは、Siebel Gateway Name Server での SDDC の実行によって `system_info` と `Siebel_info` が収集されます。ファイルとディレクトリの内容については、[141 ページの「共通の SDDC 出力ファイルとフォルダ」](#) を参照してください。

UNIX での Web サーバーの SDDC 出力

Siebel Web Server に対して Siebel Diagnostic Data Collector (SDDC) を実行すると、デフォルトの出力ディレクトリ (または設定された出力ディレクトリ) に、フォーマット `ss_WS_YYYY-MM-DD_HH_MM_SS.tar.Z` で圧縮ファイルが作成されます。SDDC ユーティリティによって収集される情報は、`siebsnap.ini` ファイルのパラメータの設定によって異なります。`siebsnap.ini` ファイルの設定については、[144 ページの「Microsoft Windows での SDDC の内容の設定」](#) を参照してください。

デフォルトでは、Web サーバーでの SDDC の実行によって、`system_info`、`Siebel_info`、および `Webserver_info` が収集されます。ファイルとディレクトリの内容については、[141 ページの「共通の SDDC 出力ファイルとフォルダ」](#) を参照してください。

Microsoft Windows での SDDC の内容の設定

Microsoft Windows で Siebel Diagnostic Data Collector (SDDC) を設定して、SDDC の実行時に収集する情報量を変更したり増やしたりできます。Microsoft Windows での SDDC 設定ファイルは、SDDC が出力する設定を変更する場合に必要です。設定ファイルは、SDDC の実行時に参照されます。デフォルトでは、設定ファイルは SDDC ユーティリティに含まれていません。設定ファイルを使用する前に、Siebel テクニカルサポートに連絡されることをお勧めします。Siebel テクニカルサポートから、必要な固有の情報に基づいた設定ファイルが提供されます。

UNIX での SDDC の設定については、[150 ページの「UNIX での SDDC の内容の設定」](#) を参照してください。

SDDC 設定ファイルはセクションに分割されており、それぞれを使用して、収集する情報とログファイルのタイプを設定できます。設定ファイルはテキストエディタで編集します。SDDC 設定ファイルのパラメータについては、[表 46](#) を参照してください。

表 46 SDDC 設定ファイルとパラメータ

セクション	パラメータ	指定する内容
[Main]	OutputDirectory	SDDC のディレクトリと出力ファイルが作成されるディレクトリを指定します。
	CollectLog	ログファイルを収集するかどうかを指定します。
	CollectLogArchive	ログアーカイブファイルを収集するかどうかを指定します。
	CollectCrash	crash ファイルを収集するかどうかを指定します。
	CollectStderrFiles	標準エラーファイルを収集するかどうかを指定します。
	CollectDump	ダンプファイルを収集するかどうかを指定します。
	CollectAssert	assert ファイルと prefer ファイルを収集するかどうかを指定します。
	SiebelBinDir	<i>SIEBSRVR_ROOT</i> のバイナリフォルダのディレクトリの場所を指定します。
[Registry]	Key01	収集した情報のレジストリキーを指定します。
	Key02	収集した情報のレジストリキーを指定します。
	Key03	収集した情報のレジストリキーを指定します。
[CrashFiles]	StartDate	crash ファイル収集期間の開始日を指定します。
	EndDate	crash ファイル収集期間の終了日を指定します。
	MatchingFiles	収集する crash ファイルの拡張子を指定します。識別子 FDR (*.fdr など) を指定すると、このセクションで Siebel フライトデータレコーダー (FDR) ファイルの収集を指定できます。
[StderrFiles]	StartDate	標準エラーファイル収集期間の開始日を指定します。
	EndDate	標準エラーファイル収集期間の終了日を指定します。
	MatchingFiles	収集する標準エラーファイルの拡張子を指定します。
[ProcessDump]	StartDate	ダンプファイル収集期間の開始日を指定します。
	EndDate	ダンプファイル収集期間の終了日を指定します。
	MatchingFiles	収集するダンプファイルの拡張子を指定します。
[AssertFiles]	StartDate	assert ファイル収集期間の開始日を指定します。
	EndDate	assert ファイル収集期間の終了日を指定します。
	MatchingFiles	収集する assert ファイルの拡張子を指定します。

表 46 SDDC 設定ファイルとパラメータ

セクション	パラメータ	指定する内容
[LogFiles]	StartDate	ログファイル収集期間の開始日を指定します。
	EndDate	ログファイル収集期間の終了日を指定します。
	MatchingFiles	収集するログファイルの拡張子を指定します。ファイル識別子 SARM (*.sarm など) を指定すると、このセクションで Siebel Application Response Measurement (Siebel ARM) ファイルの収集を指定できます。
[LogArchive]	NumArchives	SDDC が NumArchives ディレクトリからログアーカイブファイルを収集することを指定します。
	MatchingArchiveDir	収集するアーカイブディレクトリを指定します。
[SiebelServer]	LogDir	Siebel Gateway Name Server に接続できない場合に、Siebel Server のログディレクトリを指定します。
	LogArchiveDir	Siebel Gateway Name Server に接続できない場合に、Siebel Server のログアーカイブディレクトリを指定します。
[GatewayServer]	LogDir	ディレクトリ名がデフォルトと異なる場合に Siebel Gateway Name Server を指定します。
[webServer]	SiebelRoot	ディレクトリ名がデフォルトと異なる場合に、Siebel Server のルートディレクトリを指定します。

SDDC パラメータの設定について

パラメータ StartDate、EndDate、および MatchingFiles は、Siebel Diagnostic Data Collector (SDDC) 設定ファイルの複数のセクションで使用されますが、設定の詳細は同じです。詳しくは、表 47 を参照してください。

表 47 共通のパラメータの設定の詳細

共通のパラメータ	設定の詳細
StartDate、 EndDate	<p>これらのパラメータで指定された日付の間のデータを収集します。StartDate と EndDate を設定する場合は、パラメータ MaxNumFiles は設定しません。日付は次のフォーマットで設定します。</p> <p>dd-Month_Acronym-yyyy</p> <p>ここで、各項目はそれぞれ次のようになります。</p> <p>dd = 日を表す 01 ~ 31 の整数値。</p> <p>Month_Acronym = 月を表す 3 文字の略語。Jan、Feb、Mar、Apr、May、Jun、Jul、Aug、Sep、Oct、Nov、Dec のいずれか。</p> <p>yyyy = 年を表す整数値。</p> <p>また、StartDate と EndDate パラメータに対する有効な値として NONE があります。StartDate に NONE を指定し、EndDate に有効な日付を指定した場合、終了日 (EndDate) 以前のファイルが収集されます。EndDate に NONE を指定し、StartDate に有効な日付を指定した場合は、開始日 (StartDate) から現在の日付までのファイルが収集されます。</p>
MatchingFiles	<p>このパラメータにコンマで区切ったリストを指定すると、複数のファイルフォーマットを収集できます。ワイルドカード文字も使用できます。たとえば、ファイル名に siebmtsh を含み、拡張子が .dmp のファイルと、siebmtshmw5409.dmp タイプのファイルを収集する場合には、次のように指定します。</p> <p>MatchingFiles=siebmtsh*.dmp,siebmtshmw5409.dmp</p>

Microsoft Windows での SDDC 設定ファイルの例

次に、Microsoft Windows での Siebel Diagnostic Data Collector (SDDC) 設定ファイルの例を示します。パラメータの説明と設定については、[144ページの「Microsoft WindowsでのSDDCの内容の設定」](#)を参照してください。

[Main]

OutputDirectory=D:\s\752-15051\SWEApp\siebsnap

CollectLog=TRUE

CollectLogArchive=TRUE

CollectCrash=TRUE

CollectStderrFiles=TRUE

CollectDump=TRUE

CollectAssert=TRUE

SiebelBinDir = D:\s\752-15051\SWEApp\bin

[Registry]

Key01 = HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Services\Tcpip\Tag

Key02 = HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Microsoft\Internet Explorer\Version

Key02 =
HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Services\Tcpip\Parameters\MaxHashTableSize

Key03 =
HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Services\Tcpip\Parameters\MaxFreeTcbs

Key04 =
HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Services\Tcpip\Parameters\MaxUserPort

[CrashFiles]

StartDate=05-Jan-2002

EndDate=10-Feb-2004

MatchingFiles = crash*.txt

[StderrFiles]

StartDate=05-Jan-2003

EndDate=10-Jun-2004

MatchingFiles = stderrout_*.txt

```
[ProcessDump]
StartDate=05-Jan-2002
EndDate=10-Dec-2004
MatchingFiles = *.dmp
```

```
[AssertFiles]
StartDate=05-Dec-2002
EndDate=10-Dec-2003
MatchingFiles=siebel_prefer*,siebel_assert*
```

```
[LogFiles]
StartDate=05-Dec-2002
EndDate=10-Dec-2003
MatchingFiles=*.log
```

```
[LogArchiveFiles]
StartDate=05-Dec-2002
EndDate=24-Feb-2003
MatchingFiles=*.log
```

```
[SiebelServer]
LogDir=M:¥siebel¥log
LogArchiveDir=M:¥siebel¥logarchive
```

```
[GatewayServer]
LogDir=M:¥siebel¥log
```

```
[WebServer]
SiebelRoot=M:¥siebel
```

UNIX での SDDC の内容の設定

UNIX で Siebel Diagnostic Data Collector (SDDC) を設定して、SDDC の実行時に収集する情報量を増やすことができます。UNIX での SDDC 出力にすべての設定を記録するには、SDDC INI ファイルを変更します。

SDDC INI ファイル、siebsnap.ini は、Siebel Server のルートディレクトリのバイナリ (bin) サブディレクトリにあります。このファイルを変更するには、UNIX テキストエディタを使用してファイルを開きます。

Microsoft Windows での SDDC の設定については、[144 ページの「Microsoft Windows での SDDC の内容の設定」](#)を参照してください。

診断の拡張情報を収集するように SDDC を設定するには

- 1 テキストエディタを使用して、Siebel Server のルートディレクトリのバイナリ (bin) サブディレクトリにある siebsnap.ini を開きます。
- 2 必要な情報量に基づいて、特定のパラメータを siebsnap.ini で設定します。
SDDC INI ファイルのパラメータについては、[表 48](#) を参照してください。
- 3 siebsnap.ini ファイルを保存します。

表 48 UNIX での siebsnap.ini ファイルの設定パラメータ

INI ファイルのパラメータ	説明	デフォルト
OutputDirectory	SDDC 出力をデフォルト以外のファイル位置に送信するには、このパラメータを設定します。	SDDC の実行元のディレクトリ
CollectLog	ログファイル情報を収集するには、このパラメータを TRUE に設定します。ログファイルについては、 第 3 章「Siebel Server およびコンポーネントログの設定」 を参照してください。	=TRUE
CollectLogArchive	ログアーカイブ情報を収集するには、このパラメータを TRUE に設定します。	=TRUE
CollectCrash	crash ファイル情報を収集するには、このパラメータを TRUE に設定します。	=TRUE
CollectDump	ダンプファイル情報を収集するには、このパラメータを TRUE に設定します。	=TRUE
CollectAssert	assert ファイル情報を収集するには、このパラメータを TRUE に設定します。assert ファイルについては、 92 ページの「その他の Siebel Server ログファイルについて」 を参照してください。	=TRUE
CollectFDR	フライトデータレコーダー (FDR) ファイル情報を収集するには、このパラメータを TRUE に設定します。これらのログファイルについては、 92 ページの「フライトデータレコーダー (FDR) ログファイルについて」 を参照してください。	=TRUE

表 48 UNIX での siebsnap.ini ファイルの設定パラメータ

INI ファイルのパラメータ	説明	デフォルト
CollectSARM	Siebel Application Response Measurement (Siebel ARM) 情報を収集するには、このパラメータを TRUE に設定します。これらの Siebel ARM ファイルについては、『Siebel パフォーマンスチューニングガイド』を参照してください。	=FALSE
CollectQuickFix	クイックフィックスに関する、upgrade.txt、obsolete.txt、incompatible.txt、および log.txt がある場合にそのファイルを収集するには、このパラメータを TRUE に設定します。	=TRUE
FileRetention	このパラメータを、保持する .tar.z ファイルの数に設定します。定期的にシステムのスナップショットを取得し、それらを比較することは有効です。SDDC が FileRetention パラメータで設定された値に達すると、最も古いファイルが上書きされます。	=2
StartDate、EndDate	SDDC ユーティリティが日付の範囲内のファイルを収集できるようにするには、これらのパラメータを設定します。日付値は次のフォーマットで設定します。 dd-Month_Acronym-yy ここで、各項目はそれぞれ次のようになります。 dd = 日を表す 01 ~ 31 の整数値。 Month_Acronym = 月を表す 3 文字の略語。Jan、Feb、Mar、Apr、May、Jun、Jul、Aug、Sep、Oct、Nov、Dec のいずれか。 yy = 年の最後の 2 つの桁を表す整数。 EndDate に値を設定しないと、現在の日付までのすべてのファイルが収集されます。	EndDate = 現在の日付
StartTime、EndTime	これらのパラメータを startDate および endDate パラメータと併せて設定し、SDDC ユーティリティによって収集されるファイルの範囲をさらに絞り込みます。時間値は 24 時間制で設定します。 値を設定しないと、開始時刻はデフォルトで 00:00 になり、終了時刻はデフォルトで 23:59 になります。	StartTime =00:00、 EndTime =23:59

UNIX での SDDC 設定 INI ファイルの例

UNIX での Siebel Diagnostic Data Collector (SDDC) 設定 INI ファイルの内容の例を次に示します。パラメータの説明と設定については、[150 ページの「UNIX での SDDC の内容の設定」](#)を参照してください。

```
OutputDirectory=  
CollectLog=TRUE  
CollectLogArchive=TRUE  
CollectCrash=TRUE  
CollectDump=TRUE  
CollectAssert=TRUE  
CollectFDR=TRUE  
CollectSARM=FALSE  
CollectQuickFix=TRUE  
FileRetention=2  
  
StartDate=01-Jan-03  
StartTime=00:00  
  
EndDate=20-Jan-03  
EndTime=12:59
```


A

統計と状況値のリスト

この付録には、Siebel アプリケーションの統計と状況値に関するリストと簡単な説明が含まれています。これらの基準の詳細情報については、次のトピックを参照してください。

- 19 ページの「Siebel アプリケーションの統計について」
- 20 ページの「Siebel アプリケーションの状況値について」

Siebel Server インフラストラクチャの統計のリスト

表 49 に、Siebel Server インフラストラクチャについて定義されている統計のリストを示します。Siebel アプリケーションの統計の基本情報については、19ページの「Siebelアプリケーションの統計について」を参照してください。

表 49 Siebel Server インフラストラクチャの統計のリスト

統計名	エイリアス	説明
Avg. Transfer Time	SCBAvgTransferTime	コンポーネントに対する接続の平均転送時間
Component Maxed Out Error	SCBCompMaxeOut	コンポーネントがビジー状態のために接続の転送に失敗した回数
Component Unavailable Error	SCBCompOffline	コンポーネントが使用不能なために接続の転送に失敗しました。
Successful Connections	SCBFwdConn	接続の転送に成功しました。
Total Connections	SCBTotalConn	接続試行の総数
Total Transfer Time	SCBTotalTransferTime	コンポーネントに対する接続の転送に費やした時間の合計
FDR Buffer Wraps	FDRWraps	バッファラップの回数
FDR Buffer Life in seconds	FDRBufferLife	バッファを作成してからの経過時間 (秒)
FDR Avg time between aging	FDRagingRate	1 回のバッファラップの平均時間 (秒)
CPU Time	CPUTime	コンポーネントタスクの CPU 時間の合計 (秒)
Elapsed Time	ElapsedTime	コンポーネントタスクの経過 (実行) 時間の合計 (秒)
Maximum Peak Memory Usage	MaxPeakMemory	タスクによって使用されるピークメモリ。 MinPeakMemory とはロールアップの方法が異なります。

表 49 Siebel Server インフラストラクチャの統計のリスト

統計名	エイリアス	説明
Minimum Peak Memory Usage	MinPeakMemory	タスクによって使用されるピークメモリ。MaxPeakMemory とはロールアップの方法が異なります。
Sleep Time	SleepTime	コンポーネントタスクのスリープ時間の合計 (秒)
Number of Sleeps	Sleeps	コンポーネントタスクのスリープ回数の合計
Total Tasks	TotalTasks	サーバーコンポーネントで終了したタスクの総数
Tasks Exceeding Configured Capacity	TskXcdCfgCpt	設定された容量を超えた提示タスクの数
Num of DBConn Retries	NumDBConnRtrs	DB 接続の切断が原因の再試行の回数
Num of DLRbk Retries	NumDLRbkRtrs	デッドロックロールバックが原因の再試行の回数
Num of Exhausted Retries	NumExhstRtrs	再試行の最大回数に達した回数

アプリケーションオブジェクトマネージャの統計のリスト

表 50 で、アプリケーションオブジェクトマネージャ (AOM) に固有の統計について説明します。Siebel アプリケーションの統計の基本情報については、19 ページの「Siebel アプリケーションの統計について」を参照してください。

表 50 では、アプリケーションオブジェクトマネージャセッションセッションは、クライアントと AOM の間のセッションを表しています。セッションは、クライアントが AOM に接続されたときに開始され、接続の切断時に終了します。セッションによって AOM 上のタスクが開始されます。AOM の Multithreaded パラメータが TRUE に設定されている場合は、タスクはスレッドとして実行されます。

備考: Avg SQL Execute Time, Number of SQL Executes, Number of SQL Fetches, および Number of SQL Parses の統計は無視してください。これらは AOM 固有ではありませんが、コンポーネント統計ビューに表示されます。

表 50 AOM の統計のリスト

統計名	エイリアス	説明
Average Connect Time	AvgConnTime	オブジェクトマネージャセッションの平均接続時間
Average Reply Size	AvgRepSize	応答メッセージの平均サイズ (バイト)
Average Request Size	AvgReqSize	リクエストメッセージの平均サイズ (バイト)
Average Requests Per Session	AvgReqs	オブジェクトマネージャセッション1回あたりの平均リクエスト数
Average Response Time	AvgRespTime	オブジェクトマネージャの平均応答時間
Average Think Time	AvgThinkTime	リクエスト間のエンドユーザー平均待ち時間
Total Database Response Time	DBRespTime	データベースの応答/処理時間の合計 (ミリ秒)
Object Manager Errors	Errors	オブジェクトマネージャセッション中に発生したエラーの数
Reply Messages	RepMsgs	サーバーによって送信された応答メッセージの数
Total Reply Size	RepSize	応答メッセージの合計サイズ (バイト)
Request Messages	ReqMsgs	サーバーによって受領されたリクエストメッセージの数
Total Request Size	ReqSize	リクエストメッセージの合計サイズ (バイト)
Total Response Time	RespTime	オブジェクトマネージャの応答時間の合計 (秒)
Total Think Time	ThinkTime	エンドユーザーの待ち時間の合計 (秒)

データベースインフラストラクチャの統計のリスト

表 51 で、データベースインフラストラクチャに固有の統計について説明します。Siebel アプリケーションの統計の基本情報については、19 ページの「Siebel アプリケーションの統計について」を参照してください。

表 51 データベースインフラストラクチャの統計のリスト

統計名	エイリアス	説明
Avg SQL Execute Time	AvgSQLExecTime	SQL 実行オペレーションの平均時間 (秒)
Avg SQL Fetch Time	AvgSQLFetchTime	SQL フェッチオペレーションの平均時間 (秒)
Avg SQL Parse Time	AvgSQLParseTime	SQL 解析オペレーションの平均時間 (秒)
SQL Execute Time	SQLExecTime	SQL 実行オペレーションの経過時間の合計 (秒)
Number of SQL Executes	SQLExecs	SQL 実行オペレーションの総数
SQL Fetch Time	SQLFetchTime	SQL フェッチオペレーションの経過時間の合計 (秒)
Number of SQL Fetches	SQLFetches	SQL フェッチオペレーションの総数
SQL Parse Time	SQLParseTime	SQL 解析オペレーションの経過時間の合計 (秒)
Number of SQL Parses	SQLParses	SQL 解析オペレーションの総数

Siebel EAI の統計のリスト

表 52 で、Siebel EAI に固有の統計について説明します。Siebel アプリケーションの統計の基本情報については、19 ページの「Siebel アプリケーションの統計について」を参照してください。

表 52 Siebel Remote の統計のリスト

統計名	エイリアス	説明
Siebel Adapter Total Query Calls	SiebAdptTotQueryCalls	Siebel Adapter に対するクエリーコールの総数
Siebel Adapter Total Query Size	SiebAdptTotQuerySize	すべてのクエリーの出力プロパティセットの総累積サイズ (KB)
Siebel Adapter Total Sync/Upsert Calls	SiebAdptTotSyncCalls	Siebel Adapter に対する非クエリー (同期、Upsert、更新、または挿入) コール の総数
Siebel Adapter Total Sync Size	SiebAdptTotSyncSize	すべての非クエリーコール (同期、Upsert、更新、または挿入) の入力プロパティセットの総累積サイズ (KB)
EAI Receiver Total Messages Processed	EAIRcvrMsgsProcessed	EAI レシーバによって処理されるメッセージの総数
Total XML Generator Calls	XMLGenTotCalls	XML ジェネレータコールの総数
Total XML Converter Size of Input Buffer	XMLParseTotSize	入力バッファの総累積サイズ (KB)

表 52 Siebel Remote の統計のリスト

統計名	エイリアス	説明
Total XML Converter Size of Output Buffer	XMLGenTotSize	出力バッファの総累積サイズ (KB)
Total XML Parser Calls	XMLParseTotCalls	XML 解析コールの総数

Siebel Remote の統計のリスト

表 53 で、Siebel Remote に固有の統計について説明します。Siebel アプリケーションの統計の基本情報については、19 ページの「Siebel アプリケーションの統計について」を参照してください。

表 53 Siebel Remote の統計のリスト

統計名	エイリアス	統計の説明
Avg node extracted time	AvgTime	1 ノードあたりの平均抽出時間 (秒)
Total nodes extracted	TotNodes	抽出ノードの総数
Total time processing nodes	TotTime	最新ノードの抽出時間の合計 (秒)
Avg node processing time	AvgTime	1 ノードあたりの平均処理時間 (ミリ秒)
Total nodes processed	TotNodes	処理されたノードの総数
Total time processing nodes	TotTime	現在の反復で現在のノードの処理に費やした時間の合計 (ミリ秒)
Monitor Period (in Seconds)	MonitorPeriod	詳細: すべての監視データを収集し、計算する時間 (秒)
Monitor Period (in seconds)	MonitorPeriod	詳細: すべての監視データを収集し、計算する時間 (秒)
Current Operation Processing Rate	OperProcessRate	詳細: 現在のオペレーションの 1 秒あたりの処理数
Current Position-Rule Operation Processing Rate	PostnOperProcessRate	詳細: 現在の位置規則オペレーションの 1 秒あたりの処理数
Current Related Visibility-Event Operation Processing Rate	RelVisOperProcessRate	詳細: 現在の関連表示イベントオペレーションの 1 秒あたりの処理数
Current Visibility-Event Operation Processing Rate	VisOperProcessRate	詳細: 現在の表示イベントオペレーションの 1 秒あたりの処理数

表 53 Siebel Remote の統計のリスト

統計名	エイリアス	統計の説明
Total Operations Processed	TotOper	詳細: 監視期間に処理されたオペレーションの総数
Total Vis-Event Operations Processed	TotVisOper	詳細: 監視期間に処理された表示イベントオペレーションの総数
Total RelVisEvent Operations Processed	TotRelVisOper	詳細: 監視期間に処理された関連表示イベントオペレーションの総数
Total Postn Related Operations Processed	TotPostnOper	詳細: 監視期間に処理された位置規則に関連するオペレーションの総数
Average Time for Processing a Node	AvgTimePerNode	1つのノードの平均処理時間 (ミリ秒)
Total nodes processed	TotNodes	処理されたノードの総数
Total time processing nodes	TotTime	現在の反復で現在のノードの処理に費やした時間の合計 (ミリ秒)
Average Number of Rows Downloaded	AvgDownloadRows	詳細: 監視期間にルーティングされたダウンロード済みレコードの平均数
Total Number of Removed Records	TotRecRemove	詳細: 最後の監視期間にルーティングされた削除済みレコードの総数
Average Number of Removed Records	AvgRemoveRows	詳細: 監視期間にルーティングされた削除済みレコードの平均数
Total Time for Loading Visdata	TotVisdataLoadTime	詳細: 監視期間の表示データのロード時間の合計 (ミリ秒)
Average Time for Loading Visdata	AvgVisdataLoadTime	詳細: 監視期間の表示データの平均ロード時間
Total Time for Visdata Load SQL	TotVisdataLoadSqlTime	詳細: 監視期間に表示データをロードする目的で SQL を実行した時間の合計
Average Time for Visdata Load SQL	AvgVisdataLoadSqlTime	詳細: 監視期間に表示データをロードする目的で SQL を実行した平均時間
Total Visibility Check SQL Statements Executed	TotalVisCheckSQLExe	詳細: 最後の監視期間に表示データデータベースをロードする目的で実行した可視性チェック SQL の総数
Average Time for Waiting Visdata	AvgVisdataWaitTime	詳細: 監視期間の表示データの平均待ち時間
Total Time for Waiting Visdata	TotVisdataWaitTime	詳細: 監視期間の表示データの待ち時間の合計 (ミリ秒)
Average Number of VisCheck Load SQL	AvgVisCheckLoadSql	詳細: 監視期間に表示データをロードする目的で実行した可視性チェック SQL の平均数

表 53 Siebel Remote の統計のリスト

統計名	エイリアス	統計の説明
Total Records Fetched by Visibility Check	TotRecFetchVisCheck	詳細：最後の監視期間に表示データデータベースをロードする目的で実行した可視性チェックによってフェッチされたレコードの総数
Average Number of VisCheck Load Rows	AvgVisCheckLoadRow	詳細：監視期間に表示データをロードする目的でフェッチされた可視性チェック SQL レコードの平均数
Total Number of Visdata Loading	TotVisdataLoads	詳細：監視期間に実行された表示データのロードの総数
Total Number of VisData VisChecks	TotvisdataHit	詳細：監視期間に表示データを使用した可視性チェックの総数
Total Number of Visdata Access	TotVisdataAcc	詳細：監視期間に実行された表示データへのアクセスの総数
Number of Visibility Data Garbage Collection	NumVisDataGC	詳細：最後の監視期間に表示データデータベースで実行された不要データ収集の総数
Total Number of Visdata FSGC	TotVisdataFSGC	詳細：監視期間に実行された表示データのフルスキャンガベージコレクションの総数
Total Number of Visdata RKGCC	TotVisdataRKGCC	詳細：監視期間に実行された表示データのランダム強制終了ガベージコレクションの総数
Hit Ratio of Visibility Data Cache	HitRatioVisData	詳細：最後の監視期間の表示データキャッシュのヒット率
Reconcile-Operations Routed per Period	ReconcileOperRoute	詳細：最後の監視期間にルーティングされた調整オペレーションの総数
Download-Operations Routed per Period	DownloadOperRoute	詳細：最後の監視期間にルーティングされたダウンロードオペレーションの総数
Remove-Operations Routed per Period	RemoveOperRoute	詳細：最後の監視期間にルーティングされた削除オペレーションの総数
Number of Nodes Routed per Second	NumNodeRoute	詳細：最後の監視期間にルーティングされた 1 秒あたりのノード数
Total Number of Opers Processed	TotOpers	詳細：監視期間にルーティングされたオペレーションの総数
Monitor Period (in Seconds)	MonitorPeriod	詳細：すべての監視データを収集し、計算する時間 (秒)
Total Number of Nodes Processed	TotNumNode	詳細：監視期間にルーティングされたノードの総数
Operations Routed per Second	OperRoute	詳細：最後の監視期間にルーティングされた 1 秒あたりのオペレーション数

表 53 Siebel Remote の統計のリスト

統計名	エイリアス	統計の説明
Total Time for TS I/O	TotTSTime	詳細：監視期間の Tall/Skinny ファイルの I/O 時間の合計
Total Number of TS I/O	TotTSAccess	詳細：監視期間の Tall/Skinny ファイルの I/O の総数
Average I/O Time for Tall-Skinny File	AvgIOTSFile	詳細：監視期間の Tall/Skinny ファイルの平均 I/O 時間（ミリ秒）
Total Time for VisData I/O	TotVisdataTime	詳細：監視期間の表示データの I/O 時間の合計（ミリ秒）
Total Number of VisData I/O	TotVisdataAccess	詳細：監視期間の表示データの I/O の総数
Average I/O Time for Visibility Data File	AvgIOVisDataFile	詳細：監視期間の表示データファイルの平均 I/O 時間（ミリ秒）
Total Time for DX File I/O	TotDXFileTime	詳細：監視期間の DX ファイルの I/O 時間の合計
Total Number of DX File I/O	TotDXFileAccess	詳細：監視期間の DX ファイルの I/O の総数
Average I/O Time for DX File	AvgIODXFile	詳細：最後の監視期間の DX ファイルの平均 I/O 時間（ミリ秒）
Total Number of SQLs	TotNumSQLs	詳細：監視期間に実行された SQL の総数
Average Number of SQLs	AvgNumSqls	詳細：監視期間にルーティングされた、オペレーション 1 回あたりの SQL の平均数
Total Time for Visibility Check	TotTimeVisCheck	詳細：最後の監視期間に可視性チェックに費やした時間の合計（ミリ秒）
Average Time for Vis-Check	AvgVisCheckTime	詳細：監視期間にルーティングされたオペレーション 1 回ごとの可視性チェックの平均時間
Total Time for Reconcile	TotReconcileTime	詳細：監視期間に調整に費やした時間の合計
Average Time for Reconcile	AvgReconcileTime	詳細：監視期間に調整に費やした平均時間
Total Time for Performing Related Visibility Check	TotTimeRelVisCheck	詳細：最後の監視期間に関連する可視性チェックの実行に費やした時間の合計（ミリ秒）
Average Time for Related Vis-Check	AvgRelVisCheckTime	詳細：監視期間に関連する可視性チェックに費やした平均時間
Total Time for Download	TotTimeDownload	詳細：最後の監視期間にレコードのダウンロードに費やした時間の合計（ミリ秒）

表 53 Siebel Remote の統計のリスト

統計名	エイリアス	統計の説明
Average Time for Download	AvgDownloadTime	詳細: 監視期間にレコードのダウンロードに費やした平均時間
Total Time for Reconcile VisCheck	TotRecVisCheckTime	詳細: 監視期間に可視性チェックの調整に費やした時間の合計
Average Time for Recocile Vis-Check	AvgRecVisCheckTime	詳細: 監視期間に可視性チェックの調整に費やした平均時間
Total Number of Records Downloaded	TotRecDownload	詳細: 最後の監視期間にルーティングされたダウンロード済みレコードの総数

Communication Server の統計のリスト

表 54 で、Communication Server に固有の統計について説明します。Siebel アプリケーションの統計の基本情報については、19 ページの「[Siebel アプリケーションの統計について](#)」を参照してください。

表 54 Communication Server の統計のリスト

統計名	エイリアス	説明
Events Processed	EventsProcessed	処理されたイベントの総数
Events Processed Rate	EventsProcessedRate	イベントの処理レート

割当マネージャの統計のリスト

表 55 で、割当マネージャに固有の統計について説明します。Siebel アプリケーションの統計の基本情報については、19 ページの「[Siebel アプリケーションの統計について](#)」を参照してください。

表 55 割当マネージャの統計のリスト

統計名	エイリアス	説明
Number of object rows assigned	Number of rows assigned	サーバーを起動してからこのコンポーネントによって割り当てられたレコードの累積数を表します。

Workflow Manager の統計のリスト

表 56 で、Workflow Manager に固有の統計について説明します。Siebel アプリケーションの統計の基本情報については、19 ページの「Siebel アプリケーションの統計について」を参照してください。

表 56 Workflow Manager の統計のリスト

統計名	エイリアス	説明
Number Requests	NumRequests	処理されたリクエストの総数
Policy Violations	Violations	ポリシー違反の総数

Siebel Server インフラストラクチャの状況値のリスト

表 57 で、Siebel Server インフラストラクチャに固有の状況値について説明します。Siebel アプリケーションの状況値の基本情報については、20 ページの「Siebel アプリケーションの状況値について」を参照してください。

表 57 Siebel Server インフラストラクチャの状況値のリスト

状況値名	エイリアス	レベル	説明
Number of notification messages processed	NumNotifyMsgsProcessed	コンポーネント	処理された通知メッセージの数
Number of notification messages received	NumNotifyMsg	コンポーネント	パイプを介して受領した通知メッセージの数
Number of successful notification handler invocations	NumSuccessHndlrNotifications	コンポーネント	通知ハンドラの起動に成功した回数
Number of failed notification handler invocations	NumFailedHndlrNotifications	コンポーネント	通知ハンドラの起動に失敗した回数
Component Disable Time	CompDisableTime	コンポーネント	コンポーネントが無効になったときのタイムスタンプ
Component Enable Time	CompEnableTime	コンポーネント	コンポーネントが最後に有効になったときのタイムスタンプ
Component Start Time	CompStartTime	コンポーネント	コンポーネントが開始されたときのタイムスタンプ
Component Status	CompStatus	コンポーネント	サーバーコンポーネントの現在の状態
Component Stop Time	CompStopTime	コンポーネント	コンポーネントがシャットダウンされたときのタイムスタンプ

表 57 Siebel Server インフラストラクチャの状況値のリスト

状況値名	エイリアス	レベル	説明
Component Tasks	CompTasks	コンポーネント	サーバーコンポーネントについて現在実行されているタスク
Task Idle	TaskIdle	タスク	タスクがアイドル状態の場合は TRUE
Task Label	TaskLabel	タスク	このタスクの識別ラベル
Task Memory Used	TaskMemory	タスク	タスクによる現在のメモリ使用量
Task Pause Time	TaskPauseTime	タスク	タスクが一時停止されたときのタイムスタンプ
Task Start Time	TaskStartTime	タスク	タスクが開始されたときのタイムスタンプ
Task Ping Time	TaskPingTime	タスク	タスクが最後にアクティブであることがわかっていたときのタイムスタンプ
Task Resume Time	TaskResumeTime	タスク	タスクが最後に再開されたときのタイムスタンプ
Task Schedule Time	TaskSchedTime	タスク	タスクがスケジュールされたときのタイムスタンプ
Task Status	TaskStatus	タスク	タスクの現在の状態
Task Stop Time	TaskStopTime	タスク	タスクがシャットダウンされたときのタイムスタンプ
User Name	User	タスク	タスクのデータベースユーザー名
Disk Full State	DiskFullState	コンポーネント	この状況値は、ログ中にディスクがいっぱいになったときに更新されます。
SCB Batch Execution Time	SCBBatchTime	コンポーネント	バッチ CDAction コマンドを実行する秒数
SCB Deregistration time	SCBDeregTime	コンポーネント	最後に登録解除された時刻
Max. Transfer Time	SCBMaxTransferTime	タスク	コンポーネントにする接続の最大転送時間
Min. Transfer Time	SCBMinTransferTime	タスク	コンポーネントにする接続の最小転送時間
Server Non-Essential Tasks	NonEssentialTasks	サーバー	サーバーについて実行されている必須ではないタスクの総数
Server Disable Time	ServerDisableTime	サーバー	Siebel Server が無効になったときのタイムスタンプ
Server Enable Time	ServerEnableTime	サーバー	Siebel Server が最後に有効になったときのタイムスタンプ
Server Start Time	ServerStartTime	サーバー	Siebel Server が開始されたときのタイムスタンプ
Server Status	ServerStatus	サーバー	Siebel Server の現在の状態

表 57 Siebel Server インフラストラクチャの状況値のリスト

状況値名	エイリアス	レベル	説明
Server Stop Time	ServerStopTime	サーバー	Siebel Server がシャットダウンされたときのタイムスタンプ
Server Cipher Strength	SrvrCipherStrength	サーバー	サーバー暗号化キーの長さ（ビット）
Server Tasks	SrvrTasks	サーバー	サーバーについて実行されているタスクの総数
Communication Cipher Strength	ComCipherStrength	コンポーネント	通信暗号化キーの長さ（ビット）

アプリケーションオブジェクトマネージャの状況値のリスト

表 58 は、Application Object Manager (AOM) 固有の状況値を示しています。Siebel アプリケーションの状況値の基本情報については、[20 ページの「Siebel アプリケーションの状況値について」](#)を参照してください。

表 58 アプリケーションオブジェクトマネージャの状況値のリスト

状況値名	エイリアス	レベル	説明
Maximum Reply Size	MaxRepSize	コンポーネント	最大返信メッセージサイズ
Maximum Request Size	MaxReqSize	コンポーネント	最大リクエストメッセージサイズ
Maximum Response Time	MaxRespTime	コンポーネント	任意のオブジェクトマネージャオペレーションの最大応答時間
Applet Name	ObjMgrApplet	タスク	現在のアプレット名
Business Component	ObjMgrBusComp	タスク	現在のビジネスコンポーネント
Business Service	ObjMgrBusSvc	タスク	現在のビジネスサービス
View Name	ObjMgrView	タスク	現在のビュー名
Scripting State	ScriptingState	タスク	現在の VB/eScript スクリプトの状況
Database Login Id	DbLogin	タスク	現在のユーザーのデータベースログイン ID

Siebel EAI の状況値のリスト

表 59 で、タスクレベルの Siebel EAI に固有の状況値について説明します。Siebel アプリケーションの状況値の基本情報については、20 ページの「Siebel アプリケーションの状況値について」を参照してください。

表 59 Siebel EAI の状況値のリスト

状況値名	エイリアス	説明
ディスパッチに失敗した IDOC メッセージの数	NumIdocMsgsDispatchFail	ディスパッチに失敗した IDOC メッセージの総数
Number of IDOC messages successfully dispatched	NumIdocMsgsDispatchSucc	ディスパッチに成功した IDOC メッセージの総数
Number of IDOC messages received	NumIdocMsgsReceived	受領した IDOC メッセージの総数
Number of IDOC messages sent	NumIdocMsgsSent	送信した IDOC メッセージの総数
Number of IDOCs failed to dispatch	NumIdocsDispatchFail	ディスパッチに失敗した IDOC の総数
Number of IDOCs successfully dispatched	NumIdocsDispatchSucc	ディスパッチに成功した IDOC の総数
Number of IDOCs ignored	NumIdocsIgnored	無視された IDOC の総数
Number of IDOCs read	NumIdocsRead	読み込まれた IDOC の総数
Number of IDOCs received	NumIdocsReceived	受領された IDOC の総数
Number of IDOCs sent	NumIdocsSent	送信された IDOC の総数

Siebel Remote の状況値のリスト

表 60 で、タスクレベルの Siebel Remote に固有の状況値について説明します。Siebel アプリケーションの状況値の基本情報については、20 ページの「Siebel アプリケーションの状況値について」を参照してください。

表 60 Siebel Remote の状況値のリスト

状況値名	エイリアス	説明
Current node	CurrNode	抽出されている現在のノード
Current node start time	CurrNodeStart	現在のノードの抽出開始時刻
Max time	MaxTime	ノードの抽出に費やした最大時間 (秒)
Min time	MinTime	ノードの抽出に費やした最小時間 (秒)
Current file num	CurrFileNum	マージする現在のファイル番号
Current node	CurrNode	マージされている現在のノード
First file num	FirstFileNum	マージする最初のファイル番号
Last file num	LastFileNum	マージする最後のファイル番号
Max time	Max Time	ノードの最大処理時間 (ミリ秒)
Min time	MinTime	ノードの最小処理時間 (ミリ秒)
Node iteration	NodeIter	現在のノードを処理する繰り返し回数
Node start time	NodeStarttime	現在のノードの処理開始時刻
Time for Txn to be Merged	TimeTxnMerge	詳細: 最後の監視期間でマージするトランザクションの経過時間 (秒)
Monitor Period (in Seconds)	MonitorPeriod	統計値を計算する期間
Low Scan Mark	LowScanMark	処理を開始する最小のトランザクション ID
Time for Txn to be Processed	TimeTxnProcess	詳細: 最後の監視期間に処理するトランザクションの経過時間 (秒)
Current node	CurrNode	詳細: ルーティングしている現在のノード (モバイルクライアントまたはエリアノード)
Current .dx read file	CurrRFile	読み込んでいる現在の .dx ファイル
Current .dx write file	CurrWFile	書き込んでいる現在の .dx ファイル
Current Transaction Id	CurrTxnId	詳細: ルーティングしている現在のトランザクション ID
Current Node List	CurrNodeList	詳細: ルーティングしているノードの現在のリスト

表 60 Siebel Remote の状況値のリスト

状況値名	エイリアス	説明
Last Update of Node List	LastUpdNodeList	詳細: 使用しているノードリストを最後に更新したときのタイムスタンプ
Time for Transaction to be Routed	TimeTxnRoute	詳細: 最後の監視期間にルーティングするトランザクションの経過時間 (秒)

Communications Server の状況値のリスト

表 61 で、コンポーネントレベルの Communications Server に固有の状況値について説明します。Oracle Siebel アプリケーションの状況値の基本情報については、20 ページの「Siebel アプリケーションの状況値について」を参照してください。

表 61 Communications Server の状況値のリスト

状況値名	エイリアス	説明
Feedback Counter	FeedbackCount	累積されたフィードバックの数
Categorization Engine Initialized	Initializaed	ロードされた KB を含む
Last Update Time	LastUpdateTime	最後に KB を更新した時刻
Number of Response Groups Loaded	NumResponseGroupsLoaded	現在ロードされている応答グループの数
Number of Comm Profiles Loaded	NumComm Profiles Loaded	現在ロードされている応答グループの一部として現在ロードされている通信プロファイルの数
Response Groups Loaded	ResponseGroupsLoaded	現在ロードされている応答グループ
Number of busy work queue threads	NumBusyWorkerThreads	ビジー状態の作業キュースレッドの数
Send Counter	SendCount	送信されたメッセージの数

索引

A

AOM

- 状況値 164
- 統計 154
- ユーザーセッションのマッピング 41

Applications イベント 85

C

ClntLogArchiveCount パラメータ

- 説明 96

ClntLogDirectory パラメータ

- 説明 96

ClntLogFileSize パラメータ

- 説明 96

ClntTraceMode パラメータ

- 設定 96
- 説明 96

ClntTraceUnicode パラメータ

- 説明 96

Close Session Time イベント 85

Communications Server

- 状況値 167
- 統計 161

Current Sessions イベント 85

L

LFA

「Log File Analyzer」を参照

Log File Analyzer

- Log File Analyzer のコマンドの実行について 115
- Log File Analyzer の設定ファイルの例 112
- UNIX での Log File Analyzer の起動 114
- Windows での Log File Analyzer の起動 113
- エラーメッセージ 129
- 起動 113
- クエリーの作成および保存 115
- クエリーのフィルター 122
- 言語に関する注意事項 108
- システムの問題の分析 108
- 終了 128
- 設定 109
- 説明 107
- 特定の期間内のログファイルのクエリー 120
- 特定の時刻よりも後のログファイルのクエリー 119

複数の条件を使用したログファイルのクエリー 121

保存されたクエリーのフィルターの例 122

ユーザーの問題の分析 108

ログファイルでのコンポーネントのクエリー 120

ログファイルでのセッションのクエリー 117

ログファイルでの特定のイベントのクエリー 118

ログファイルでの特定の重大度のクエリー 118

ログファイルでの特定のログサブイベントのクエリー 119

ログファイルでのユーザーのクエリー 115

ログファイルでのリテラル値のクエリー 116

ログファイルの分析プロセス 109

ログファイルの分析方法 108

Log File Analyzer の終了 128

Log File Analyzer の出力の保存 123

Log File Analyzer、管理

クエリーコマンドのキーワードの表示 124

クエリーと実行時の詳細の表示 127

クエリーの中断 124

終了 128

出力のテキストファイルへの保存 123

保存されたクエリー出力の表示 123

保存されたクエリーの結果の削除 126

保存された複数のクエリー出力の表示 124

ログイベント出力の非表示 126

ログイベントの結果の表示 125

ログイベントの表示状態の表示 125

ログファイル情報の表示 128

M

Microsoft Windows

Log File Analyzer の起動 113

Siebel Diagnostic Data Collector コマンドの例 137

Siebel Diagnostic Data Collector 設定ファイルの例 148

Siebel Diagnostic Data Collector の出力 141

Siebel Diagnostic Data Collector の内容の設定 144

Siebel Gateway Name Server の SDDC 出力 142

Siebel Gateway Name Server の情報の収集 135

Siebel Server 情報の収集 135

Siebel Web Server の Siebel Diagnostic Data Collector 出力 143

Siebel 環境データの取得について 135

Web サーバーと SWSE の情報の収集 135

プロセス ID 番号の識別 41

O

- Open Session Time イベント** 85
- Open Session Time イベント Response Time イベント** 85

R

- Request Time イベント** 85

S

SARM ヒストグラム

説明 73

SDDC

「Siebel Diagnostic Data Collector」を参照

SEBLCL_LOGARCHIVECOUNT パラメータ

説明 96

SEBLCL_LOGDIR パラメータ

説明 96

SEBLCL_LOGFILESIZE パラメータ

説明 96

SEBLCL_TRACEMODE パラメータ

設定 96

説明 96

SEBLCL_TRACEUNICODE パラメータ

説明 96

Server Manager の GUI

OS PID の識別 40

Siebel Enterprise Server の状態の監視に使用 20

Server Manager の GUI、監視

Siebel Server コンポーネントグループ 23

Siebel Server コンポーネントタスク 29

Siebel Server コンポーネントタスクの状況 31

Siebel Server コンポーネントの状況値 28

Siebel Server コンポーネントの状態 27

Siebel Server コンポーネントの統計 29

Siebel Server タスク 26

Siebel Server の状況 22

Siebel Server の統計 24

Siebel Server ユーザーセッション 25

サーバーコンポーネントタスクの状況値 33

サーバーコンポーネントタスクのログファイル 32

サーバーコンポーネントの統計 33

ユーザーセッションの状況 35

ユーザーセッションの状況値 37

ユーザーセッションの統計 38

ユーザーセッションのログファイル 36

Server Manager の GUI、設定

Siebel Server イベントタイプ 47

コンポーネントイベントタイプ 51

Siebel Diagnostic Data Collector

UNIX 環境の準備 138

UNIX コマンドの例 139

UNIX での Siebel Server 情報の収集について 137

UNIX での実行 138

UNIX での実行プロセス 137

UNIX での出力 143

UNIX での内容の設定 150

Windows コマンドの例 137

Windows での Siebel Gateway Name Server の情報の収集 135

Windows での Siebel Server 情報の収集 135

Windows での Web サーバーと SWSE の情報の収集 135

Windows での出力 141

Windows でのデータの取得について 135

Windows での内容の設定 144

共通の出力ファイルとフォルダ 141

出力ファイルの確認 140

設定 INI ファイルの例 152

設定ファイルの例 148

説明 133

Siebel EAI

状況値 165

統計 156

Siebel Enterprise Server、状態の監視 20**Siebel Gateway Name Server**

UNIX での Siebel Diagnostic Data Collector の出力 144

UNIX での情報の収集 138

UNIX での情報の収集について 137

Windows での Siebel Diagnostic Data Collector の出力 142

Windows での情報の収集 135

Siebel Remote

状況値 166

統計 157

Siebel Server

UNIX での Siebel Diagnostic Data Collector の出力 143

UNIX での情報の収集 138

UNIX での情報の収集について 137

Windows での Siebel Diagnostic Data Collector の出力 141

Windows での情報の収集 135

イベントログの表示 49

インフラストラクチャの状況値 162

コンポーネントタスクの統計について 19

マルチスレッドプロセス、最小化の説明 15

Siebel Server イベントタイプ

Siebel Server イベントタイプの設定 47

Siebel Server イベントログの表示 49

Siebel Server 起動ログファイルの例 49

管理について 47

Siebel Server 起動ログファイルの例 49**Siebel Server コンポーネントグループ**

Server Manager の GUI での監視 23

srvrmgr での監視 23

監視 22

- Siebel Server コンポーネントタスク**
 - Server Manager の GUI での監視 29
 - svrvmgr での監視 30
- Siebel Server コンポーネントタスクの状況**
 - Server Manager の GUI での監視 31
 - svrvmgr での監視 32
- Siebel Server コンポーネントタスクの状態、監視について** 31
- Siebel Server コンポーネントの状況値**
 - Server Manager の GUI での監視 28
 - svrvmgr での監視 29
- Siebel Server コンポーネントの状態**
 - Server Manager の GUI での監視 27
 - svrvmgr での監視 28
 - 監視について 27
- Siebel Server コンポーネントの統計**
 - Server Manager の GUI での監視 29
 - svrvmgr での監視 29
- Siebel Server タスク**
 - Siebel Server Manager の GUI での監視 26
 - svrvmgr でのユーザーセッションの監視 26
- Siebel Server タスク ID、説明** 18
- Siebel Server の状態**
 - Server Manager の GUI での状況の監視 22
 - svrvmgr での状況の監視 22
 - 監視について 21
 - 状況のリスト 22
- Siebel Server の統計**
 - Server Manager の GUI での監視 24
 - svrvmgr での監視 24
- Siebel Server ユーザーセッション**
 - Server Manager の GUI での監視 25
 - svrvmgr での監視 25
- Siebel Server ランタイムオペレーション、監視**
 - OS での PID の確認 41
 - Server Manager の GUI での Siebel Server ログファイル 24
 - Server Manager の GUI でのコンポーネントグループ 23
 - Server Manager の GUI での状況 22
 - Siebel Enterprise Server の状態 20
 - Siebel Server コンポーネントグループ 22
 - Siebel Server コンポーネントタスク 29
 - Siebel Server コンポーネントタスクの状況 31
 - Siebel Server コンポーネントタスクの状態 31
 - Siebel Server コンポーネントの状況 27
 - Siebel Server コンポーネントの状況値 28
 - Siebel Server コンポーネントの状態 27
 - Siebel Server コンポーネントの統計 29
 - Siebel Server タスク 26
 - Siebel Server の状況 22
 - Siebel Server の状態の監視について 21
 - Siebel Server の統計 24
 - Siebel Server ログファイルの監視について 23
- Siebel ユーザーセッション 25
- Siebel ランタイムデータを使用したデータの分析 38
- svrvmgr でのコンポーネントグループ 23
- svrvmgr での状況 22
- サーバーコンポーネントタスクの状況値 33
- サーバーコンポーネントタスクのログファイル 32
- サーバーコンポーネントの統計 33
- タスクと OS データとのマッピングプロセス 39
- タスクの OS PID の識別 40
- タスクログファイルの識別 38
- ユーザーセッションについて 19
- ユーザーセッションの Siebel Server または AOM へのマッピング 41
- ユーザーセッションの状況 35
- ユーザーセッションの状況値 37
- ユーザーセッションの状態の監視について 34
- ユーザーセッションの統計 38
- ユーザーセッションのログファイル 36
- Siebel Server ログファイル**
 - OS PID の識別 40
 - Server Manager の GUI での監視 24
 - 監視について 23
 - 説明 46
 - タスクログファイルの識別 38
- Siebel Server、タスク管理**
 - Siebel Server タスク ID、説明 18
- Siebel Server、ユーザーセッションのマッピング** 41
- Siebel Web Server**
 - UNIX での Siebel Diagnostic Data Collector の出力 144
 - UNIX での情報の収集 138
 - UNIX での情報の収集について 137
 - Windows での Siebel Diagnostic Data Collector の出力 143
 - Windows での情報の収集 135
- Siebel Web Server Extension**
 - Statistics ページの各項目 85
 - Statistics ページについて 81
 - Statistics ページの設定 83
 - Statistics ページの表示 84
 - UNIX での情報の収集 138
 - UNIX での情報の収集について 137
 - Windows での情報の収集 135
 - アプリケーション統計ページの例 86
 - 現在のオペレーションの処理の例 87
 - 現在の統計ページの例 86
 - システム統計ページの例 86
 - 統計ページの冗長オプション 84
 - 統計ページのリセットオプション 84
 - ロック統計ページの例 87
- Siebel アプリケーションの状況値**
 - Communications Server の状況値 167
 - Siebel EAI の状況値 165

Siebel Remote の状況値 166
 Siebel Server インフラストラクチャの状況値 162
 アプリケーションオブジェクトマネージャの状況値 164
 説明 20

Siebel アプリケーションの統計

Communications Server の統計 161
 Siebel EAI の統計 156
 Siebel Remote の統計 157
 Workflow Manager の統計 162
 アプリケーションオブジェクトマネージャの統計 154
 説明 19

データベースインフラストラクチャの統計 156
 割当マネージャの統計 161

Siebel 環境データ、取得

Siebel Diagnostic Data Collector 設定 INI ファイルの例 152
 Siebel Diagnostic Data Collector 設定ファイルの例 148
 Siebel Diagnostic Data Collector について 133
 Siebel Diagnostic Data Collector を使用するための UNIX 環境の準備 138
 UNIX コマンドの例 139
 UNIX での Siebel Diagnostic Data Collector の実行 138
 UNIX での Siebel Diagnostic Data Collector の実行プロセス 137
 UNIX での Siebel Diagnostic Data Collector の内容の設定 150
 UNIX での Siebel Server 情報の収集について 137
 UNIX での出力 143
 Windows コマンドの例 137
 Windows での Siebel Diagnostic Data Collector の内容の設定 144
 Windows での Siebel Gateway Name Server の情報の収集 135
 Windows での Siebel Server 情報の収集 135
 Windows での Web サーバーと SWSE の情報の収集 135
 Windows での出力 141
 Windows でのデータの取得について 135
 共通の出力ファイルとフォルダ 141
 出力ファイルの確認 140

Siebel 管理フレームワークのアーキテクチャ

説明 61

Siebel 診断ツール

起動 67
 クエリーパラメータフィールド 68
 使用のための前提条件 66
 設定の指定 69
 説明 64

Siebel ランタイムデータ

Server Manager の GUI からの OS PID の識別 40
 Siebel Server ログファイルからの OS PID の識別 40
 UNIX での PID 番号の確認 41
 Windows での PID 番号の確認 41
 使用したシステムデータの分析について 38
 タスクと OS データとのマッピングプロセス 39
 タスクログファイルからの OS PID 40
 タスクログファイルの識別 38
 ユーザーセッションの Siebel Server または AOM へのマッピング 41

svrvmgr

Siebel Enterprise Server の状態の監視に使用 20
 Siebel Server イベントタイプの表示 48
 コンポーネントイベントタイプの表示 52

svrvmgr、監視

Siebel Server コンポーネントタスク 30
 Siebel Server コンポーネントタスクの状況 32
 Siebel Server コンポーネントの状況値 29
 Siebel Server コンポーネントの状態 28
 Siebel Server コンポーネントの統計 29
 Siebel Server タスクのユーザーセッション 26
 Siebel Server の状況 22
 Siebel Server の統計 24
 Siebel Server ユーザーセッション 25
 サーバーコンポーネントタスクの状況値 33
 サーバーコンポーネントの統計 33
 ユーザーセッションの状況 36
 ユーザーセッションの状況値 37
 ユーザーセッションの統計 38

svrvmgr、設定

Siebel Server イベントタイプ 48
 コンポーネントイベントタイプ 52

SWSE

「Siebel Web Server Extension」も参照

U

UNIX

Log File Analyzer の起動 114
 Siebel Diagnostic Data Collector コマンドの例 139
 Siebel Diagnostic Data Collector の実行 138
 Siebel Diagnostic Data Collector の実行プロセス 137
 Siebel Diagnostic Data Collector の出力について 143
 Siebel Diagnostic Data Collector の内容の設定 150
 Siebel Diagnostic Data Collector を使用するための環境の準備 138
 Siebel Gateway Name Server の SDDC 出力 144
 Siebel Server の SDDC 出力 143

Siebel Server の情報の収集について 137
 Siebel Web Server の Siebel Diagnostic Data
 Collector 出力 144
 設定 INI ファイルの例 152
 プロセス ID 番号の識別 41

W

Web サーバー

「Siebel Web Server」を参照

Windows

Log File Analyzer の起動 113
 Siebel Diagnostic Data Collector コマンド
 の例 137
 Siebel Diagnostic Data Collector 設定ファイル
 の例 148
 Siebel Diagnostic Data Collector の出力 141
 Siebel Diagnostic Data Collector の内容の
 設定 144
 Siebel Gateway Name Server の SDDC 出力 142
 Siebel Gateway Name Server の情報の収集 135
 Siebel Server 情報の収集 135
 Siebel Web Server の Siebel Diagnostic Data
 Collector 出力 143
 Siebel 環境データの取得について 135
 Web サーバーと SWSE の情報の収集 135
 プロセス ID 番号の識別 41

Workflow Manager の統計 162

あ

アプリケーションオブジェクトマネージャ

「AOM」を参照

い

イベント属性、説明 45

イベントログの要素 44

イベントログ分析

使用 69

イベントログ、管理

Siebel Server イベントタイプの管理について 47
 Siebel Server イベントタイプの設定 47
 Siebel Server イベントログの表示 49
 Siebel Server 起動ログファイルの例 49
 Siebel Server ログファイルについて 46
 イベント属性とログファイルフォーマットにつ
 いて 45
 イベントとイベントログについて 43
 イベントログの要素について 44
 コンポーネントイベントタイプの管理について 51
 コンポーネントイベントタイプの設定 51
 コンポーネントイベントログの表示 53
 コンポーネントエラーログファイルの例 55
 コンポーネント起動ログファイルの例 53
 コンポーネントログファイルについて 47

サーバーリクエストブローカーのログファイル
 の例 54

詳細なコンポーネントログファイルの例 56
イベント、説明 43

え

エラーメッセージ、Log File Analyzer 129

お

応答時間の線グラフ

説明 77

オペレーティングシステム

UNIX でのプロセス ID 番号の識別 41

Windows でのプロセス ID 番号の識別 41

タスクと OS データとのマッピングプロセス 39

タスクのプロセス ID 番号の識別 40

く

クエリー

Log File Analyzer のクエリーの中断 124

クエリーコマンドのキーワードの表示 124

日付範囲 70

表示と実行時の詳細 127

保存されたクエリー出力の表示 123

保存されたクエリーの結果の削除 126

保存された複数のクエリー出力の表示 124

こ

コマンドラインインターフェイス、コンポーネントタイ プの設定 52

コンポーネントイベントタイプ、管理

コンポーネントイベントタイプの設定 51

コンポーネントイベントログの表示 53

コンポーネントエラーログファイルの例 55

コンポーネント起動ログファイルの例 53

サーバーリクエストブローカーのログファイル
 の例 54

詳細なコンポーネントログファイルの例 56
 説明 51

コンポーネントイベントログ

コンポーネントエラーログファイルの例 55

コンポーネント起動ログファイルの例 53

サーバーリクエストブローカーのログファイル
 の例 54

詳細なコンポーネントログファイルの例 56
 表示 53

コンポーネントグループの一部オフライン状況、説明 13

コンポーネントグループの一部シャットダウン状況、 説明 13

コンポーネントグループのオフライン状況、説明 13

コンポーネントグループのオンライン状況、説明 13

コンポーネントグループの開始中状況、説明 13

- コンポーネントグループの起動中状況、説明 13
- コンポーネントグループのシャットダウン状況、説明 13
- コンポーネントグループ、管理
 - Min MT Servers パラメータの設定による無効化 15
 - コンポーネントの各索引項目も参照
 - サーバーコンポーネント、状況 14
- コンポーネント固有の状況値、説明 20
- コンポーネント固有の統計、説明 19
- コンポーネントのオフライン状況、説明 15
- コンポーネントのオンライン状況、説明 14
- コンポーネントの起動中状況、説明 14
- コンポーネントのシャットダウン状況、説明 15
- コンポーネントログファイル、説明 47

さ

- サーバーコンポーネント
 - 状況、説明 14
- サーバーコンポーネントタスクの状況値
 - Server Manager の GUI での監視 33
 - svrmgr での監視 33
- サーバーコンポーネントタスクのログファイル、監視 32
- サーバーコンポーネントの統計
 - Server Manager の GUI での監視 33
 - svrmgr での監視 33
- サーバータスクの一時停止状態、説明 16
- サーバータスクの完了状態、説明 17
- サーバータスクの起動中状態、説明 16
- サーバーのシャットダウン状況、説明 12
- サーバーパフォーマンス分析
 - 使用 73
- サービスの起動中状況、説明 12
- サブシステムの状況値、説明 20
- サブシステムの統計、説明 19

し

- 実行時の詳細
 - Log File Analyzer の表示 127
 - Log File Analyzer を使用した情報の表示 128
- 状況値
 - Communications Server の状況値 167
 - Siebel EAI の状況値 165
 - Siebel Remote の状況値 166
 - アプリケーションオブジェクトマネージャの状況値 164
 - コンポーネント固有の状況値 20
- 診断ツールの使用
 - Siebel 診断ツールについて 64

た

- タスク ID、説明 18
- タスクログファイル、OS PID の識別 40

て

- 停止中
 - サーバータスクの停止中状態、説明 16
- データベースインフラストラクチャの統計 156

と

- 統計
 - Communications Server の統計 161
 - Siebel EAI の統計 156
 - Siebel Remote の統計 157
 - Siebel Server コンポーネントタスクの統計について 19
 - Workflow Manager の統計 162
 - アプリケーションオブジェクトマネージャの統計 154
 - データベースインフラストラクチャの統計 156
 - 割当マネージャの統計 161

は

- ハイインタラクティビティ用のクライアント側ログ
 - SiebelLogs ログファイルの表示 102
 - アーカイブ 105
 - 機能 95
 - コマンドラインインターフェイスを使用した有効化の例 97
 - 説明 94
 - データ形式 98
 - トレースエリア 101
 - 有効化と無効化 96
 - ログシーケンスの例 105
 - ログの例（エリア別） 103
 - ログファイルの名前 98
 - ログファイルヘッダー 99
- ハイインタラクティビティ用のクライアント側ログのトレース
 - トレースおよびイベントログレベルの設定 100
- ハイインタラクティビティ用のクライアント側ログファイル
 - 説明 98

ひ

- 日付範囲クエリー
 - 説明 70

ほ

- 保存されたクエリーの結果の削除 126

ま

- マルチスレッドプロセス、コンポーネントの無効化による最小化 15

ゆ

ユーザーセッション

- Server Manager の GUI でのログファイルの監視 36
- Siebel Server の監視 25

ユーザーセッションの状況

- Server Manager の GUI での監視 35
- svrmgr での監視 36

ユーザーセッションの状況値

- Server Manager の GUI での監視 37
- svrmgr での監視 37

ユーザーセッションの状態

- 監視について 34
- ユーザーセッションについて 19

ユーザーセッションの統計

- Server Manager の GUI での監視 38
- svrmgr での監視 38

ユーザーパフォーマンス分析

- 使用 77

ろ

ログイベント

- 結果の表示 125
- 出力の非表示 126
- 表示状態の表示 125

ログファイル

- Log File Analyzer を使用した情報の表示 128
- Siebel Server ログファイル 46
- Siebel Server ログファイルの監視 23
- イベント属性とログファイルフォーマット 45
- コンポーネントログファイルについて 47

ログファイルのクエリー

- Log File Analyzer について 107
- Log File Analyzer の起動 113
- Log File Analyzer のクエリーの作成および保存 115
- Log File Analyzer のクエリーのフィルター 122
- Log File Analyzer の言語に関する注意事項 108
- Log File Analyzer のコマンドの実行について 115

- Log File Analyzer の設定 109
- Log File Analyzer の設定ファイルの例 112
- UNIX での Log File Analyzer の起動 114
- Windows での Log File Analyzer の起動 113
- システムの問題の分析 108
- 特定の期間内のログファイルのクエリー 120
- 特定の時刻よりも後のログファイルのクエリー 119
- 複数の条件を使用したログファイルのクエリー 121
- 保存されたクエリーのフィルターの例 122
- ユーザーの問題の分析 108
- ログファイルでのコンポーネントのクエリー 120
- ログファイルでのセッションのクエリー 117
- ログファイルでの特定のイベントのクエリー 118
- ログファイルでの特定の重大度のクエリー 118
- ログファイルでの特定のログサブイベントのクエリー 119
- ログファイルでのユーザーのクエリー 115
- ログファイルでのリテラル値のクエリー 116
- ログファイルの分析プロセス 109
- ログファイルの分析方法 108

ログファイル、クエリー

- Log File Analyzer のクエリーのフィルター 122
- 特定の期間内のログファイル 120
- 特定の時刻よりも後のログファイル 119
- 複数の条件を使用したログファイル 121
- 保存されたクエリーのフィルターの例 122
- ログファイルでのコンポーネントのクエリー 120
- ログファイルでのセッション 117
- ログファイルでの特定のイベント 118
- ログファイルでの特定の重大度 118
- ログファイルでの特定のログサブイベント 119
- ログファイルでのユーザー 115
- ログファイルでのリテラル値 116

わ

割当マネージャの統計 161

